

# ※※ 注意 ※※

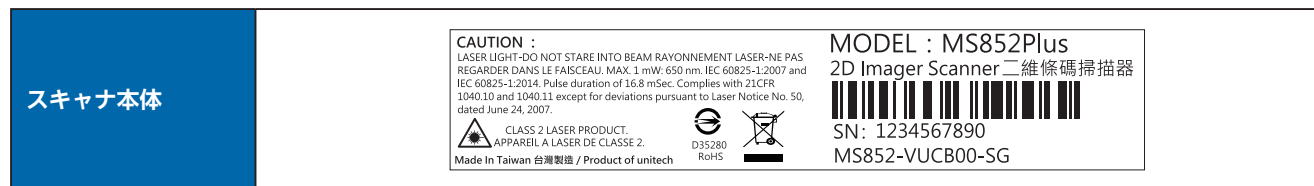
本書に記載されている設定バーコードは **MS852 Plus** (AUTO SWITCHING 機能なし) のみで使用できる設定です。下記のリストに記された製品以外では使用できません。該当製品以外に適用した場合は、例え同じ系統の製品でも操作不能となる場合があります。

## 対象製品リスト

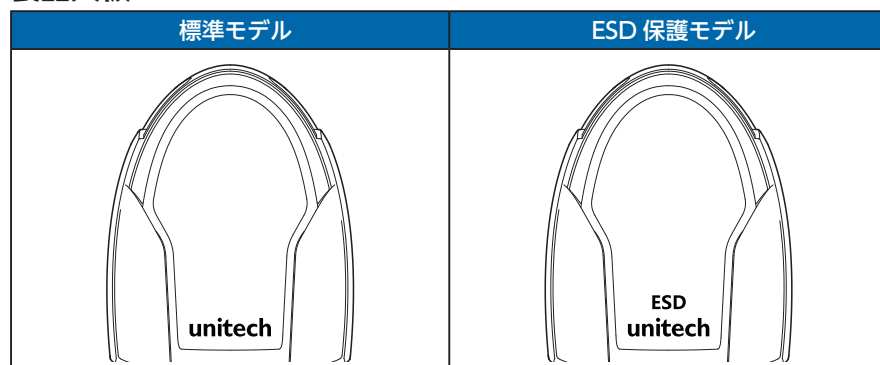
モデル名	インターフェース	AUTO SWITCHING	備考
MS852-VUCB00-SG	USB	非対応	
MS852-VRCB00-SG	RS232	非対応	
MS852-ZUCB00-SG	USB	非対応	高解像度モデル
MS852-ZRCB00-SG	RS232	非対応	高解像度モデル
MS852-ZUCB00-LG	USB	非対応	高解像度モデル ESD 保護モデル
MS852-ZUCL00-HG	USB	非対応	高解像度モデル ヘルスケアモデル

## 対象製品の確認方法

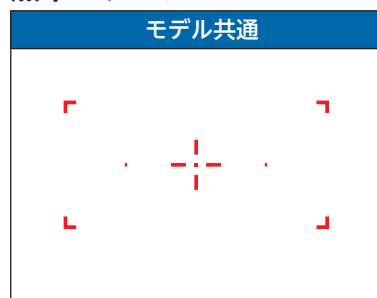
スキャナ本体のトリガー付近または製品箱の製品ラベルをご確認ください。



## 製品天板のロゴ



## 照準パターン



# 高性能二次元バーコードスキャナ

## MS852 Plus

### ユーザーマニュアル



ヘルスケアモデル

# 1. 目次

<b>1. 目次</b> .....	<b>3</b>
<b>2. はじめに</b> .....	<b>17</b>
2.1. 改訂履歴.....	17
2.2. 本マニュアルについて.....	18
2.3. 各認証について.....	18
2.3.1. 電波障害自主規制.....	18
2.3.2. RoHS について.....	18
2.4. 製品操作と保管について.....	18
2.5. 電源アダプタについて.....	18
2.6. レーザーについて.....	19
2.7. ESD 保護モデルについて.....	19
2.8. ヘルスケアモデルについて.....	19
2.9. サービス・サポートについて.....	20
2.9.1. メーカー標準保証期間.....	20
2.9.2. 初期不良について.....	20
2.9.3. 修理保守サービスについて.....	20
2.10. 各部名称.....	21
2.10.1. MS852 Plus 本体.....	21
2.11. インターフェースケーブル.....	22
2.11.1. インターフェイスポートの信号.....	22
2.11.2. D-SUB 9 コネクタの信号.....	22
2.11.3. USB インターフェースケーブル (1550-900127G).....	23
2.11.4. ESD 保護 USB インターフェースケーブル (1550-900093G).....	23
2.11.5. ヘルスケア USB インターフェースケーブル (1550-905903G).....	23
2.11.6. マイクロ USB インターフェースケーブル (1550-900084G).....	23
2.11.7. RS232C インターフェースケーブル (1550-900060G).....	23
2.12. パッケージ内容.....	24
2.13. アクセサリ (別売).....	25
<b>3. 基本操作</b> .....	<b>26</b>
3.1. ホストとの接続概要.....	26
3.1.1. USB ケーブルでの接続.....	26
3.1.2. RS232 ケーブルでの接続.....	26
3.2. インターフェースケーブルの交換.....	27
3.3. ハンドフリースタンドへの設置.....	27
3.4. LED インジケータ.....	28
3.5. ブザーインジケータ.....	28

3.6. 基本的なバーコードの読取り方 .....	29
3.7. 日本語出力への対応について .....	29
<b>4. 仕様 .....</b>	<b>30</b>
<b>5. 対応シンボル .....</b>	<b>32</b>
<b>6. 設定方法について .....</b>	<b>33</b>
<b>7. システム設定 .....</b>	<b>34</b>
7.1. カスタム設定への初期化 .....	34
7.2. カスタムデフォルトの作成 .....	35
7.3. カスタムデフォルトの起動 .....	35
7.4. カスタムデフォルトの削除 (工場出荷デフォルト) .....	36
7.5. デコーダバージョンの表示 .....	36
7.6. スキャンドライババージョンの表示 .....	36
7.7. ソフトウェアバージョンの表示 .....	37
7.8. データ編集の表示 .....	37
7.9. テストメニュー .....	37
<b>8. USB インタフェース設定 .....</b>	<b>38</b>
8.1. USB デバイスタイプ .....	38
8.1.1. USB IBM SurePos .....	38
8.1.2. USB PC またはマッキントッシュキーボード .....	39
8.1.3. USB HID POS .....	39
8.1.4. USB CDC ホスト (USB 仮想 COM エミュレーション) .....	40
8.1.4.1. CTS/RTS エミュレーション .....	40
8.1.4.2. ACK/NAK モード .....	40
8.2. キーボードレイアウト .....	41
8.3. キーボードスタイル .....	52
8.4. 大文字・小文字変換 .....	53
8.5. 制御文字出力 .....	54
8.6. キーボード出力の変更 .....	54
8.6.1. ターボモード .....	55
8.6.2. テンキーモード .....	55
8.6.3. 自動直接接続モード .....	56
8.6.4. HEX 変換出力 .....	56
<b>9. RS232 インタフェース設定 .....</b>	<b>57</b>
9.1. RS232 シリアルポート .....	57
9.2. RS232 初期化 .....	57
9.3. RS232 ボーレート .....	58
9.4. RS232 データビット、ストップビット、パリティ .....	60

9.5. RS232 レシーバタイムアウト.....	61
9.6. RS232 ハンドシェイク .....	62
9.7. RS232 タイムアウト .....	63
9.8. RS232 XON/XOFF .....	63
9.9. RS232 ACK/NAK.....	64
<b>10. 入出力設定.....</b>	<b>65</b>
10.1. 電源投入時のビープ音 .....	65
10.2. [BEL] 文字とビープ音 .....	65
10.3. トリガークリック音.....	66
10.4. 読取り成功とエラーの表示 .....	66
10.4.1. ビープ音の鳴動 (読取り成功) .....	66
10.4.2. ビープ音の音量 (読取り成功) .....	67
10.4.3. ビープ音の音程 (読取り成功) .....	68
10.4.4. ビープ音の音程 (エラー) .....	68
10.4.5. ビープ音の鳴動時間 (読取り成功) .....	69
10.4.6. LED の明滅 (読取り成功) .....	69
10.4.7. ビープ音の鳴動回数 (読取り成功) .....	70
10.4.8. ビープ音の鳴動回数 (エラー) .....	70
10.5. 読取り遅延 .....	71
10.5.1. ユーザー定義の読取り遅延 .....	71
10.6. マニュアルトリガーモード .....	72
10.6.1. シングルコードセンタリング .....	72
10.6.2. カスタムセンタリング .....	73
10.7. プレゼンテーションモード .....	75
10.7.1. 読取り成功後のプレゼンテーション LED 動作 .....	75
10.7.2. プレゼンテーション感度 .....	76
10.7.3. プレゼンテーションセンタリング .....	77
10.8. ストリーミングプレゼンテーションモード .....	79
10.9. ホストトリガーモード .....	80
10.9.1. 文字によるトリガーの有効化.....	80
10.9.2. 文字によるトリガーの無効化.....	80
10.9.3. 有効化文字 .....	81
10.9.4. 無効化文字 .....	81
10.9.5. ホストトリガータイムアウト.....	81
10.9.6. 読取り成功後のトリガー状態.....	82
10.10. 複数シンボル読込み.....	82
10.11. LED 照明.....	83
10.12. 照準パターン .....	83
10.12.1. 照準モード .....	83

10.12.2. 照準遅延時間 .....	84
10.12.2.1. ユーザー定義の照準遅延時間 .....	84
10.12.3. 照準照射時間 .....	85
10.12.3.1. ユーザー定義の照準照射時間 .....	85
10.13. スマートフォン画面読取りモード .....	86
10.14. ハンドフリータイムアウト .....	86
10.15. CodeGate .....	87
10.16. 二重読取り防止遅延時間 .....	88
10.16.1. ユーザー定義の二重読取り防止遅延時間 .....	88
10.17. 2次元バーコードの二重読取り防止遅延時間 .....	89
10.18. 「読取なし」メッセージ .....	90
<b>11. 優先シンボル .....</b>	<b>91</b>
11.1. 優先シンボルの使用 .....	91
11.2. 高優先度のシンボル .....	92
11.3. 低優先度のシンボル .....	92
11.4. 優先シンボルタイムアウト .....	92
11.5. 優先シンボルの初期化 .....	93
<b>12. データ出力順序 .....</b>	<b>94</b>
12.1. はじめに .....	94
12.2. データ出力順序の使用 .....	94
12.3. データ出力順序の初期化 .....	95
12.4. データ出力順序を編集する .....	95
12.4.1. 書籍用二段 JAN コードの編集例 .....	96
<b>13. プリフィックス / サフィックス .....</b>	<b>97</b>
13.1. はじめに .....	97
13.2. 留意点 .....	97
13.3. 追加 / 消去方法 .....	98
13.3.1. プリフィックスまたはサフィックスの追加 .....	98
13.3.2. プリフィックスまたはサフィックスの消去 .....	98
13.3.3. 例：特定のシンボルにサフィックスを追加する .....	99
13.4. プリフィックスの送信 .....	100
13.5. サフィックスの送信 .....	100
13.6. プリフィックス .....	101
13.7. サフィックス .....	101
13.8. クイック設定 .....	102
13.8.1. すべてのシンボルにコード ID プリフィックスを追加（一時的） .....	102
13.8.2. すべてのシンボルに AIM ID プリフィックスを追加（一時的） .....	102

13.8.3. すべてのシンボルに CR サフィックスを追加 .....	102
13.8.4. USB 通信でよく使われるプリフィックスとサフィックス .....	103
13.8.5. シリアル通信でよく使われるプリフィックスとサフィックス .....	104
13.9. 機能コード送信 .....	104
<b>14. 文字間、機能間、データ間遅延 .....</b>	<b>105</b>
14.1. 文字間遅延 .....	105
14.1.1. ユーザー定義の文字間遅延 .....	106
14.2. 機能間遅延 .....	107
14.3. データ間遅延 .....	107
<b>15. データ編集 .....</b>	<b>108</b>
15.1. はじめに .....	108
15.2. 編集フォーマットの作成 .....	109
15.3. 編集フォーマットの削除 .....	111
15.4. 編集コマンド .....	112
15.4.1. 送信コマンド .....	113
15.4.1.1. 以降のすべての文字列を送信する .....	113
15.4.1.2. 文字数を指定して送信する .....	113
15.4.1.3. 文字を指定回数送信する .....	113
15.4.1.4. 指定した文字数を除いてすべての文字列を送信する .....	114
15.4.1.5. 特定の文字を検索し直前までの文字列をすべて送信する .....	114
15.4.1.6. 特定の文字列を検索し直前までの文字列をすべて送信する .....	114
15.4.2. 挿入コマンド .....	115
15.4.2.1. シンボル名を挿入する .....	115
15.4.2.2. バーコード長を挿入する .....	115
15.4.2.3. 遅延を挿入する .....	115
15.4.2.4. キーストロークを挿入する .....	115
15.4.2.5. 文字列を挿入する .....	115
15.4.3. 置換コマンド .....	116
15.4.3.1. 特定の文字を任意の文字に置換する .....	116
15.4.3.2. 文字の置換を中止する .....	116
15.4.4. 抑制コマンド .....	117
15.4.4.1. 特定の文字の送信を抑制する .....	117
15.4.4.2. 文字の抑制を中止する .....	117
15.4.5. 前方検索コマンド .....	118
15.4.5.1. 特定の文字を前方から検索する (一致) .....	118
15.4.5.2. 特定の文字を前方から検索する (非一致) .....	118
15.4.5.3. 特定の文字列を前方から検索する .....	118
15.4.6. 後方検索コマンド .....	119
15.4.6.1. 特定の文字を後方から検索する (一致) .....	119
15.4.6.2. 特定の文字を後方から検索する (非一致) .....	119

15.4.6.3. 特定の文字列を後方から検索する .....	119
15.4.7. 移動コマンド .....	120
15.4.7.1. カーソルを指定文字数進める .....	120
15.4.7.2. カーソルを指定文字数戻す .....	120
15.4.7.3. カーソルを文字列の先頭へ戻す .....	120
15.4.7.4. カーソルを文字列の末尾へ進める .....	120
15.4.8. 比較コマンド .....	121
15.4.8.1. 数値か比較する .....	121
15.4.8.2. 数値以外か比較する .....	121
15.4.8.3. 文字を比較する .....	121
15.4.8.4. 文字列を比較する .....	121
15.4.9. データ破棄コマンド .....	122
15.4.9.1. データを破棄する .....	122
15.5. データフォーマッター .....	123
15.6. 不一致時エラービープ .....	124
15.7. 編集フォーマット .....	125
15.8. クイック編集フォーマット .....	126
15.9. データ編集の設定例 .....	127
15.9.1. 3文字目から6文字を送信したい .....	127
15.9.2. GS-128内の<GS>(FNC1)を「@」に置換して送信したい .....	127
15.9.3. QRコード内のカンマをTABに置換して送信したい .....	127
15.9.4. QRコード内の不要な改行を抑制して送信したい .....	127
15.9.5. 14文字で構成されたITFの先頭文字を削除して送信したい .....	127
15.10. EzConfig Scanning コマンド対比表 .....	128
<b>16. バーコード読取り設定 .....</b>	<b>129</b>
16.1. 全てのバーコードの読取り .....	129
16.2. バーコードの文字数について .....	129
16.3. NW-7 (Codabar) .....	130
16.3.1. NW-7 初期化 .....	130
16.3.2. NW-7 読取り許可 .....	130
16.3.3. NW-7 スタート・ストップキャラクタ .....	130
16.3.4. NW-7 チェックデジット .....	131
16.3.5. NW-7 シンボル連結 .....	132
16.3.6. NW-7 連結タイムアウト .....	132
16.3.7. NW-7 検査回数 .....	133
16.3.8. NW-7 読取り文字数 .....	133
16.4. Code 39 .....	134
16.4.1. Code 39 初期化 .....	134
16.4.2. Code 39 読取り許可 .....	134
16.4.3. Code 39 スタート・ストップキャラクタ .....	134

16.4.4. Code 39 チェックデジット .....	135
16.4.5. Code 39 検査回数.....	135
16.4.6. Code 39 読取り文字数 .....	136
16.4.7. Code 39 シンボル連結 .....	136
16.4.8. Code 32 読取り許可 .....	137
16.4.9. Code 39 フル ASCII.....	138
16.4.10. Code 39 ギャップサイズ .....	139
16.4.11. Code 39 コードページ.....	139
<b>16.5. ITF (Interleaved 2 of 5) .....</b>	<b>140</b>
16.5.1. ITF 初期化.....	140
16.5.2. ITF 読取り許可.....	140
16.5.3. ITF チェックデジット .....	141
16.5.4. ITF 検査回数 .....	141
16.5.5. ITF 読取り文字数.....	142
<b>16.6. NEC 2 of 5 (生協コード) .....</b>	<b>143</b>
16.6.1. NEC 2 of 5 初期化 .....	143
16.6.2. NEC 2 of 5 読取り許可.....	143
16.6.3. NEC 2 of 5 チェックデジット.....	144
16.6.4. NEC 2 of 5 検査回数.....	144
16.6.5. NEC 2 of 5 読取り文字数 .....	145
<b>16.7. Code 93.....</b>	<b>146</b>
16.7.1. Code 93 初期化 .....	146
16.7.2. Code 93 読取り許可 .....	146
16.7.3. Code 93 検査回数.....	146
16.7.4. Code 93 読取り文字数 .....	147
16.7.5. Code 93 シンボル連結 .....	147
<b>16.8. Industrial 2 of 5.....</b>	<b>148</b>
16.8.1. Industrial 2 of 5 初期化 .....	148
16.8.2. Industrial 2 of 5 読取り許可.....	148
16.8.3. Industrial 2 of 5 検査回数.....	148
16.8.4. Industrial 2 of 5 読取り文字数 .....	149
<b>16.9. IATA 2 of 5 .....</b>	<b>150</b>
16.9.1. IATA 2 of 5 初期化 .....	150
16.9.2. IATA 2 of 5 読取り許可.....	150
16.9.3. IATA 2 of 5 検査回数.....	150
16.9.4. IATA 2 of 5 読取り文字数 .....	151
<b>16.10. Matrix 2 of 5 .....</b>	<b>152</b>
16.10.1. Matrix 2 of 5 初期化.....	152
16.10.2. Matrix 2 of 5 読取り許可.....	152
16.10.3. Matrix 2 of 5 検査回数 .....	152
16.10.4. Matrix 2 of 5 読取り文字数.....	153

<b>16.11. Code 11</b> .....	<b>154</b>
16.11.1. Code 11 初期化.....	154
16.11.2. Code 11 読取り許可.....	154
16.11.3. Code 11 チェックデジット .....	154
16.11.4. Code 11 検査回数 .....	155
16.11.5. Code 11 読取り文字数.....	155
<b>16.12. Code 128</b> .....	<b>156</b>
16.12.1. Code 128 初期化.....	156
16.12.2. Code 128 読取り許可 .....	156
16.12.3. Code 128 検査回数.....	156
16.12.4. Code 128 FNC コード .....	157
16.12.5. Code 128 読取り文字数 .....	157
16.12.6. Code 128 シンボル連結 .....	158
16.12.7. ISBT 128 シンボル連結 .....	158
16.12.8. Code 128 コードページ .....	159
<b>16.13. GS1-128</b> .....	<b>160</b>
16.13.1. GS1-128 初期化 .....	160
16.13.2. GS1-128 読取り許可.....	160
16.13.3. GS1-128 検査回数.....	160
16.13.4. GS1-128 読取り文字数 .....	161
<b>16.14. Telepen</b> .....	<b>162</b>
16.14.1. Telepen 初期化.....	162
16.14.2. Telepen 読取り許可.....	162
16.14.3. Telepen フォーマット .....	162
16.14.4. Telepen 検査回数 .....	163
16.14.5. Telepen 読取り文字数.....	163
<b>16.15. UPC-A</b> .....	<b>164</b>
16.15.1. UPC-A 初期化.....	164
16.15.2. UPC-A 読取り許可 .....	164
16.15.3. UPC-A チェックデジット .....	164
16.15.4. UPC-A ナンバーシステム.....	165
16.15.5. UPC-A アドオンコード.....	165
16.15.6. UPC-A アドオンコードの要求 .....	166
16.15.7. UPC-A アドオンコードタイムアウト .....	166
16.15.8. UPC-A アドオンコードセパレータ .....	167
16.15.9. UPC-A 検査回数.....	167
16.15.10. 拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13.....	168
16.15.11. 拡張クーポンコード タイムアウト .....	168
16.15.12. GS1 DataBar クーポン .....	169
<b>16.16. UPC-E</b> .....	<b>170</b>
16.16.1. UPC-E 初期化.....	170

16.16.2. UPC-E0 読取り許可 .....	170
16.16.3. UPC-E0 拡張 .....	170
16.16.4. UPC-E0 チェックデジット .....	171
16.16.5. UPC-E0 ナンバーシステム .....	171
16.16.6. UPC-E0 アドオンコード .....	172
16.16.7. UPC-E0 アドオンコードの要求 .....	172
16.16.8. UPC-E0 アドオンコードタイムアウト .....	173
16.16.9. UPC-E0 アドオンコードセパレータ .....	173
16.16.10. UPC-E1 読取り許可 .....	174
16.16.11. UPC-E 検査回数 .....	174
<b>16.17. JAN-13 .....</b>	<b>175</b>
16.17.1. JAN-13 初期化 .....	175
16.17.2. JAN-13 読取り許可 .....	175
16.17.3. ゼロ先頭の JAN コード .....	175
16.17.4. JAN-13 チェックデジット .....	176
16.17.5. JAN-13 アドオンコード .....	176
16.17.6. JAN-13 アドオンコードの要求 .....	177
16.17.7. JAN-13 アドオンコードタイムアウト .....	177
16.17.8. JAN-13 アドオンコードセパレータ .....	178
16.17.9. ISBN 変換 .....	178
16.17.10. JAN-13 検査回数 .....	179
<b>16.18. JAN-8 .....</b>	<b>180</b>
16.18.1. JAN-8 初期化 .....	180
16.18.2. JAN-8 読取り許可 .....	180
16.18.3. JAN-8 チェックデジット .....	180
16.18.4. JAN-8 アドオンコード .....	181
16.18.5. JAN-8 アドオンコードの要求 .....	181
16.18.6. JAN-8 アドオンコードタイムアウト .....	182
16.18.7. JAN-8 アドオンコードセパレータ .....	182
16.18.8. JAN-8 検査回数 .....	183
<b>16.19. MSI .....</b>	<b>184</b>
16.19.1. MSI 初期化 .....	184
16.19.2. MSI 読取り許可 .....	184
16.19.3. MSI チェックデジット .....	185
16.19.4. MSI 検査回数 .....	186
16.19.5. MSI 読取り文字数 .....	186
<b>16.20. GS1 DataBar Omnidirectional .....</b>	<b>187</b>
16.20.1. GS1 DataBar Omnidirectional 初期化 .....	187
16.20.2. GS1 DataBar Omnidirectional 読取り許可 .....	187
16.20.3. GS1 DataBar Omnidirectional 検査回数 .....	187
<b>16.21. GS1 DataBar Limited .....</b>	<b>188</b>

16.21.1. GS1 DataBar Limited 初期化 .....	188
16.21.2. GS1 DataBar Limited 読取り許可 .....	188
16.21.3. GS1 DataBar Limited 検査回数 .....	188
<b>16.22. GS1 DataBar Expanded .....</b>	<b>189</b>
16.22.1. GS1 DataBar Expanded 初期化 .....	189
16.22.2. GS1 DataBar Expanded 読取り許可 .....	189
16.22.3. GS1 DataBar Expanded 検査回数 .....	189
16.22.4. GS1 DataBar Expanded 読取り文字数 .....	190
<b>16.23. Trioptic コード .....</b>	<b>191</b>
16.23.1. Trioptic コード 読取り許可 .....	191
16.23.2. Trioptic コード 検査回数 .....	191
<b>16.24. Codablock A .....</b>	<b>192</b>
16.24.1. Codablock A 初期化 .....	192
16.24.2. Codablock A 読取り許可 .....	192
16.24.3. Codablock A 読取り文字数 .....	192
<b>16.25. Codablock F .....</b>	<b>193</b>
16.25.1. Codablock F 初期化 .....	193
16.25.2. Codablock F 読取り許可 .....	193
16.25.3. Codablock F 読取り文字数 .....	193
<b>16.26. Label Code .....</b>	<b>194</b>
16.26.1. Label Code 読取り許可 .....	194
<b>16.27. PDF417 .....</b>	<b>195</b>
16.27.1. PDF417 初期化 .....	195
16.27.2. PDF417 読取り許可 .....	195
16.27.3. PDF417 読取り文字数 .....	195
16.27.4. マクロ PDF417 読取り許可 .....	196
<b>16.28. MicroPDF417 .....</b>	<b>197</b>
16.28.1. MicroPDF417 初期化 .....	197
16.28.2. MicroPDF417 読取り許可 .....	197
16.28.3. MicroPDF417 読取り文字数 .....	197
<b>16.29. GS1 合成シンボル (CC-A、CC-B、CC-C) .....</b>	<b>198</b>
16.29.1. GS1 合成シンボル 初期化 .....	198
16.29.2. GS1 合成シンボル 読取り許可 .....	198
16.29.3. GS1 合成シンボル UPC/EAN バージョン .....	199
16.29.4. GS1 合成シンボル 読取り文字数 .....	199
16.29.5. GS1 エミュレーション .....	200
<b>16.30. TLC 39 (TCIF Linked Code 39) .....</b>	<b>201</b>
16.30.1. TLC 39 読取り許可 .....	201
<b>16.31. QR コード .....</b>	<b>202</b>
16.31.1. QR コード 初期化 .....	202

16.31.2. QR コード 読取り許可 .....	202
16.31.3. QR コード 読取り文字数 .....	202
16.31.4. QR コード シンボル連結 .....	203
16.31.5. QR コード コードページ .....	203
16.31.6. QR コード クワイエットゾーンなし .....	204
<b>16.32. Data Matrix .....</b>	<b>205</b>
16.32.1. Data Matrix 初期化 .....	205
16.32.2. Data Matrix 読取り許可 .....	205
16.32.3. Data Matrix 読取り文字数 .....	205
16.32.4. Data Matrix コードページ .....	206
<b>16.33. MaxiCode .....</b>	<b>207</b>
16.33.1. MaxiCode 初期化 .....	207
16.33.2. MaxiCode 読取り許可 .....	207
16.33.3. MaxiCode 読取り文字数 .....	207
<b>16.34. Aztec.....</b>	<b>208</b>
16.34.1. Aztec 初期化.....	208
16.34.2. Aztec 読取り許可 .....	208
16.34.3. Aztec 読取り文字数.....	208
16.34.4. Aztec シンボル連結.....	209
16.34.5. Aztec コードページ.....	209
<b>16.35. Han Xin.....</b>	<b>210</b>
16.35.1. Han Xin 初期化.....	210
16.35.2. Han Xin 読取り許可 .....	210
16.35.3. Han Xin 読取り文字数.....	210
<b>16.36. Dot Code .....</b>	<b>211</b>
16.36.1. Dot Code 初期化.....	211
16.36.2. Dot Code 読取り許可.....	211
16.36.3. Dot Code 読取り文字数.....	211
<b>16.37. Grid Matrix .....</b>	<b>212</b>
16.37.1. Grid Matrix 初期化 .....	212
16.37.2. Grid Matrix 読取り許可 .....	212
16.37.3. Grid Matrix 読取り文字数 .....	212
<b>16.38. China Post (Hong Kong 2 of 5) .....</b>	<b>213</b>
16.38.1. China Post 初期化 .....	213
16.38.2. China Post 読取り許可 .....	213
16.38.3. China Post 読取り文字数 .....	213
<b>16.39. Korea Post .....</b>	<b>214</b>
16.39.1. Korea Post 初期化.....	214
16.39.2. Korea Post 読取り許可.....	214
16.39.3. Korea Post 読取り文字数.....	214

16.39.4. Korea Post チェックデジット .....	215
<b>16.40. 郵便コード (2次元) .....</b>	<b>216</b>
16.40.1. 2次元郵便コード (単体) .....	216
16.40.2. 2次元郵便コード (組み合わせ) .....	217
16.40.3. Planet Code チェックデジット .....	221
16.40.4. Postnet チェックデジット .....	221
16.40.5. Australian Post 解釈 .....	222
<b>17. バーコードオプション .....</b>	<b>223</b>
17.1. 低品質な 1次元バーコードの読取り .....	223
17.2. 低品質な PDF コードの読取り .....	223
17.3. 低解像度な PDF コードの読取り .....	224
17.4. 低品質な Dot Code の読取り .....	224
17.5. デコードセキュリティ .....	225
17.6. 反転バーコードの読取 .....	226
17.7. 読取り方向 .....	227
<b>18. OCR プログラミング .....</b>	<b>228</b>
18.1. OCR プログラミングの概要 .....	228
18.2. OCR 設定 .....	229
18.2.1. OCR 初期化 .....	229
18.2.2. OCR 読取り許可 .....	229
18.2.3. OCR 読取り方向 .....	230
18.2.4. OCR 事前定義済みテンプレート .....	231
18.2.4.1. パスポート テンプレート .....	231
18.2.4.2. ISBN テンプレート .....	232
18.2.4.3. プライスフィールド テンプレート .....	233
18.2.4.4. MICR E-13B テンプレート .....	234
18.2.5. OCR カスタムテンプレート .....	236
18.2.5.1. はじめに .....	236
18.2.5.2. スペース (空白) .....	236
18.2.5.3. 文字サイズ .....	236
18.2.5.4. ユーロ、ポンド、円通貨文字 .....	236
18.2.6. OCR カスタムテンプレートの作成 .....	237
18.2.6.1. 制御コードチャート .....	237
18.2.6.2. 新規テンプレートコード .....	238
18.2.6.3. 改行コード .....	239
18.2.6.4. 繰り返しコード .....	240
18.2.6.5. グループ .....	242
18.2.6.6. インライングループ .....	242
18.2.6.7. チェックサムとウェイト .....	243
18.2.6.8. ウェイトの方式 .....	244

18.2.6.9. チェックサム例.....	244
18.2.7. OCR テンプレート 組み合わせ.....	246
<b>18.3. OCR プログラミングコード .....</b>	<b>248</b>
18.3.1. OCR テンプレート入力.....	248
18.3.2. OCR プログラミングコード一覧.....	248
18.3.3. OCR テンプレート保存、破棄.....	251
<b>19. Digimarc® Barcode.....</b>	<b>252</b>
19.1. Digimarc Barcode 読取り許可.....	253
<b>20. CJK コントロール .....</b>	<b>254</b>
20.1. CJK コントロールとは.....	254
20.2. CJK コントロールの動作確認リスト .....	254
20.3. Windows でのセットアップ .....	255
20.3.1. レジストリを変更します .....	255
20.3.2. スキャナの設定を変更します.....	256
20.3.3. 読取りテストを行います .....	256
<b>21. 標準設定値一覧.....</b>	<b>257</b>
<b>22. EZConfig Scanning .....</b>	<b>265</b>
22.1. はじめに.....	265
22.1.1. 機能.....	265
22.1.2. Scan Data Window.....	265
22.1.3. Configuration History.....	265
22.1.4. Imaging.....	265
22.2. EZConfig のインストール.....	266
22.3. EZConfig の実行 .....	266
22.3.1. Firefox について :.....	266
22.3.2. Chrome について :.....	266
22.3.3. Internet Explorer について :.....	266
22.4. EZConfig との接続.....	267
22.5. EZConfig で設定バーコードを作成する .....	268
22.5.1. EZConfig でシリアルコマンドを送信する .....	269
<b>23. USB 仮想 COM エミュレーション .....</b>	<b>270</b>
23.1. はじめに.....	270
23.2. セットアップ.....	270
23.2.1. ドライバのダウンロードとインストール .....	270
23.2.2. ドライバのアンインストール.....	270
23.2.3. COM ポート番号の確認.....	271
23.2.4. COM ポートからのデータを受信する .....	271
23.3. RSWedge Unitech 版について .....	271

23.3.1. セットアップ例 .....	272
23.3.2. データの受信確認 .....	272
23.3.3. 受信したデータが文字化けしている場合 .....	273
23.3.4. データを他のソフトウェアへ再送信させる .....	273
23.3.5. 起動時、自動実行について .....	274
<b>24. シリアルプログラミングコマンド .....</b>	<b>275</b>
24.1. 本項目内の語句 .....	275
24.2. メニューコマンドの構文 .....	275
24.3. 問合せコマンド .....	276
24.3.1. タグフィールドでの使用法 .....	276
24.3.2. サブタグフィールドでの使用法 .....	276
24.3.3. データフィールドでの使用法 .....	276
24.3.4. 複数のコマンドを連結する .....	276
24.3.5. スキャナからの応答 .....	276
24.3.6. コマンドの組み合わせ例 .....	277
24.4. メニューコマンド .....	278
<b>25. よくある質問 .....</b>	<b>297</b>
<b>26. 各種ドライバ、ソフトウェア .....</b>	<b>301</b>
26.1. EzConfig Cloud for Scanning .....	301
26.2. USB 仮想 COM ドライバ .....	301
26.3. OPOS Suite .....	301
26.4. POS4NET Suite .....	301
26.5. JavaPos Suite .....	301
<b>27. シンボルチャート .....</b>	<b>302</b>
27.1. 1次元シンボル .....	302
27.2. 2次元シンボル .....	303
27.3. 郵便シンボル .....	303
<b>28. ASCII 変換チャート .....</b>	<b>304</b>
<b>29. ISO 2022/ISO 646 文字コード変換 .....</b>	<b>307</b>
<b>30. キーボードのキー参照 .....</b>	<b>309</b>
<b>31. プログラミングチャート .....</b>	<b>311</b>
<b>32. テストバーコード .....</b>	<b>315</b>

## 2. はじめに

### 2.1. 改訂履歴

Version	発行日	改訂履歴
1.0	2019年10月1日	● 日本語版正式リリース
1.1	2019年11月18日	● ESD モデル対応
1.2	2019年12月10日	● RS232C モデル対応
1.3	2020年4月1日	● 19.1. Digimarc Barcode 読取り許可 (253 ページ) を追加
2.0	2020年7月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 再編集しヘルスケアモデルに対応</li> <li>● 2.13. アクセサリ (別売) (25 ページ) に<b>マイクロ USB インターフェースケーブル</b>を追加</li> <li>● 3.2. インターフェースケーブルの交換 (27 ページ) を追加</li> <li>● 25. よくある質問 (297 ページ) にいくつかの質問について追加しました</li> <li>● 26. 各種ドライバ、ソフトウェア (301 ページ) を最新版に更新</li> </ul>
2.1	2021年3月23日	● 2.11. インターフェースケーブル (22 ページ) の RS232C インターフェースケーブルの型式を修正
2.2	2021年6月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 23. USB 仮想 COM エミュレーション (270 ページ) に新世代エンジン向けの画像を追加</li> <li>● 26. 各種ドライバ、ソフトウェア (301 ページ) を最新に更新</li> <li>● 32. テストバーコード (315 ページ) の GS1-128 を修正しました</li> </ul>
2.3	2021年6月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新世代エンジンで廃止された以下の機能について、利用不可とするメッセージを各機能の説明文に追加</li> <li>7.5. デコーダバージョンの表示 (36 ページ)</li> <li>7.6. スキャンドライババージョンの表示 (36 ページ)</li> <li>10.7.2. プレゼンテーション感度 (76 ページ)</li> </ul>
2.4	2021年7月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 7.1. カスタム設定への初期化 (34 ページ) の<b>カスタム標準 設定 (USB モデル)</b> の <b>USB デバイスタイプ</b>を <b>USB HID 日本語キーボード</b>に変更</li> <li>● 16.31.6. QR コード クワイエットゾーンなし (204 ページ) を追加</li> <li>● 17.5. デコードセキュリティ (225 ページ) を追加</li> </ul>

## 2.2. 本マニュアルについて

本マニュアルは、MS852 Plus 高性能 二次元バーコードスキャナのインストール、操作、そして保守方法について説明しています。

本書のいかなる部分もユニテック社からの書面による許可なしで、いかなる形式でも、電子的あるいは機械的を問わず複製することはできません。これは、フォトコピー、レコーディング、あるいは情報の保存と検索システム等の電気的もしくは機械的な方法を含んでいます。

本書の内容は予告なく変更することがあります。

© Copyright 2021 Unitech Electronics Co., Ltd. すべての著作権は Unitech 社が保有しています。

Unitech グローバル Web サイトアドレス: <https://www.ute.com/en>

ユニテック・ジャパン Web サイトアドレス: <https://www.ute.com/jp>

## 2.3. 各認証について

### 2.3.1. 電波障害自主規制

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

### 2.3.2. RoHS について

本装置は欧州連合の規定である電子機器で使用される有害物質の含有についての制限 (Reduction Of Hazardous Substances、RoHS) に適合しております。

## 2.4. 製品操作と保管について

ユニテック製品には適用される動作温度や、保存温度条件があります。故障、破損、誤動作を避けるため、機器の制限に従ってください。

## 2.5. 電源アダプタについて

1. ユニテック製品を充電していないときは、電源アダプタをソケットから取り外してください。
2. バッテリーの充電が完了したら、電源アダプタを取り外してください。
3. ユニテック製品に付属している電源アダプタは、屋外使用は想定されていません。水や雨にさらされたり、高温や多湿の環境で使用したりすると、アダプタと製品の双方に損傷を与える可能性があります。
4. ユニテック製品の充電には、付属の電源アダプタのみをご使用ください。誤った電源アダプタを使用すると、製品が破損する可能性があります。

## 2.6. レーザーについて

Unitech 製品は、DHHS/CDRH 21 CFR Subchapter J 要件と IEC 825-1 要件に適合するために米国で認証されています。CDRH Class II 製品と IEC 825 Class 2 製品は危険であるとは考えられておりません。スキャナは上記の規制の最大値を越えることのない可視レーザーダイオード (VLD) を内蔵しています。本製品は通常の使用や保守・修理作業において、レーザー光が人体に害を及ぼさないように設計されています。

レーザー警告文は、製品ラベルに記載されています。

**注意!** 仕様外の方法でコントロール・調整・使用することは、レーザー光が危険となることがあります。スキャナを双眼鏡、顕微鏡、拡大鏡などの光学機器と一緒に使用すると目への危険が増加します。この光学機器には使用者がかけている眼鏡は含みません。

## 2.7. ESD 保護モデルについて

ユニテックの ESD 保護モデルは、クリーンルームや静電気対策が必要な製造環境などの厳しい要求を満たすように設計されています。ユニテックの ESD 保護モデルは、ボディに帯電防止剤を練り込んであり、これによりケーブルを含めた製品を静電気から保護し、ESD 保護が必要な環境での使用における安全性を備えています。製品本体とケーブルは、平方単位あたり最大 105 Ω ~ 109 Ω の静電気放電に耐えることができ、塩素系の材料は含まれていません。帯電防止剤練り込み方式は、あとからボディの外部に帯電防止剤を塗布する方式よりも長期間の ESD 保護を提供することができます。ボディに練り込まれた帯電防止剤がボディの表面に浮き出ることによって帯電防止効果を発揮し、ボディの摩耗、削れ、拭き取りなどから帯電防止性能が低下することを長期間防止します。練り込み方式は、製造環境でのワークフローを合理化するために信頼できる方式です。

## 2.8. ヘルスケアモデルについて

ユニテックのヘルスケア製品は、抗菌性のボディを特徴としており、特に衛生面での規制が厳しい医療環境での使用に適しています。病院や医療機関の看護のために特別に設計されており、ISO 22196 (= JIS Z2801)、ISO 11737-1、ISO 11737-2 の医療認証を取得しています。高性能バーコードスキャンエンジンを提供することで、医療従事者は本装置を使用して、バーコードを介した患者の識別や処方箋を確認することによって、エラーを減らし、利便性を向上させることができます。

- ✍ 抗菌の効果が及ぶのは大腸菌や黄色ブドウ球菌などの細菌であり、カビなどの菌類には効果はありません。
- ✍ 抗菌の影響が及ぶのは、抗菌剤を含んだボディからの極至近距離範囲のみです。

## 2.9. サービス・サポートについて

### 2.9.1. メーカー標準保証期間

当社のメーカー標準保証は、以下の保証期間中に通常の使用状況で発生した故障に対して適用されます。

- スキャナ本体 — 3年間
- ケーブルなどを含むその他アクセサリ類 — 3ヶ月

保証は、機器の改造、不適切な取付や使用、事故または不注意による落下等における損傷、あるいは何らかのパーツが不適切に取り付けられていたり、もしくはユーザーによってパーツを交換されていたりした場合は対象外となります。

### 2.9.2. 初期不良について

当社の初期不良対応期間は、ご購入後2週間です。これはご購入後使用していなかった期間も含まれます。ご購入後初期不良を確認した場合は、速やかにご購入いただいた代理店/販売店へご連絡ください。

初期不良の場合は、以下の場合を除き、原則、製品交換にて対応させていただきます。

- ご購入時の製品状態（本体、アクセサリ、マニュアル、梱包箱など）から欠品がある場合
- 使用者による破損など、通常保証の範囲外となる場合

### 2.9.3. 修理保守サービスについて

ユニテック製品の修理サービスをご希望のお客様は、ご購入いただいた代理店/販売店へご相談いただくか、弊社サービスセンターへ直接障害機をお送りください。

弊社サービスセンターへ直接お送りいただく場合は、必ず修理依頼書をご記入頂き障害機に同封してください。事前にメールやFAXをいただく必要はございません。修理依頼書と障害機が同梱されている場合は、障害機受領後、順番に対応させていただきます。修理依頼書は下記のリンクよりダウンロードすることができます（PDFまたはMS WORD）。

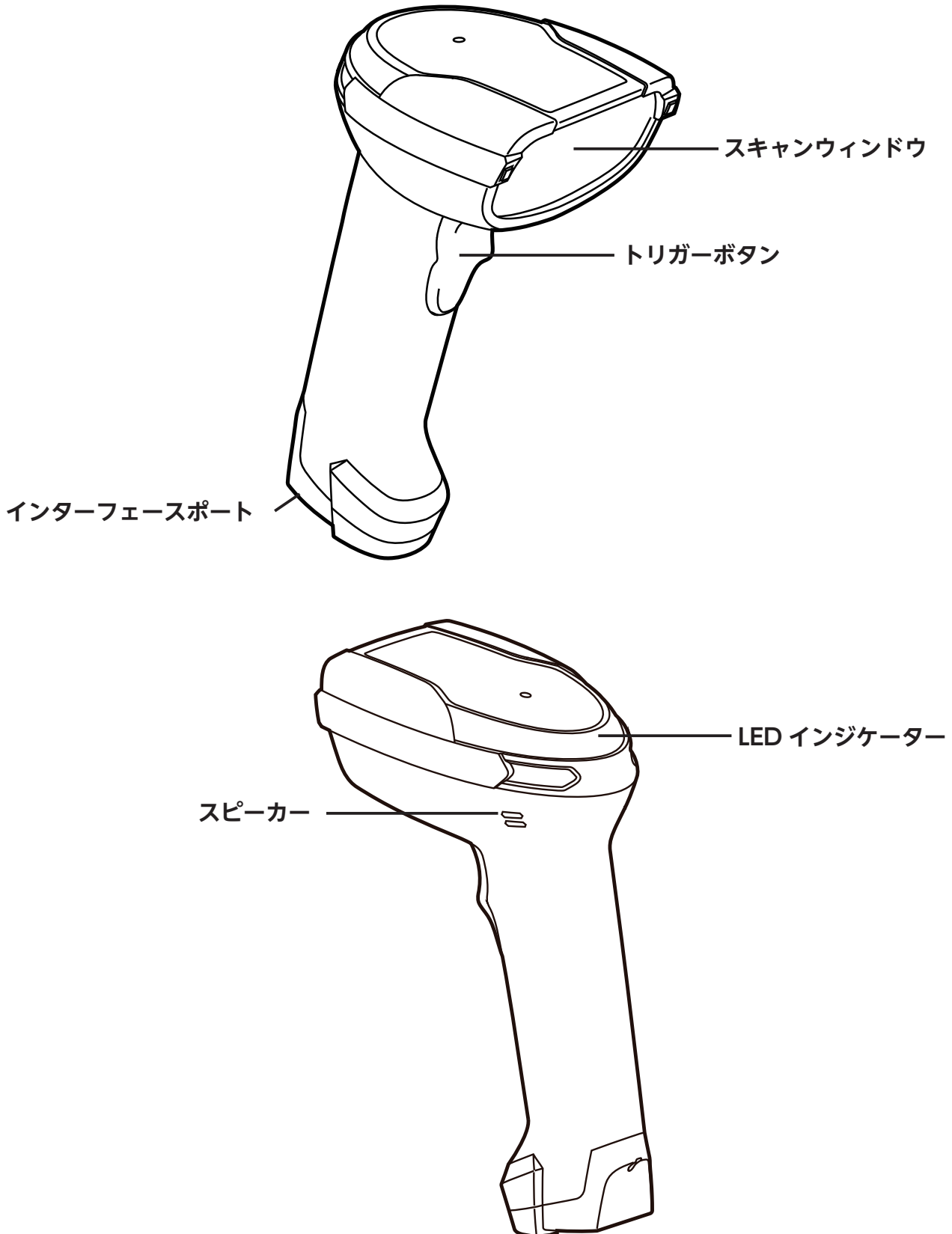
[PDF] [http://www.unitech-japan.co.jp/service/download/service\\_request.pdf](http://www.unitech-japan.co.jp/service/download/service_request.pdf)

[MS WORD] [http://www.unitech-japan.co.jp/service/download/service\\_request.docx](http://www.unitech-japan.co.jp/service/download/service_request.docx)

修理費用のお見積りやお支払い方法など、修理ご依頼時の詳細については、修理依頼書に記載されております。上記ダウンロード後、必ずご一読ください。

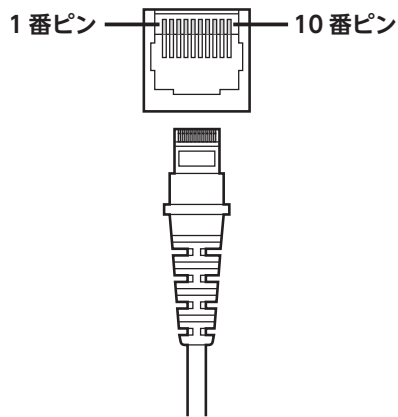
## 2.10. 各部名称

### 2.10.1. MS852 Plus 本体



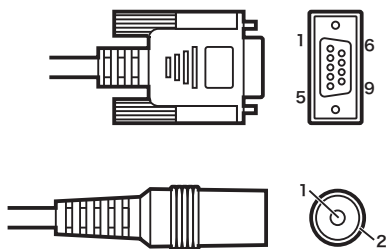
## 2.11. インターフェースケーブル

### 2.11.1. インターフェースポートの信号



PIN	RS232C	USB
1		D+
2	VCC (+5V)	
3		GND
4	GND	コネクタシェル
5	RxD	
6	TxD	
7		VCC (+5V)
8	CTS	
9	RTS	
10		D-

### 2.11.2. D-SUB 9 コネクタの信号



ピン番号	D-SUB 9
1	
2	RxD
3	TxD
4	
5	GND
6	
7	RTS
8	CTS
9	VCC (+5V)

ピン番号	電源入力
1	電源 (+5V)
2	GND

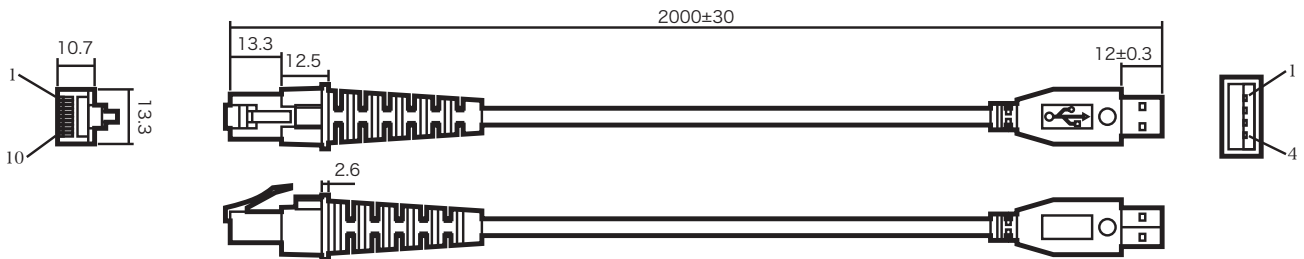
### 2.11.3. USB インターフェースケーブル (1550-900127G)

### 2.11.4. ESD 保護 USB インターフェースケーブル (1550-900093G)

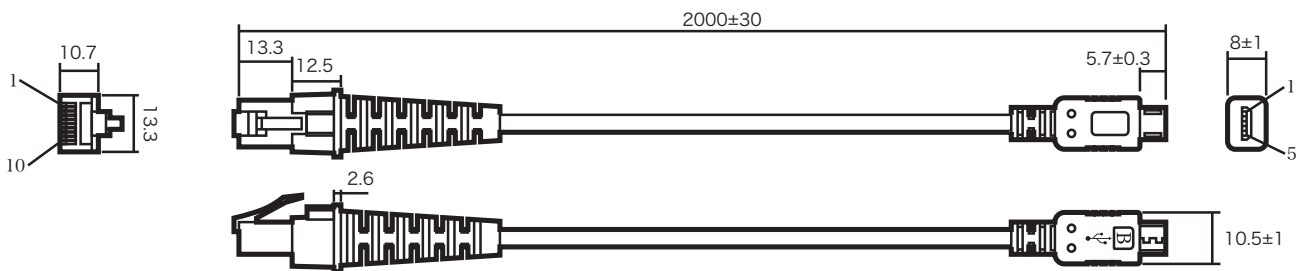
### 2.11.5. ヘルスケア USB インターフェースケーブル (1550-905903G)

✎ 2.7. ESD 保護モデルについて (19 ページ)

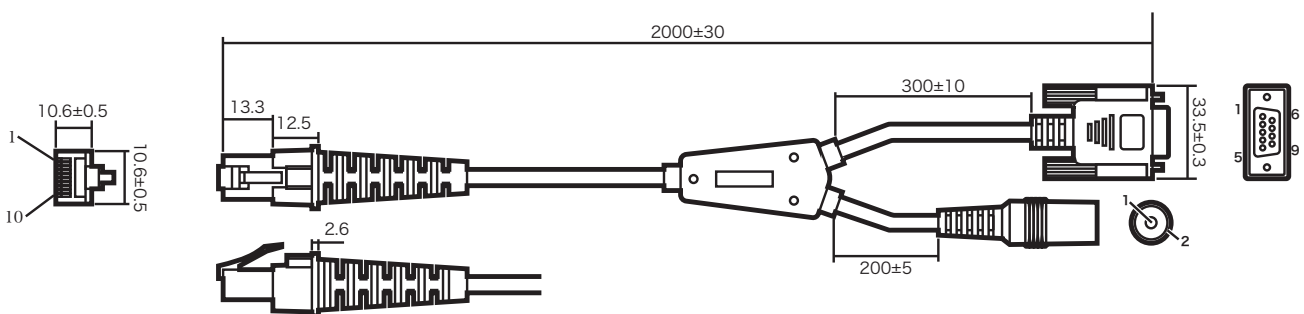
✎ 2.8. ヘルスケアモデルについて (19 ページ)



### 2.11.6. マイクロ USB インターフェースケーブル (1550-900084G)



### 2.11.7. RS232C インターフェースケーブル (1550-900060G)



## 2.12. パッケージ内容

	MS852-VUCB00-SG MS852-ZUCB00-SG	MS852-VRCB00-SG MS852-ZRCB00-SG
スキャナ本体	✓	✓
USB インターフェースケーブル	✓	
RS232 インターフェースケーブル		✓
RS232 用 AC アダプタ		注
クイックガイド	✓	✓
保証書	✓	✓
ユーザー登録カード	✓	✓
無償延長保証について	✓	✓

**注意!** MS852 Plus RS232 モデルには、電源供給用の AC アダプタが付属しておりません。AC アダプタが必要なお客様は別途ご購入ください。

### (ESD 保護モデル)

	MS852-ZUCB00-LG
スキャナ本体	✓
ESD 対応 USB インターフェースケーブル	✓
クイックガイド	✓
保証書	✓
ユーザー登録カード	✓
無償延長保証について	✓

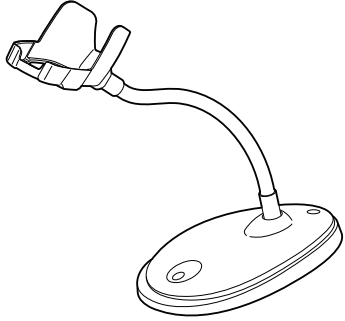
[2.7. ESD 保護モデルについて \(19 ページ\)](#)

### (ヘルスケアモデル)

	MS852-ZUCL00-HG
スキャナ本体	✓
ヘルスケア USB インターフェースケーブル	✓
クイックガイド	✓
保証書	✓
ユーザー登録カード	✓
無償延長保証について	✓

[2.8. ヘルスケアモデルについて \(19 ページ\)](#)

## 2.13. アクセサリ (別売)

製品番号	製品名	
5200-900009G	ハンドフリースタンド	
1550-900127G	USB インターフェースケーブル (交換用予備)	
1550-900084G	マイクロ USB インターフェースケーブル	
1550-900093G	ESD 対応 USB インターフェースケーブル (交換用予備)	
1550-905903G	ヘルスケア USB インターフェースケーブル (交換用予備)	
1550-900060G	RS232 インターフェースケーブル (交換用予備)	
1010-900008G	RS232 用 AC アダプタ	

✂ MS852-VUCB00-SG、MS852-ZUCB00-SG、MS852-VRCB00-SG、MS852-ZRCB00-SG、MS852-ZUCB00-LG、MS852-ZUCL00-HG は、Auto Switching 機能をサポートしていないため、5200-900010G を使用しても Auto Switching 機能を使用することはできません

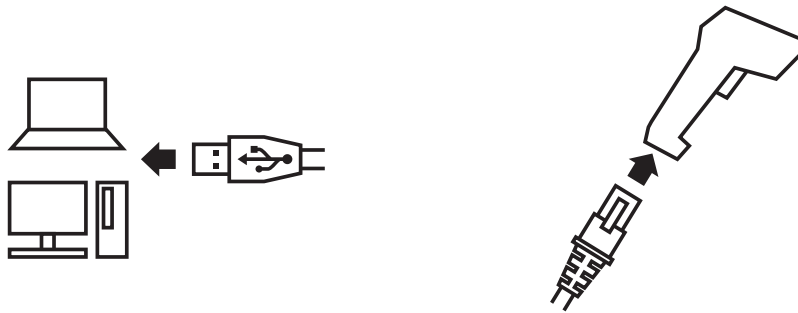
✂ スマートフォンやタブレットとマイクロ USB インターフェースケーブルを接続して使用する場合、電力供給不足により動作しない場合がありますので、事前に十分な検証をお勧めいたします。

## 3. 基本操作

### 3.1. ホストとの接続概要

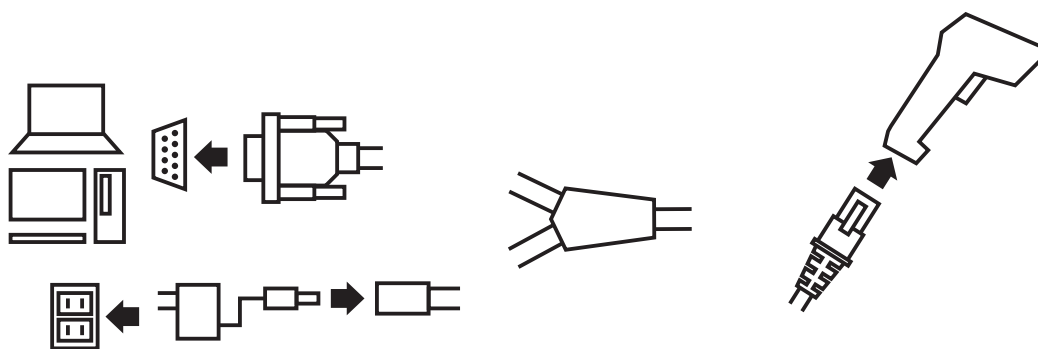
#### 3.1.1. USB ケーブルでの接続

スキャナのインターフェースポートに USB インターフェースケーブルを接続し、反対側の USB コネクタをパソコンの USB ポートに接続します。ホストでキーボード入力可能なソフトウェア（メモ帳やエクセルなど）を実行しておき、希望するバーコードを読取ります。



#### 3.1.2. RS232 ケーブルでの接続

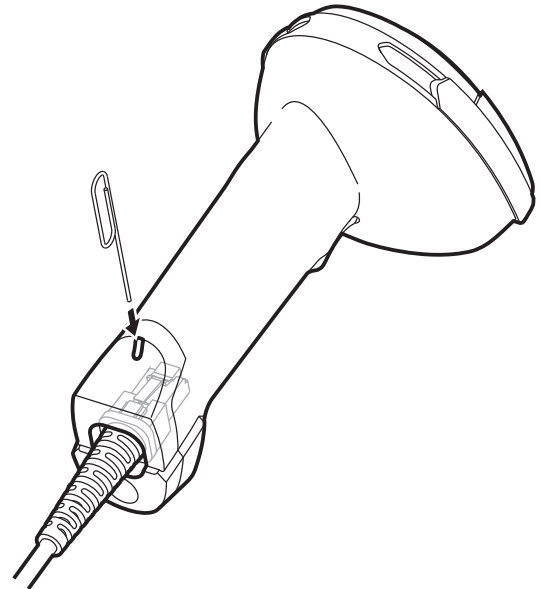
スキャナのインターフェースポートに RS232 インターフェースケーブルを接続し、反対側の DB9 メスコネクタをパソコンの DB9 オスポートに接続します。外部からの電源供給が必要な場合は、AC ジャックに専用の AC アダプタのプラグを差し込み、AC アダプタはコンセントに接続します。ホストでシリアル通信可能なターミナルソフトウェア（ハイパーターミナルや TeraTerm など）で COM ポートに接続し、希望するバーコードを読取ります。



## 3.2. インターフェースケーブルの交換

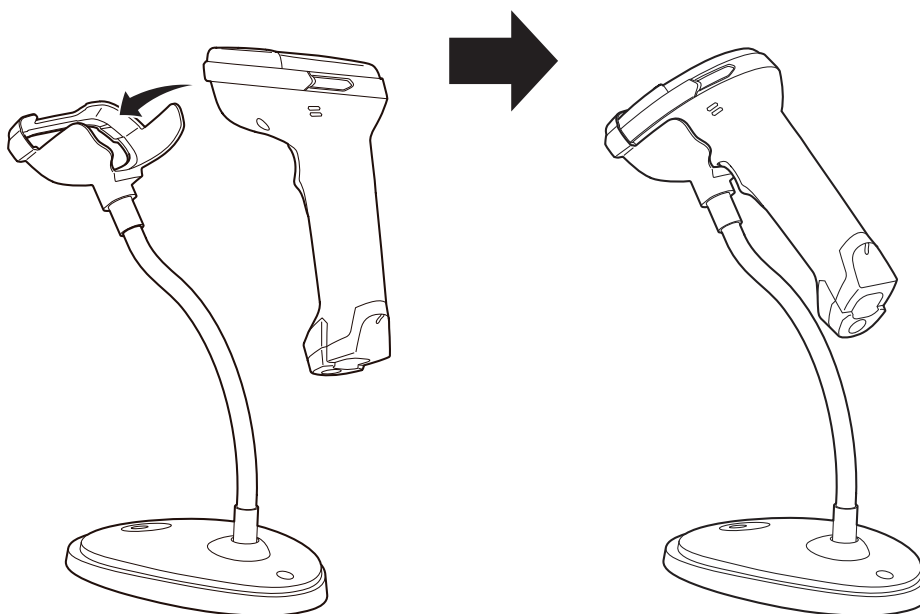
インターフェースケーブルを交換する場合は、次の手順に従って行ってください。

1. ホストの電源をオフにします。
2. スキャナをホストから取り外します。
3. スキャナのグリップ底部のケーブルの近くにある小さな穴を探します。
4. ペーパークリップの片方の端を真っ直ぐ伸ばします。
5. ペーパークリップの端を小さな穴に差し込み、ケーブルコネクタのラッチ(ツメ)を押し下げ、その状態のままケーブルを引き抜いて外します。
6. 新しいケーブルを接続するには、ケーブルコネクタをスキャナのグリップ底部の開口部に差し込み、しっかりとカチッとするまで押し込んでください。



## 3.3. ハンドフリースタンドへの設置

ハンドフリースタンドへスキャナのヘッドをはめ込むように設置してください。[10.7. プレゼンテーションモード](#) (75 ページ) または [10.8. ストリーミングプレゼンテーションモード](#) (79 ページ) を設定することで、バーコードの自動検出と読取りを自動化し、ハンドフリー操作が可能となります。



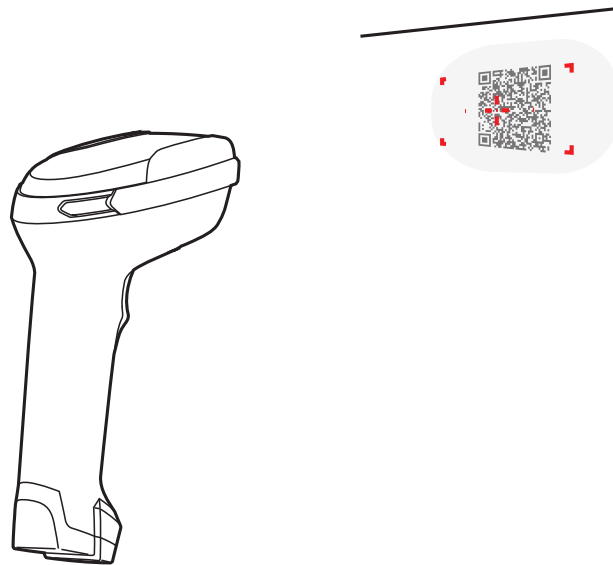
### 3.4. LED インジケータ

状態	LED ランプ
読み取り成功	緑ランプが 1 回点滅
電源投入	緑ランプが 1 回点滅
設定完了または設定開始	緑ランプが 1 回点滅
エラー	-
トリガーが押されている	

### 3.5. ブザーインジケータ

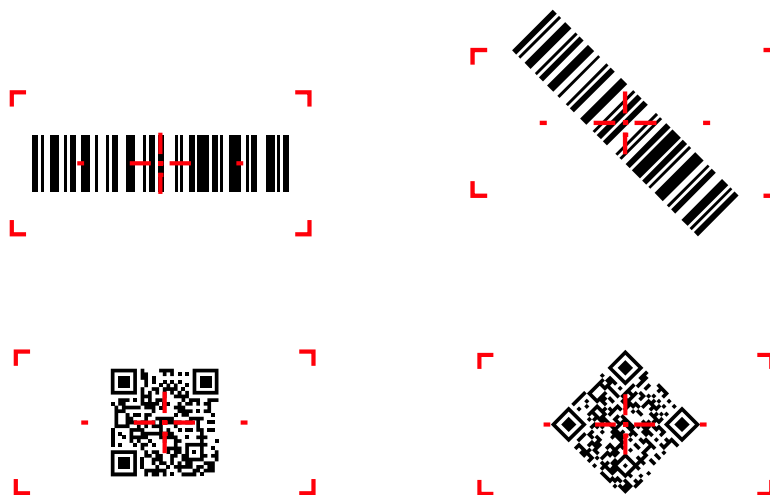
状態	ブザー
読み取り成功	1 回鳴動
電源投入	メロディ
設定完了または設定開始	2 回鳴動 (中音→高音)
エラー	長く鳴動 (低音)
トリガーが押されている	-

### 3.6. 基本的なバーコードの読取り方



照準をバーコードの中央付近に合わせて読み取ります。スキャナは、できる限り照準パターンを中心周辺から読み取りを試みますが、必ず照準周辺だけを読み取るわけではありません。複数のバーコードが近距離に存在する場合は、より読みやすいバーコードを読み取ります。

照準中央のバーコードを優先的に読み取りたい場合は、[10.6.1. シングルコードセンタリング](#) (72 ページ) や [11. 優先シンボル](#) (91 ページ) を設定してみてください。



### 3.7. 日本語出力への対応について

日本語を含んだ QR コードなどを正しく読み取って出力する場合、[20. CJK コントロール](#) (254 ページ) をお試し下さい。CJK コントロールでは対応できない場合、またはシリアル通信が必要な場合は [23. USB 仮想 COM エミュレーション](#) (270 ページ) による出力をお試しください。

## 4. 仕様

		MS852-VUCB00-SG MS852-VRCB00-SG	MS852-ZUCB00-SG MS852-ZRCB00-SG MS852-ZUCB00-LG MS852-ZUCL00-HG
スキャナ仕様			
受光素子		解像度 1280 × 800 ピクセル グローバルシャッター	
光源	照明 照準	白色 LED (リスク免除グループ) フレーム付き十字型赤色レーザー	
環境光		0 ~ 100,000 lux (暗闇から太陽光下)	
最小分解能	Code 39 Data Matrix QR コード PDF417	0.076mm 0.178mm 0.178mm 0.102mm	0.064mm 0.127mm 0.127mm 0.102mm
モーショントレランス	最大 標準	600cm/秒 400cm/秒	
フレームレート		最大 60 フレーム / 秒	
スキュー角度		± 60°	
ピッチ角度		± 60°	
傾度		360°	
視野角	水平 垂直	48.0° 31.0°	
印刷コントラスト比		最小 20%	
読み取り距離 <sup>1</sup>	UPC Code39 Code39 Code39 Code39 Code128 Data Matrix Data Matrix PDF417 PDF417 QR コード QR コード	44mm ~ 573mm (細バーの幅 : 0.330mm) - 70mm ~ 301mm (細バーの幅 : 0.127mm) 40mm ~ 517mm (細バーの幅 : 0.254mm) 44mm ~ 800mm (細バーの幅 : 0.508mm) 42mm ~ 650mm (細バーの幅 : 0.381mm) - 72mm ~ 297mm (セルサイズ : 0.254mm) - 84mm ~ 244mm (セルサイズ : 0.170mm) - 39mm ~ 414mm (セルサイズ : 0.381mm)	38mm ~ 405mm (細バーの幅 : 0.330mm) 66mm ~ 183mm (細バーの幅 : 0.076mm) 53mm ~ 265mm (細バーの幅 : 0.127mm) - - - 72mm ~ 180mm (セルサイズ : 0.170mm) 59mm ~ 248mm (セルサイズ : 0.254mm) 74mm ~ 186mm (セルサイズ : 0.127mm) 59mm ~ 238mm (セルサイズ : 0.170mm) 72mm ~ 163mm (セルサイズ : 0.170mm) 27mm ~ 308mm (セルサイズ : 0.381mm)
対応シンボル	1 次元 2 次元 郵便 OCR Digimarc™	Codabar, Code 39, Code 32, Inteleaved 2 of 5, NEC 2 of 5, Code 93, Industrial 2 of 5, IATA 2 of 5, Matrix 2 of 5, Code 11, Code 128, ISBT 128, GS1-128 <sup>2</sup> , Telepen, UPC-A, UPC-E, JAN-8, JAN-13, MSI, GS1 Databar 系 <sup>2</sup> , Trioptic, Label Code Codablock A, Codablock F, PDF417, MicroPDF417, GS1 合成シンボル <sup>3</sup> , TLC39, QR コード, Micro QR コード, Data Matrix, MaxiCode, Aztec コード, Han Xin コード, Dot Code, Grid Matrix China Post, Korea Post, Australian Post, British Post, Canadian Post, Intelligent Mail, 日本郵便, KIX Post, Planet Code, Postal-4i, Postnet, Postnet with B and B' Fields, InfoMail OCR-A, OCR-B, MICR E-13B, SEMI ○	
トリガーモード		マニュアルトリガーモード、プレゼンテーションモード	
データフォーマット		ターミネーター、プリフィックス、サフィックス、コード ID、編集出力	
機械仕様			
外寸		87.8mm x 71.6mm x 177.7mm (スキャナ本体のみ)	
重量		147g (スキャナ本体のみ)	
トリガー寿命		1,000 万回	
動作電圧		DC 4.4V ~ 5.5V	

\*1. 読み取り距離はバーコードの幅に依存します。

\*2. AI の編集には対応していません。括弧の出力には対応していません。

\*3. 弊社テスト基準に基づく落下試験における実験値であり、無破損・無故障を保証するものではありません。

#### 4. 仕様 (続き)

		MS852-VUCB00-SG MS852-VRCB00-SG	MS852-ZUCB00-SG MS852-ZRCB00-SG MS852-ZUCB00-LG MS852-ZUCL00-HG
<b>スキャナ仕様</b>			
消費電流	動作時	205 mA 以下	
	スタンバイ	38 mA 以下	
インターフェース	-VUCB00-SG -ZUCB00-SG -ZUCB00-LG -ZUCL00-HG	USB、USB 仮想 COM	
	-VRCB00-SG -ZRCB00-SG	RS232	
インジケータ	LED、ブザー、パイプレーター		
<b>耐環境仕様</b>			
ESD 保護	8K コンタクトおよび 15K エア、テスト後正常動作		
電気抵抗値	-	MS852-ZUCB00-LG のみ : 105 Ω ~ 109 Ω	
落下テスト	2.1 M からコンクリート床 (スキャナ本体のみ) <sup>3</sup>		
防塵・防水	IP42		
動作温度範囲	-10° C から 50° C		
保存温度範囲	-40° C から 70° C		
相対湿度	95% 結露無いこと		
認証	CE、FCC、BSMI、VCCI		

\*1. 読み取り距離はバーコードの幅に依存します。

\*2. AI の編集には対応していません。括弧の出力には対応していません。

\*3. 弊社テスト基準に基づく落下試験における実験値であり、無破損・無故障を保証するものではありません。

## 5. 対応シンボル

スキャナは以下のバーコードシンボルの読取りに対応しています。○は、初期設定の状態で見られるかどうかを表しています。○のないバーコードシンボルは、[16. バーコード読取り設定](#)（129 ページ）を参考に個別に設定が必要です。初期設定で見られるバーコードシンボルでも読取れない場合は、[21. 標準設定値一覧](#)（257 ページ）を参考に設定を確認してください。

Codabar	○	PDF417	○
Code 39	○	MicroPDF417	
Code 32		GS1 合成シンボル	
Inteleaved 2 of 5	○	TLC39	
NEC 2 of 5	○	QR コード	○
Code 93	○	Micro QR コード	○
Industrial 2 of 5		Data Matrix	○
IATA 2 of 5		MaxiCode	
Matrix 2 of 5		Aztec コード	○
Code 11		Han Xin コード	
Code 128	○	Dot Code	
ISBT 128		Grid Matrix	
GS1-128	○	China Post	
Telepen		Korea Post	
UPC-A	○	Australian Post	
UPC-E	○	British Post	
EAN/JAN-13	○	Canadian Post	
EAN/JAN-8	○	Intelligent Mail	
MSI		日本郵便	
GS1 Databar Omnidirectional	○	KIX Post	
GS1 Databar Limited	○	Planet Code	
GS1 Databar Expanded	○	Postal-4i	
Trioptic		Postnet	
Label Code		Postnet with B and B' Fields	
Codablock A		InfoMail	
Codablock F		OCR	

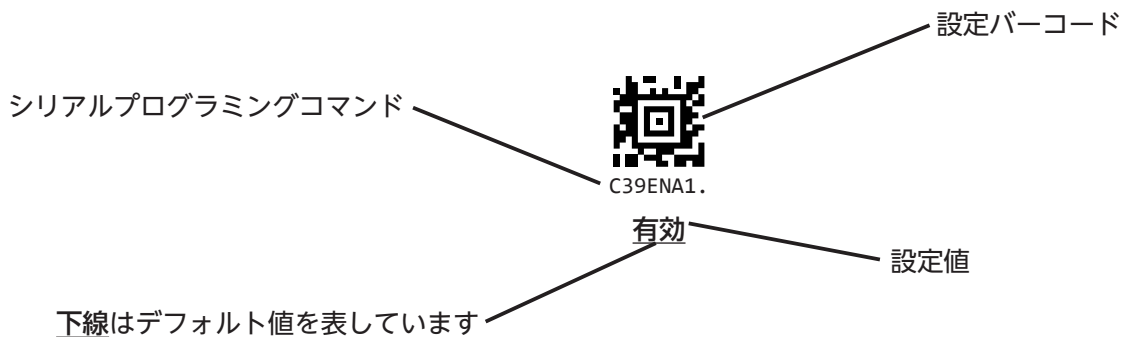
## 6. 設定方法について

スキャナは、専用の設定バーコードを読み込ませることで設定の変更を行います。変更された設定は不揮発性メモリに保存され、スキャナの電源を切っても設定は保持されます。

スキャナの設定を変更するには、ターゲットの設定バーコードを読み込ませてください。

多くのコンピュータモニタでは、モニタ上に表示させたバーコードを直接読取ることができます。モニタ上に表示されたバーコードを読取るためには、画面を明るくしてバーコードがはっきりと見えるように拡大してから読取ってください。拡大率などはモニタの仕様によります。

設定バーコードの仕様については、次の例図をご参照ください



## 7. システム設定

### 7.1. カスタム設定への初期化

次のバーコードを読み取ると、現在のカスタムデフォルト設定の削除を行い、以下の設定を復元します。その他の設定は、[21. 標準設定値一覧](#) (257 ページ) をご確認ください。

(USB モデル カスタム標準値)

パラメータ	カスタム設定値	掲載ページ
USB デバイスタイプ	USB HID 日本語キーボード (PC)	38 ページ
サフィックス	ENTER	97 ページ

(RS232 モデル カスタム標準値)

パラメータ	カスタム設定値	掲載ページ
RS232 ボーレート	115,200 bps	58 ページ
RS232 データビット、ストップビット、パリティ	8 データビット 1 ストップビット パリティなし	60 ページ
サフィックス	CR, LF	97 ページ



DEFOVR;MNUCDP;TERMID134;  
VSUFGR;MNUCDS;DEFAULT.

カスタム標準 設定 (USB モデル)



DEFOVR;MNUCDP;TERMID0;232BAD9;232WRD2;  
SUFBK2990D0A;MNUCDS;DEFAULT.

カスタム標準 設定 (RS232 モデル)

## 7.2. カスタムデフォルトの作成

お客様ご自身でカスタムデフォルトを作成することができます。そのためには、**カスタムデフォルト設定開始** を読取ってから、カスタムデフォルトに組み込みたい1つまたは複数のメニューコマンドを読み取ります。希望のメニューコマンドで [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の英数字を使用する必要がある場合は、英数字を読み取った後に**保存**を読み取ると全体のシーケンスが保存されます。

希望のメニューコマンドをすべて読み取ったら**カスタムデフォルト保存**を読み取って、カスタムデフォルトをスキャナに保存します。最後に**カスタムデフォルト起動**を読み取って、保存したカスタムデフォルトを呼び出して使用します。

✎ カスタムデフォルトの設定中は、緑の LED ランプが点滅し続けます。



MNUCDP.

カスタムデフォルト作成開始



MNUCDS.

カスタムデフォルト保存

## 7.3. カスタムデフォルトの起動

**カスタムデフォルト起動**を読み取ると、カスタムデフォルトが保存されている場合はカスタムデフォルトへ、カスタムデフォルトが保存されていない場合は [21. 標準設定値一覧](#) (257 ページ) の初期値へ、スキャナの設定をリセットします。



DEFAULT.

カスタムデフォルト起動

## 7.4. カスタムデフォルトの削除（工場出荷デフォルト）

カスタムデフォルトを含むすべての設定を工場出荷デフォルトへリセットしたい場合は、**カスタムデフォルト削除**を読み取った後に**デフォルト起動**を読み取ります。このとき、USB デバイスタイプが「USB CDC ホスト」に、サフィックスが「なし」になることに注意してください。とくに理由がない場合は、[7.1. カスタム設定への初期化](#)（34 ページ）を使用することをお勧めいたします。



DEFOVR.

カスタムデフォルト削除



DEFAULT.

デフォルト起動

## 7.5. デコーダバージョンの表示

デコーダバージョンを出力するには次のバーコードを読み取ります。

**注** この機能は、新世代エンジンでは削除されており、ご利用いただけません。



REV\_DR.

デコーダバージョン表示

## 7.6. スキャンドライババージョンの表示

スキャンドライババージョンを出力するには次のバーコードを読み取ります。

**注** この機能は、新世代エンジンでは削除されており、ご利用いただけません。



REV\_SD.

スキャンドライババージョン表示

## 7.7. ソフトウェアバージョンの表示

ソフトウェアバージョンを出力するには次のバーコードを読み取ります。



REVINF.

ソフトウェアバージョン表示

## 7.8. データ編集の表示

現在設定されているデータ編集の状態を出力するには次のバーコードを読み取ります。



DFMBK3?.

データ編集設定表示

## 7.9. テストメニュー

この機能を有効にしたあと、このマニュアル内のプログラミングコードを読み取ると、スキャナはプログラミングコードの内容（コマンド）を表示します。プログラミング機能は維持されます。

**注意！** この機能は通常のスキャナ操作では使用しないでください。

初期値 = 無効



TSTMNU1.

有効



TSTMNU0.

無効

## 8. USB インタフェース設定

### 8.1. USB デバイスタイプ

#### 8.1.1. USB IBM SurePos

次のコードの1つを読み取り、**IBM SurePOS (USB ハンドヘルドスキャナ)** または **IBM SurePos (USB テーブルトップスキャナ)** にスキャナを設定します。

✎ これらのコードを読み取った後、キャッシュレジスタの電源を切って入れ直してください。



TERMID128.

USB IBM SurePos  
(USB ハンドヘルドスキャナ)



TERMID129.

USB IBM SurePos  
(USB テーブルトップスキャナ)

上記の各バーコードは、各シンボルに対して次のサフィックス設定も行ないます。

シンボル	サフィックス	シンボル	サフィックス
EAN/JAN-8	0C	Code 39	00 0A 0B
EAN/JAN-13	16	Interleaved 2 of 5	00 0D 0B
UPC-A	0D	Code 128	00 18 0B
UPC-E	0A		

## 8.1.2. USB PC またはマッキントッシュキーボード

次のコードの1つを読み取り、**USB PC キーボード**または**USB マッキントッシュキーボード**にスキャナを設定します。



TERMID124.

USB HID キーボード (PC)



TERMID125.

USB HID キーボード (Mac)



TERMID134.

USB HID 日本語キーボード (PC)

## 8.1.3. USB HID POS

次のバーコードを読み取り、**USB HID POS** にスキャナを設定します。



TERMID131.

USB HID POS

## 8.1.4. USB CDC ホスト (USB 仮想 COM エミュレーション)

次のコードをスキャンしてスキャナを設定し、RS232 ベースの COM ポートをエミュレートします。Microsoft® Windows® PC を使用している場合、**事前にドライバのインストールが必要です**。詳細は [23. USB 仮想 COM エミュレーション](#) (270 ページ) をご覧ください。Apple® Macintosh コンピューターは、スキャナを USB CDC クラスデバイスとして認識し、クラスドライバを自動的に使用します。

- ✎ ドライバインストール前に設定を変更してしまった場合は、スキャナを USB ポートから取り外した状態でドライバのインストールを行ってください。
- ✎ 追加の機器構成 (ボーレートなど) は必要ありません。



TERMID130.

USB CDC ホスト

### 8.1.4.1. CTS/RTS エミュレーション

初期値 = 無効



USBCTS1.

有効



USBCTS0.

無効

### 8.1.4.2. ACK/NAK モード

初期値 = 無効



USBACK1.

有効



USBACK0.

無効

## 8.2. キーボードレイアウト

国または言語に対応したキーボードレイアウトを次の適切な国コードを読み取って設定します。原則として、次の文字群はサポートされていますが、アメリカ以外の国では特別な注意が必要です：

@ | \$ " { } [ ] = / ' \ < > ~

初期値 = アメリカ



KBDCTY0.  
アメリカ



KBDCTY35.  
アルバニア



KBDCTY81.  
アゼルバイジャン (キリル文字)



KBDCTY80.  
アゼルバイジャン (ラテン文字)



KBDCTY82.  
ベラルーシ



KBDCTY1.  
ベルギー



KBDCTY33.  
ボスニア

## 8.2. キーボードレイアウト (続き)



KBDCTY16.

ブラジル



KBDCTY59.

ブラジル (US)



KBDCTY52.

ブルガリア (キリル文字)



KBDCTY53.

ブルガリア (ラテン文字)



KBDCTY54.

カナダ (フランス語 Legacy)



KBDCTY18.

カナダ (フランス語)



KBDCTY55.

カナダ (マルチリンガル標準)



KBDCTY32.

クロアチア

## 8.2. キーボードレイアウト (続き)



KBDCTY15.

チェコ



KBDCTY40.

チェコ (プログラマ)



KBDCTY39.

チェコ (QWERTY 配列)



KBDCTY38.

チェコ (QWERTZ 配列)



KBDCTY8.

デンマーク



KBDCTY11.

オランダ



KBDCTY41.

エストニア



KBDCTY83.

フェロー語

## 8.2. キーボードレイアウト (続き)



KBDCTY2.

フィンランド



KBDCTY3.

フランス



KBDCTY84.

ゲール語



KBDCTY4.

ドイツ



KBDCTY17.

ギリシャ



KBDCTY64.

ギリシャ (220 ラテン)



KBDCTY61.

ギリシャ (220)



KBDCTY65.

ギリシャ (319 ラテン)

## 8.2. キーボードレイアウト (続き)



KBDCTY62.

ギリシャ (319)



KBDCTY63.

ギリシャ (ラテン)



KBDCTY66.

ギリシャ (US)



KBDCTY60.

ギリシャ (Polytonic)



KBDCTY12.

ヘブライ語



KBDCTY50.

ハンガリー (101 キーボード)



KBDCTY19.

ハンガリー



KBDCTY75.

アイスランド

## 8.2. キーボードレイアウト (続き)



KBDCTY73.

アイルランド



KBDCTY56.

イタリア (142)



KBDCTY5.

イタリア



KBDCTY28.

日本



KBDCTY78.

カザフスタン



KBDCTY79.

キルギスタン (キリル文字)



KBDCTY14.

ラテンアメリカ



KBDCTY42.

ラトビア

## 8.2. キーボードレイアウト (続き)



KBDCTY43.

ラトビア (QWERTY 配列)



KBDCTY44.

リトアニア



KBDCTY45.

リトアニア (IBM)



KBDCTY34.

マケドニア



KBDCTY74.

マルタ



KBDCTY86.

モンゴル (キリル文字)



KBDCTY9.

ノルウェー



KBDCTY20.

ポーランド

## 8.2. キーボードレイアウト (続き)



KBDCTY57.

ポーランド (214)



KBDCTY58.

ポーランド (プログラマ)



KBDCTY13.

ポルトガル



KBDCTY25.

ルーマニア



KBDCTY26.

ロシア



KBDCTY67.

ロシア (MS)



KBDCTY68.

ロシア (タイプライター)



KBDCTY21.

SCS

## 8.2. キーボードレイアウト (続き)



KBDCTY37.

セルビア (キリル文字)



KBDCTY36.

セルビア (ラテン文字)



KBDCTY22.

スロバキア



KBDCTY49.

スロバキア (QWERTY 配列)



KBDCTY48.

スロバキア (QWERTZ 配列)



KBDCTY31.

スロベニア



KBDCTY10.

スペイン



KBDCTY51.

スペイン (バリエーション)

## 8.2. キーボードレイアウト (続き)



KBDCTY23.

スウェーデン



KBDCTY29.

スイス (フランス語)



KBDCTY6.

スイス (ドイツ語)



KBDCTY85.

タタール語



KBDCTY27.

トルコ語 F



KBDCTY24.

トルコ語 Q



KBDCTY76.

ウクライナ



KBDCTY7.

イギリス

## 8.2. キーボードレイアウト (続き)



KBDCTY87.

アメリカ (Dvorak 配列)



KBDCTY88.

アメリカ (左きき用 Dvorak 配列)



KBDCTY89.

アメリカ (右きき用 Dvorak 配列)



KBDCTY30.

アメリカ (インターナショナル配列)



KBDCTY77.

ウズベキスタン (キリル文字)

## 8.3. キーボードスタイル

例えば Caps Lock や Shift Lock など、キーボードスタイルを設定します。8.4. 大文字・小文字変換 (53 ページ) の設定は、キーボードスタイルの設定より優先されます。

**標準**は、通常、Caps Lock キーが OFF の場合に使用します。

**Caps Lock** は、通常、Caps Lock キーが ON の場合に使用します。

**Shift Lock** は、Shift Lock キーが ON の場合に使用します。この機能は、Shift Lock が使用できないシステムでは動作しません。

**自動 Caps Lock** は、Caps Lock キーの ON と OFF を切り替える場合に使用します。Caps Lock が ON または OFF になった場合、スキャナは Caps Lock キーの状態を監視し、常に正しい文字を送信します。この機能は Caps Lock の状態を示す LED を持ったシステムでのみ使用できます (AT キーボード)。

**NumLock を介した自動 Caps Lock** は、Caps Lock キーを使用して Caps Lock を切り替えることができない国 (ドイツ、フランスなど) で使用します。このオプションは、通常の自動 Caps Lock と同じように機能しますが、NumLock キーを使用して Caps Lock の現在の状態を取得します。

**外部キーボードエミュレート**は、外部キーボード (IBM AT または同等のもの) がない場合に使用します。

初期値 = 標準



KBDSTY0.

標準



KBDSTY1.

Caps Lock



KBDSTY2.

Shift Lock



KBDSTY6.

自動 Caps Lock

### 8.3. キーボードスタイル (続き)



KBDSTY7.

NumLock を介した自動 Caps Lock



KBDSTY5.

外部キーボードエミュレート

## 8.4. 大文字・小文字変換

アルファベットを強制的にすべて大文字またはすべて小文字に変換することができます。たとえば「abc569GK」というバーコードを読み取った場合、**すべて大文字に変換**であれば「ABC569GK」として、**すべて小文字に変換**であれば「abc596gk」として出力されます。

- ✎ これらの設定は [8.3. キーボードスタイル](#) (52 ページ) の設定より優先されます。
- ✎ 使用しているインターフェースがキーボードウェッジの場合、最初に [8.3. キーボードスタイル](#) (52 ページ) の**自動 Caps Lock** を設定してください。そうしなければ、希望されている文字と異なる結果が出力される場合があります。

初期値 = 変換しない



KBDCNV0.

変換しない



KBDCNV1.

すべて大文字に変換する



KBDCNV2.

すべて小文字に変換する

## 8.5. 制御文字出力

この機能は、制御文字の代わりに文字列を送信します。例えば、キャリッジリターンの制御文字は、ASCII コード「0D」の代わりに「[CR]」を出力し表示します。代わりに表示される文字列については [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) を参照してください。00 から 1F までが変換されます (チャートの 2 列目)。

✎ Ctrl+ASCII モードは、この機能より優先されます。

✎ [ ] は、使用している国コードや PC の地域設定によって異なる場合があります。

初期値 = 無効



## 8.6. キーボード出力の変更

これは、たとえば **CTRL+ASCII モード**や**ターボモード**のような特殊なキーボード機能を設定します。

**Windows モードの Control + ASCII モード有効**は、00 ~ 1F までの ASCII 制御文字をキーの組み合わせとして送信します。Windows 上で推奨されるモードです。すべてのキーボードの国コードでサポートされています。DOS モードは昔のモードで、すべてのキーボードの国コードをサポートしているわけではありません。新規のユーザーは、Windows モードを使用することを推奨いたします。CTRL+ASCII 値については [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) を参照してください。

**Windows モード プリフィックス/サフィックス無効**は、00 ~ 1F までの ASCII 制御文字をキーの組み合わせとして送信しますが、プリフィックスまたはサフィックスの変換は一切行ないません。

初期値 = Control + ASCII モード無効



Windows モードの Control + ASCII モード有効



Control + ASCII モード無効

## 8.6. キーボード出力の変更 (続き)



KBDCAS1.

DOS モードの Control + ASCII モード有効



KBDCAS3.

Windows モードプリフィックス / サフィックス無効

### 8.6.1. ターボモード

**ターボモード**は、文字をターミナルに素早く送信します。ターミナルが文字の欠落を起こす場合はターボモードを使用しないでください。

初期値 = ターボモード無効



KBDTMD1.

ターボモード有効



KBDTMD0.

ターボモード無効

### 8.6.2. テンキーモード

**テンキーモード**は、あたかもテンキーパッドで入力したように数字を送信します。

初期値 = テンキーモード無効



KBDNPS1.

テンキーモード有効



KBDNPS0.

テンキーモード無効

### 8.6.3. 自動直接接続モード

自動直接接続モードは、IBM AT スタイルターミナルおよびシステムが文字の欠落を起こす場合に使用することができます。

初期値 = 自動直接モード無効



自動直接接続モード有効



自動直接接続モード無効

### 8.6.4. HEX 変換出力

HEX 変換出力は、読み取ったすべての文字列を 4 桁の 16 進数に変換して出力することができます。

初期値 = HEX 変換出力無効



HEX 変換出力有効



HEX 変換出力無効

## 9. RS232 インタフェース設定

### 9.1. RS232 シリアルポート

PC やターミナルのシリアルポートと接続するときには、**RS232 インタフェース**バーコードは使用されます。以下の **RS232 インタフェース**バーコードは、**CRLF サフィックス**（16 進数 10、13）および以下に示される**ボーレート**、**データフォーマット**も設定します。また、トリガーモードも**マニュアルトリガーモード**へ変更します。

オプション	パラメータ
ボーレート	115,200 bps
データフォーマット	8 データビット、1 ストップビット、パリティなし



PAP232.

RS232 インタフェース

### 9.2. RS232 初期化

このセクションのすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



232DFT.

RS232 初期化

## 9.3. RS232 ボーレート

ボーレートは1秒間に送信されるデータのビット数です。スキャナのボーレートは、ホストのボーレートと一致するように設定してください。そうしないと、データがホストへ到達できなかったり、不正な歪んだデータとして到達したりする可能性があります。

初期値 = 115,200



232BAD0.

300



232BAD1.

600



232BAD2.

1200



232BAD3.

2400



232BAD4.

4800



232BAD5.

9600



232BAD6.

19200

### 9.3. RS232 ボーレート (続き)



232BAD7.

38400



232BAD8.

57600



232BAD9.

115200

## 9.4. RS232 データビット、ストップビット、パリティ

**データビット**は各 ASCII 文字コードのデータ長を選択します。ホストデバイスの要件に合わせてデータビットを選択します。

**ストップビット**は各 ASCII 文字コードの最後にある 1 文字の送信の終わりを伝えるための役割を持っています。ホストデバイスの要件に合わせて、ストップビットを選択します。

**パリティ**は、データが正常に送られたかどうかを検査するために各 ASCII 文字コードに付加されるビットです。ホストデバイスの要件に合わせてパリティタイプを選択します。

初期値 = データ 8、ストップ 1、パリティなし



232WRD3.

データ 7、ストップ 1、偶数パリティ



232WRD0.

データ 7、ストップ 1、パリティなし



232WRD6.

データ 7、ストップ 1、奇数パリティ



232WRD4.

データ 7、ストップ 2、偶数パリティ



232WRD1.

データ 7、ストップ 2、パリティなし



232WRD7.

データ 7、ストップ 2、奇数パリティ

#### 9.4. RS232 データビット、ストップビット、パリティ (続き)



232WRD5.

データ 8、ストップ 1、偶数パリティ



232WRD2.

データ 8、ストップ 1、パリティなし



232WRD8.

データ 8、ストップ 1、奇数パリティ



232WRD14.

データ 8、ストップ 1、マークパリティ

#### 9.5. RS232 レシーバertimeアウト

スキャナは、RS232 レシーバertimeアウトが切れるまで、データを受信するために待機状態のままです。マニュアルトリガーまたはシリアルトリガーでタイムアウトをリセットします。RS232 レシーバertimeアウトがスリープ状態の場合、文字を送信してタイムアウトをリセットすることができます。CTS ライン上のトランザクションでもレシーバertimeアウトを起動します。レシーバertimeアウトが完全に立ち上がるには 300 ミリ秒かかります。RS232 レシーバertimeアウトの値を変更するには、以下のバーコードを読み取ってから設定したい遅延時間 (0 ~ 300 秒) を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の数字を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0 (常にオン)



232LPT.

RS232 レシーバertimeアウト

## 9.6. RS232 ハンドシェイク

RS232 ハンドシェイクは、ホストデバイスからのソフトウェアコマンドを使用して、スキャナからのデータ送信の制御を行います。**RTC/CTS オフ**の場合は、フロー制御は行われません。

**フロー制御、タイムアウトなし**：スキャナは、送信するデータがある場合は RTS をアサートし、ホストによって CTS がアサートされるまで無期限に待機します。

**双方向フロー制御**：スキャナは、ホストへの送信が OK の場合は RTS をアサートします。ホストは、スキャナへの送信が OK の場合は CTS をアサートします。

**フロー制御、タイムアウトあり**：スキャナは、送信するデータがある場合は RTS をアサートし、ホストによって CTS がアサートされるまで [9.7. RS232 タイムアウト](#) (63 ページ) で設定された期間待機します。待機中に CTS がアサートされずにタイムアウト期限が切れた場合は、スキャナの送信バッファはクリアされ、読取りが再開されます。

初期値 = RTS/CTS オフ



232CTS1.

フロー制御、タイムアウトなし



232CTS2.

双方向フロー制御



232CTS3.

フロー制御、タイムアウトあり



232CTS0.

RTS/CTS オフ

## 9.7. RS232 タイムアウト

9.6. RS232 ハンドシェイク (62 ページ) がフロー制御、タイムアウトありの場合、ホストからの CTS を待機するための時間をプログラムする必要があります。以下のバーコードを読み取ってから設定したいタイムアウト時間 (1 ~ 5,100 ミリ秒) を 31. プログラミングチャート (311 ページ) の数字を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 3100



232DEL.

RS232 タイムアウト

## 9.8. RS232 XON/XOFF

ASCII 制御文字を使用して、スキャナにデータの送信を開始する (XON/XOFF オン) か、データの送信を停止する (XON/XOFF オフ) ように指示できます。ホストが XOFF 文字 (DC3、16 進数 13) をスキャナに送信すると、データ送信が停止します。送信を再開するために、ホストは XON 文字 (DC 1、16 進数 11) を送信します。XOFF が送信されたときに中断したところからデータ送信が続行されます。

初期値値 = XON/XOFF オフ



232XON1.

XON/XOFF オン



232XON0.

XON/XOFF オフ

## 9.9. RS232 ACK/NAK

データを送信した後、スキャナはホストからの ACK 文字（16 進数 06）または NAK 文字（16 進数 15）の応答を待ちます。ACK を受信すると、通信サイクルが完了し、スキャナは次のバーコードを読み取ることができます。NAK を受信すると、バーコードデータが再送信され、スキャナはホストからの ACK または NAK の応答を再び待ちます。

初期値 = ACK/NAK オフ



232ACK1.

ACK/NAK オン



232ACK0.

ACK/NAK オフ

## 10. 入出力設定

### 10.1. 電源投入時のビープ音

電源投入時のビープ音を鳴らしたくない場合は、**無効**を読み取ってください。

初期値 = 有効



### 10.2. [BEL] 文字とビープ音

ホストからのコマンド送信で強制的にビープ音を鳴らしたい場合は、以下より **[BEL] 文字を使用する**を読み取ります。スキャナはホストから [BEL] 文字を受信するたびにビープ音を鳴らします。

初期値 = [BEL] 文字を使用しない



## 10.3. トリガークリック音

トリガーボタンを押すたびにクリック音を鳴らしたい場合は、以下より**有効**を読み取ります。(この機能は、シリアル通信や自動トリガーでは使用できません。)

初期値 = 無効



## 10.4. 読取り成功とエラーの表示

### 10.4.1. ビープ音の鳴動 (読取り成功)

読取り成功時のビープ音を鳴らしたくない場合は、以下より無効を読み取ります。この機能を無効にしても、エラー音やメニュー音は無効になりません。

初期値 = 有効



## 10.4.2. ビープ音の音量（読取り成功）

読取り成功時のビープ音の音量を変更したい場合は、以下より読み取ります。

初期値 = 大



BEPLVL1.

小



BEPLVL2.

中



BEPLVL3.

大



BEPLVL0.

なし

### 10.4.3. ビープ音の音程（読取り成功）

読取り成功時のビープ音の音程を変更したい場合は、以下より読み取ります。

初期値 = 中



BEPFQ11600.

低 (1600 Hz)



BEPFQ12700.

中 (2700 Hz)



BEPFQ14200.

高 (4200 Hz)

### 10.4.4. ビープ音の音程（エラー）

エラー時のビープ音の音程を変更したい場合は、以下より読み取ります。

初期値 = 低



BEPFQ2250.

低 (250 Hz)



BEPFQ23250.

中 (3250 Hz)



BEPFQ24200.

高 (4200 Hz)

### 10.4.5. ビープ音の鳴動時間（読取り成功）

読取り成功時のビープ音の鳴動時間を変更したい場合は、以下より読み取ります。

初期値 = 標準



### 10.4.6. LED の明滅（読取り成功）

読取り成功時に LED の点灯をしたくない場合は、以下より無効を読み取ります。

初期値 = 有効



### 10.4.7. ビープ音の鳴動回数（読取り成功）

読取り成功時のビープ音の鳴動回数を、**1～9回の範囲**で設定することができます。ここで設定した回数と同じ回数が、[10.4.1. ビープ音の鳴動（読取り成功）](#)（66 ページ）と [10.4.6. LED の明滅（読取り成功）](#)（69 ページ）に適用されます。たとえば、このオプションを 5 回に設定した場合、読取り成功時にビープ音が 5 回鳴動し LED が 5 回明滅します。ビープ音と LED はお互いに同期しています。

回数を変更したい場合は、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（1～9 回）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 1 回



BEP RPT.

ビープ音の鳴動回数と LED の明滅回数（読取り成功）

### 10.4.8. ビープ音の鳴動回数（エラー）

エラー時のビープ音の鳴動回数を、0～9 回の範囲で設定することができます。たとえば、このオプションを 5 回に設定した場合、エラー時にビープ音が 5 回鳴動し LED が 5 回明滅します。

回数を変更したい場合は、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（1～9 回）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 1 回



BEP ERR.

ビープ音の鳴動回数と LED の明滅回数（エラー）

## 10.5. 読取り遅延

この設定は、読取り成功後に次のバーコードを読取ることができるようになるまでの遅延時間を変更します。

初期値 = 遅延なし



### 10.5.1. ユーザー定義の読取り遅延

読取り成功後に次のバーコードを読取ることができるようになるまでの遅延時間を任意の値に変更したい場合は、以下のバーコードを読取ってから設定したい遅延時間（0～30,000 ミリ秒）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



## 10.6. マニュアルトリガーモード

マニュアルトリガーモードのとき、スキャナはバーコードを読み取るかトリガーボタンを解放するまで読取りを行いません。マニュアルトリガーモードでは、**標準モード**と**拡張モード**の2つのモードを使用することができます。**標準モード**では、良好なスキャン速度と最長の被写界深度（読取距離）が提供されます。**拡張モード**では、読取りエンジンの許容する最速の読取り速度を提供しますが、被写界深度が少し短くなります。拡張モードは、長い読取距離が必要無く、最速の読取り速度が必要な場合に適しています。

初期値 = マニュアルトリガー（標準）



マニュアルトリガー（標準）



マニュアルトリガー（拡張）

### 10.6.1. シングルコードセンタリング

シングルコードセンタリングをスキャンして、赤色レーザー照準の中心に最も近いバーコードを読取りのターゲットにします。この方法で、複数のバーコードが近距離に存在する場合のスキャン精度が向上します。

初期値 = 未定義



DECWIN1;DECTOP49;DECBOT51;  
DECRGT51;DECLFT49.

シングルコードセンタリング

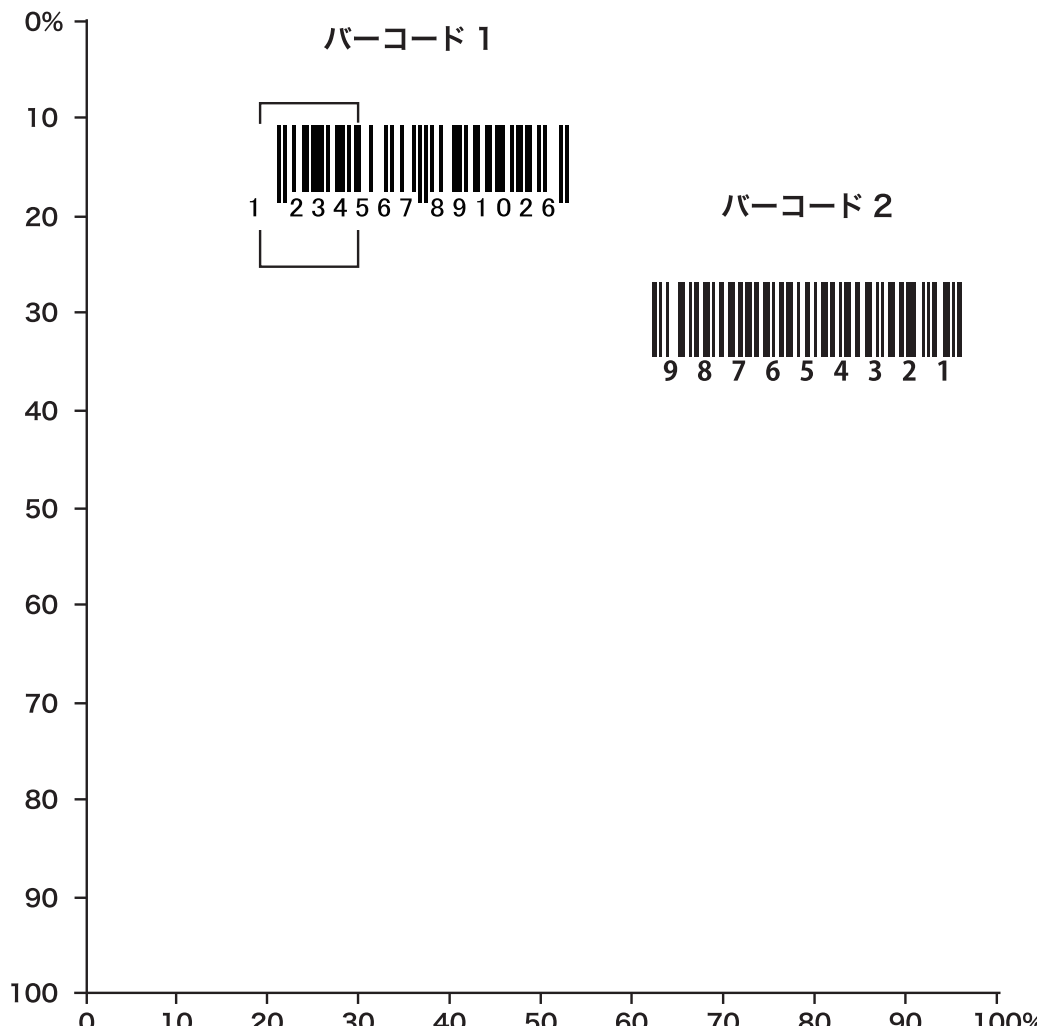
## 10.6.2. カスタムセンタリング

カスタムセンタリングを使用しスキャナの読取り領域を狭めると、意図したバーコードだけを読み取ることができます。たとえば、複数のバーコードが近い位置に配置されている場合、この機能はターゲットのバーコードだけを読み取るために役立ちます。

✎ プレゼンテーションモードのセンタリングについては、[10.7.3. プレゼンテーションセンタリング](#) (77 ページ) を参照してください。

カスタムセンタリングが**有効**の場合、スキャナは**センタリングウィンドウ上/下/左/右**を使用して指定しているセンタリングウィンドウを通過したバーコードだけを読み取ります。

以下の例で、白い四角がセンタリングウィンドウです。この例では、センタリングウィンドウの左を 20%、右を 30%、上を 8%、下を 25% に設定しています。バーコード 1 はセンタリングウィンドウを通過しているの  
で読み取られます。バーコード 2 はセンタリングウィンドウを通過していないので読み取られません。



✎ バーコードを読み取るためにはセンタリングウィンドウに触れる必要があります。センタリングウィンドウを完全に通過する必要はありません。

センタリングウィンドウの範囲を変更するには、**カスタムセンタリング**を**有効**にし、以下の変更する**センタリングウィンドウの上/下/左/右**の1つを読取ってから、設定したいパーセンテージを **31. プログラミングチャート** (311 ページ) の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

カスタムセンタリング = 無効



DECWIN1.

カスタムセンタリング 有効



DECWIN0.

カスタムセンタリング 無効

センタリングウィンドウ = 上 40%、下 60%、左 40%、右 60%



DECTOP.

センタリングウィンドウ 上



DECBOT.

センタリングウィンドウ 下



DECLFT.

センタリングウィンドウ 左



DECRGT.

センタリングウィンドウ 右

## 10.7. プレゼンテーションモード

プレゼンテーションモードは、周辺の光を利用してバーコードを検知します。バーコードが検知されるまでスキャナは待機状態となり、バーコードを検知した後 LED を光らせてバーコードを読み取ります。周囲の環境光がバーコードを検知するために必要な明るさに達していない場合、プレゼンテーションモードは適切に動作しません。



PAPTPR.

プレゼンテーションモード

### 10.7.1. 読取り成功後のプレゼンテーション LED 動作

プレゼンテーションモードでの動作中にバーコードの読取りを行うと、通常は5秒後にLED照明が暗くなり赤色レーザー照準が消灯します。バーコードの読取り直後にLED照明を暗くし赤色レーザー照準を消灯したい場合は、**LED オフ**に設定してください。

**注** スキャナを天板の白い机の上に置いたり、スキャナの読取り範囲に動く物体が有ったりする場合は、本機能が正しく動作しない場合があります。

初期値 = LED オン



TRGPCK0.

LED オフ



TRGPCK1.

LED オン

## 10.7.2. プレゼンテーション感度

バーコードに対するスキヤナの反応時間を増加または減少させるには、以下のバーコードを読み取ってから数値(0～20)を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の数字を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。「0」は最も敏感な設定で、「20」は最も鈍感な設定です。

注 この機能は、最新のスキヤナエンジンでは削除されており、ご利用いただけません。

初期値 = 1



TRGPMS.

プレゼンテーション感度

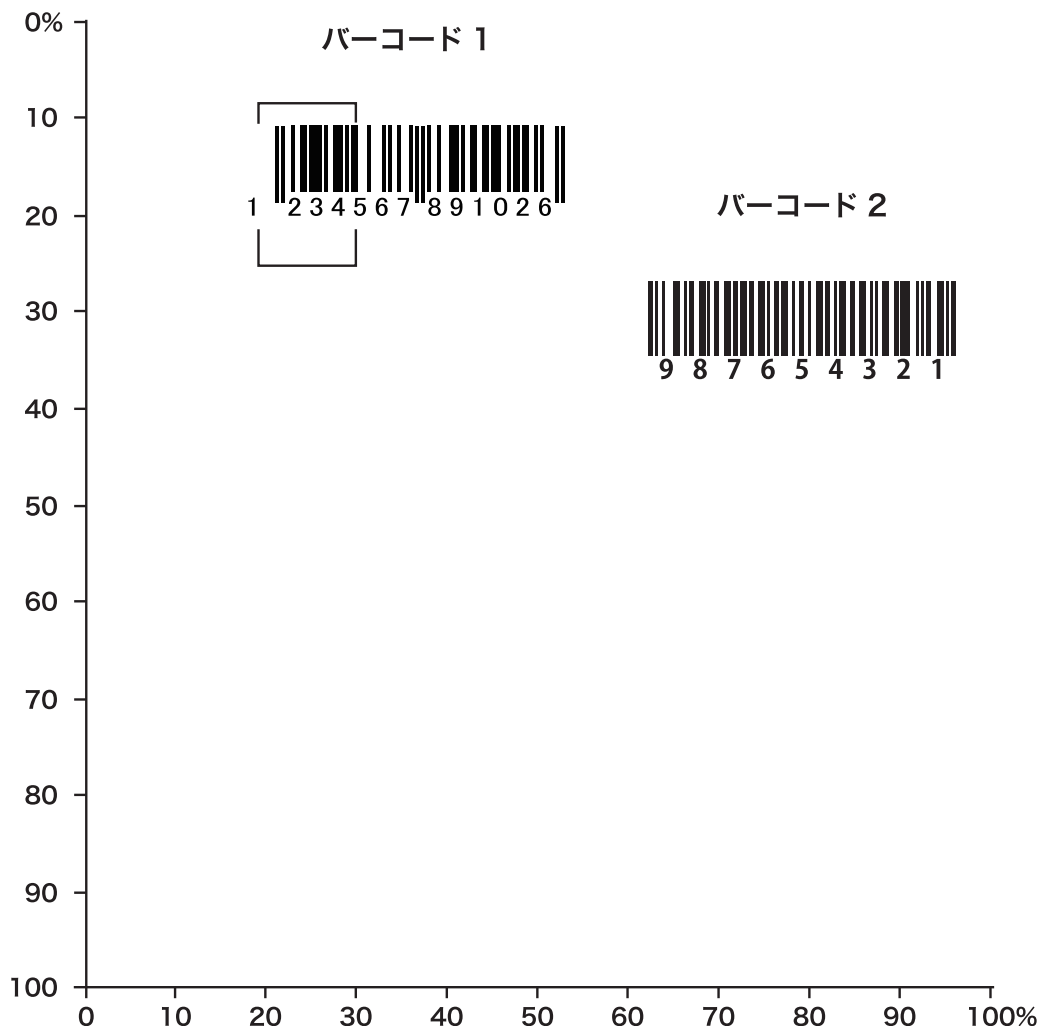
### 10.7.3. プレゼンテーションセンタリング

プレゼンテーションセンタリングを使用しスキャナの読取り領域を狭めると、意図したバーコードだけを確実に読み取ることができます。たとえば、複数のバーコードが近い位置に配置されている場合、この機能はターゲットのバーコードだけを読み取るために役立ちます。

✎ マニュアルトリガーモードについては、[10.6.2. カスタムセンタリング](#) (73 ページ) を参照してください。

プレゼンテーションセンタリングが**有効**の場合、スキャナは**センタリングウィンドウ上/下/左/右**を使用して指定しているセンタリングウィンドウを通過したバーコードだけを読み取ります。

以下の例で、白い四角がセンタリングウィンドウです。この例では、センタリングウィンドウの左を 20%、右を 30%、上を 8%、下を 25% に設定しています。バーコード 1 はセンタリングウィンドウを通過しているの  
で読み取られます。バーコード 2 はセンタリングウィンドウを通過していないので読み取られません。



✎ バーコードを読み取るためにはセンタリングウィンドウに触れる必要があります。センタリングウィンドウを完全に通過する必要はありません。

センタリングウィンドウの範囲を変更するには、**プレゼンテーションセンタリング**を**有効**にし、以下の変更す

るセンタリングウィンドウの上/下/左/右の1つを読取ってから、設定したいパーセンテージを 31. プログラミングチャート (311 ページ) の数字を使用して設定し、最後に保存を読み取ります。

プレゼンテーションセンタリング = 無効



PDCWIN1.

プレゼンテーションセンタリング 有効



PDCWIN0.

プレゼンテーションセンタリング 無効

センタリングウィンドウ = 上 40%、下 60%、左 40%、右 60%



PDCTOP.

センタリングウィンドウ 上



PDCBOT.

センタリングウィンドウ 下



PDCLFT.

センタリングウィンドウ 左



PDCRGT.

センタリングウィンドウ 右

## 10.8. ストリーミングプレゼンテーションモード

ストリーミングプレゼンテーションモードの場合、スキャンエンジンの赤色レーザー照準は短時間で消灯しますが、バーコードの検知率を上げるために LED 照明は常にオンのままです。**標準モード**では、良好なスキャン速度と最長の被写界深度（読取距離）が提供されます。**拡張モード**では、読取りエンジンの許容する最速の読取り速度を提供しますが、被写界深度が短くなります。

- ✎ 11. **優先シンボル**（91 ページ）を使用する場合、ストリーミングプレゼンテーションモードで読み取るには、優先順位の低いシンボルを照準パターンの中央に配置する必要があります。
- ✎ ストリーミングプレゼンテーションモードの使用中は設定バーコードの検出率が低下します。設定を変更したり、初期化したい場合は、一度 **10.7. プレゼンテーションモード**（75 ページ）に戻してから、**10.6. マニュアルトリガーモード**（72 ページ）に変更し、設定変更後に再びストリーミングプレゼンテーションモードを設定してください。



PAPSPN.

ストリーミングプレゼンテーション（標準）



PAPSPE.

ストリーミングプレゼンテーション（拡張）

## 10.9. ホストトリガーモード

ホストトリガーモードを使用する場合、スキャナは [23. USB 仮想 COM エミュレーション](#) (270 ページ) または [RS232 インタフェース](#) でホストと接続されている必要があります。

### 10.9.1. 文字によるトリガーの有効化

ホストから送信された文字を使用して、スキャナのトリガーを有効化し読取りを開始できます。スキャナが [10.9.3. 有効化文字](#) (81 ページ) を受信すると、[10.9.5. ホストトリガータイムアウト](#) (81 ページ) の時間に達するか、[10.9.4. 無効化文字](#) (81 ページ) を受信するか、バーコードを読み取って送信されるまでスキャンを続けます。

初期値 = 無効



### 10.9.2. 文字によるトリガーの無効化

ホストから送信された文字を使用して、スキャナのトリガーを無効化し読取りを中止できます。

初期値 = 無効



### 10.9.3. 有効化文字

10.9.1. [文字によるトリガーの有効化](#) (80 ページ) で使用する**有効化文字**を設定、変更することができます。設定を行うには、以下のバーコードを読取ってから、[28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) で有効化文字に設定したい文字を見つけ、その文字の 16 進値を表す 2 桁の英数字を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**英数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = [DC2] (16 進値: 12)



HSTACH.

有効化文字

### 10.9.4. 無効化文字

10.9.2. [文字によるトリガーの無効化](#) (80 ページ) で使用する**無効化文字**を設定、変更することができます。設定を行うには、以下のバーコードを読取ってから、[28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) で無効化文字に設定したい文字を見つけ、その文字の 16 進値を表す 2 桁の英数字を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**英数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = [DC4] (16 進値: 14)



HSTDCH.

無効化文字

### 10.9.5. ホストトリガータイムアウト

10.9.1. [文字によるトリガーの有効化](#) (80 ページ) において、バーコードを読み取るためにトリガーを有効化し続ける期間を設定します。以下のバーコードを読取ってから設定したいタイムアウト時間 (0 ~ 300,000 ミリ秒) を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 30,000 ミリ秒 (30 秒)



HSTCDT.

ホストトリガータイムアウト

### 10.9.6. 読取り成功後のトリガー状態

読取りの成功後に、照明および照準をオンのままにして読取り続けるかどうかを設定できます。**無効化する**を選択している場合は読取りが完了すると照明および照準がオフとなりスキャンを停止します。**無効化しない**を選択している場合は読取りが完了しても照明および照準はオンのままスキャンを行います。

初期値 = 無効化する



HSTCGD0.

無効化しない



HSTCGD1.

無効化する

### 10.10. 複数シンボル読込み

この機能を**有効**にすると、スキャナのトリガーを1回引くだけで複数のシンボルを読み取ることができます。トリガーを引き続けて複数のシンボルにスキャナを向けると、読み取りごとにビーブ音が鳴り（オンの場合）一意のシンボルを1回読み取ります。スキャナは、トリガーが引かれているあいだ、新しいシンボルを見つけようとして読み取りしようとします。

初期値 = 無効



SHOTGN0.

無効



SHOTGN1.

有効

## 10.11. LED 照明

スキャン中のLED照明を消灯したい場合はオフを設定します。この設定は、照準パターンには影響を与えません。照準パターンの設定は、[10.12. 照準パターン](#) (83 ページ) を参照してください。

初期値 = オン



## 10.12. 照準パターン

### 10.12.1. 照準モード

スキャン中の照準パターンを投影したくない場合はオフを設定します。

初期値 = インターレース



## 10.12.2. 照準遅延時間

**照準遅延時間**によって、作業者がバーコードを読み取る前に照準を合わせる時間を設けることが可能になります。以下の設定コードを使用してトリガーを引いてからバーコードを読み取るまでの時間を設定します。設定された時間の間は、照準パターンは投影されますが、遅延時間が経過するまで LED 照明は点灯せず読取りも行いません。

初期値 = 遅延無し



SCNDLY0.

遅延無し



SCNDLY1.

1 ミリ秒



SCNDLY250.

250 ミリ秒



SCNDLY500.

500 ミリ秒

### 10.12.2.1. ユーザー定義の照準遅延時間

照準遅延時間を任意の値に変更したい場合は、以下のバーコードを読取ってから設定したい遅延時間（0～4,000 ミリ秒）を **31. プログラミングチャート**（311 ページ）の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



SCNDLY.

ユーザー定義の照準遅延時間

### 10.12.3. 照準照射時間

トリガーボタンを解放した後も、照準パターンを投影したままにする時間を指定します。

初期値 = オフ



#### 10.12.3.1. ユーザー定義の照準照射時間

照準照射時間を任意の値に変更したい場合は、以下のバーコードを読取ってから設定したい照射時間（0～240,000 ミリ秒）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



ユーザー定義の照準遅延時間

## 10.13. スマートフォン画面読取りモード

このモードが選択されている場合、スキャナはスマートフォンやその他の液晶ディスプレイ上に表示されているバーコードの読取りに対して最適化されます。ただし、この機能を使用すると紙面に印刷されたバーコードの読取り速度がわずかに遅くなる場合があります。液晶画面上のバーコードを読み取る場合は、画面を十分に明るくし、ターゲットのバーコードがはっきりと認識できるよう拡大してください。また、環境によっては、[10.11. LED 照明](#) (83 ページ) を**オフ**にすることで読取り精度が改善される場合があります。

✎ スマートフォン画面読取りモードを終了したい場合は、[10.6. マニュアルトリガーモード](#) (72 ページ) のバーコードを読み取ってください。



PAPHHC.

マニュアルトリガー



PAPSPC.

プレゼンテーション

## 10.14. ハンドフリータイムアウト

プレゼンテーションモードを使用しているときにスキャナのトリガーを引くと、スキャナはマニュアルトリガーモードに変更されます。ハンドフリータイムアウトの設定によって、マニュアルトリガーモードで動作する時間を設定できます。トリガーが引かれることなくタイムアウトの時間が過ぎると、スキャナはプレゼンテーションモードへ復帰します。

ハンドフリータイムアウトの時間を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したいタイムアウト (0 ~ 300,000 ミリ秒) を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 5,000 ミリ秒



TRGPT0.

ハンドフリータイムアウト

## 10.15. CodeGate

スキャナは Honeywell 特許の CodeGate 機能をサポートしています。CodeGate 機能をオンにすると、照準パターンが常に投影され、トリガーボタンを押すまではバーコードの読取りを行いません。目的のバーコードに照準を合わせてから読取りを行うことができます。CodeGate 機能は、バーコードが密集している場合や、バーコードが遠方であって狙いを定める事が難しい状況で効力を発揮します。

✎ CodeGate 機能は、マニュアルトリガーモード以外では使用できません。

初期値 = CodeGate オフ



A0SCGD0.

CodeGate オフ



A0SCGD1.

CodeGate オン

## 10.16. 二重読取り防止遅延時間

同一バーコードにおいて2回目の読取りを許可するまでの時間を設定します。この設定は、予想外の同一バーコードの二重読取りを防止するために役立ちます。より長い遅延時間は、予期しない二重読取りを最小にする効果があります。この設定は、[10.7. プレゼンテーションモード](#) (75 ページ) でのみ動作します。

初期値 = 750 ミリ秒



### 10.16.1. ユーザー定義の二重読取り防止遅延時間

同一バーコードにおいて2回目の読取りを許可するまでの時間を任意の値に変更したい場合は、以下のバーコードを読取ってから設定したい遅延時間 (0 ~ 30,000 ミリ秒) を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 750



ユーザー定義の二重読取り遅延

## 10.17.2 次元バーコードの二重読取り防止遅延時間

2次元バーコードは、他のバーコードよりも読取りに時間がかかる場合があります。この機能は、2次元バーコードに専用の二重読取り防止遅延時間を設定したい場合に使用します。**オフ**に設定された場合は、二重読取り防止遅延時間の設定が1次元/2次元バーコードの双方で使用されます。

初期値 = オフ



DLY2RR0.

オフ



DLY2RR1000.

1,000 ミリ秒



DLY2RR2000.

2,000 ミリ秒



DLY2RR3000.

3,000 ミリ秒



DLY2RR4000.

4,000 ミリ秒

## 10.18. 「読取なし」メッセージ

「読取なし」メッセージを有効にすると、スキャナはバーコードを読み取ることができなかった場合に通知します。読取りができなかった場合は「NR」を送信します。

初期値 = 無効



SHWNRD1.

有効



SHWNRD0.

無効


# 11. 優先シンボル

2種類のバーコードシンボルが1つのラベル上に表示されていて、優先度の低いシンボルを読み取り無効にできない場合に、特定のシンボルを他のシンボルよりも高い優先度として指定するようにプログラムできます。

たとえば、QRコードとCode128バーコードが同一ラベル上に存在している場合、**優先シンボル**を設定することによって、QRコードを優先して読み取らせることができるようになります。

**優先シンボル**では、各シンボルを「高優先度」、「低優先度」、「未指定」として分類します。スキャナが低優先度のシンボルを検出すると、[11.4. 優先シンボルタイムアウト](#)（92ページ）で設定されている時間は、高優先度のシンボルを検索し、低優先度のシンボルは無視します。この時間の中に高優先度シンボルが検出された場合、スキャナは高優先度のシンボルをすぐに読み取ります。

高優先度のシンボルが読み取られる前に [11.4. 優先シンボルタイムアウト](#)（92ページ）で設定されている時間が経過すると、読み取り可能な範囲に存在する低優先度または未指定のシンボルを読み取ります。このとき、読み取り可能な範囲にバーコードがない場合、読み取りは行われません。

 低優先度のシンボルを読み取るには、照準の中心に配置する必要があります。

## 11.1. 優先シンボルの使用

以下のコードを使用して、優先シンボルを有効化、無効化します。

初期値 = 使用しない



PRFENA0.  
使用しない



PRFENA1.  
使用する

## 11.2. 高優先度のシンボル

特定のシンボルを高優先度に指定するには、以下のバーコードを読取ってから、設定したいバーコードシンボルの **16 進値** を [27. シンボルチャート](#) (302 ページ) から検索し、16 進値を表す 2 桁の英数字を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の **英数字** を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 未定義



PRFCOD.

高優先度のシンボル

## 11.3. 低優先度のシンボル

特定のシンボルを高優先度に指定するには、以下のバーコードを読取ってから、設定したいバーコードシンボルの **16 進値** を [27. シンボルチャート](#) (302 ページ) から検索し、16 進値を表す 2 桁の英数字を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の **英数字** を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

低優先度のシンボルをさらに追加したい場合、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の **FF** をスキャンし、その後に追加したいシンボルの **16 進値** を [27. シンボルチャート](#) (302 ページ) から検索し、16 進値を表す 2 桁の英数字を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の **英数字** を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。この機能では最大 5 つのシンボルを設定することができます。

初期値 = 未定義



PRFBLK.

低優先度のシンボル

## 11.4. 優先シンボルタイムアウト

[11.1. 優先シンボルの使用](#) (91 ページ) を有効にし、[11.2. 高優先度のシンボル](#) (92 ページ) および [11.3. 低優先度のシンボル](#) (92 ページ) を設定したら、この機能を設定する必要があります。これは、スキャナが、低優先度のシンボルを無視して高優先度のシンボルを検索する期間です。以下のバーコードを読取ってから設定したいタイムアウト時間 (100 ~ 3,000 ミリ秒) を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の **数字** を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 500 ミリ秒



PRFPPTO.

優先シンボルタイムアウト

## 11.5. 優先シンボルの初期化

優先シンボルに関わるすべての設定を初期化するには以下のバーコードを読み取ります。



PRFDFT.

優先シンボル初期化

## 12. データ出力順序

### 12.1. はじめに

この機能を使用することにより、スキャンされる順序に関係なく、ユーザーの必要とする任意の順序で複数のバーコードデータを一括で出力することができます。最大 15 個のバーコードシンボルを定義することができます。

出力順序の編集を行うには、ターゲットとするバーコードの種類、バーコードの文字数、バーコードの先頭の文字（列）を知る必要があります。すべてのバーコードを読み取るために、データが出力されるまでトリガーを引き続ける必要があります。

この機能を使用すると、書籍用二段 JAN コードなどの複数バーコードの一括読取りおよび希望の順序でのデータの一括出力が可能となります。

### 12.2. データ出力順序の使用

この機能が使用する / 必須の場合、すべてのバーコードは編集されたデータに一致している必要があります。スキャナは、一致しないバーコードを読み取っても無視します。この機能が使用する / 必須ではないの場合、スキャナは一致していないバーコードを読み取った場合でもホストへ送信します。

✎ この機能を使用すると、[10.10. 複数シンボル読込み](#)（82 ページ）が有効になります。

初期値 = 使用しない



SEQ\_EN0.

使用しない



SEQ\_EN1.

使用する / 必須ではない



SEQ\_EN2.

使用する / 必須

## 12.3. データ出力順序の初期化

データ出力順序に関わるすべての設定を初期化するには以下のバーコードを読み取ります。



SEQDFT.

データ出力順序初期化

## 12.4. データ出力順序を編集する

この機能を編集するには設定バーコードを使用して設定するか、[22. EZConfig Scanning](#) (265 ページ) を使用して設定することができます。

- 最初に以下のコードを読み取ります。



SEQBLK.

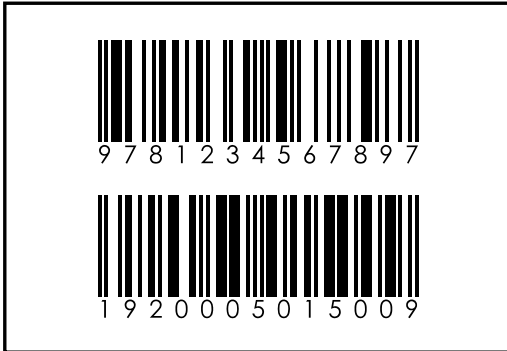
出力順序編集開始

- 対象としたいバーコードシンボルの **16 進値**を [27. シンボルチャート](#) (302 ページ) から検索し、16 進値を表す 2 桁の英数字を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**英数字**を使用して設定します。
- このシンボルで許容されるデータ出力の長さ (最大 9999 文字) を指定します。データ出力の長さを表す 4 桁の数値を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**数字**を使用して設定します。指定したい長さが 4 桁に満たない場合は 0 を追加してください (例: 50 文字の場合は、**0050**。9999 は文字数を限定しない共通番号です)。この長さは、プログラムされたプリフィックス、サフィックス、または編集された文字を長さの一部としてカウントする必要があります (9999 を使用しない場合)。
- バーコードの先頭の文字または文字列を [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) で見つけ、その文字の 16 進値を表す 2 桁の英数字を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**英数字**を使用して設定します (99 は文字を限定しない共通番号です)。
- [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) から **FF** を設定してこれまでの設定を一旦区切り、次のバーコードの設定のため再び手順 2 から開始します。すべての設定を完了する場合は、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) から **FF** を設定し、最後に**保存**を読み取ります。

✎ **保存**の代わりに**破棄**を読み取ると、それまで作成していた設定を破棄して終了します。

## 12.4.1. 書籍用二段 JAN コードの編集例

上段の JAN コードは「978」から始まり、下段の JAN コードは「192」から始まるとします。



SEQBLK.

出力順序編集開始

64	EAN/JAN コードの 16 進値
9999	EAN/JAN コードの長さ。9999 = 指定せず
393738	先頭の文字列「978」の 16 進値
FF	区切り文字
64	EAN/JAN コードの 16 進値
9999	EAN/JAN コードの長さ。9999 = 指定せず
313932	先頭の文字列「192」の 16 進値
FF	区切り文字
保存	設定を保存し終了

編集文字列：

**SEQBLK 649999393738FF649999313932FF**

出力結果：

**97812345678971920005015009**

✍ プリフィックスやサフィックスが設定されている場合、バーコード毎にそれらが追加されて出力されます。

一括設定バーコード：



SEQBLK649999393738FF649999313932FF;  
SEQ\_EN1;SUF\_EN0;PRE\_EN0.

## 13. プリフィックス / サフィックス

### 13.1. はじめに

バーコードを読み取ったとき、追加の情報としてプリフィックスまたはサフィックスをバーコードデータと一緒にホストコンピュータに送信することができます。

プリフィックス文字とサフィックス文字は、読み取ったデータの先頭または末尾に追加して送信することのできる文字列です。すべてまたは特定のシンボルを対象として追加することができます。以下の図は、送信されるデータ文字列の概要です。

プリフィックス	読み取ったデータ	サフィックス
1～11桁 英数字 & 制御文字	可変長	1～11桁 英数字 & 制御文字

### 13.2. 留意点

- 必ずしもプリフィックスまたはサフィックスを追加する必要はありません。この章の機能群は、標準の読み取りデータを変更したい場合のみ使用します。  
プリフィックス初期値 = なし、サフィックス初期値 = なし
- プリフィックスまたはサフィックスは、1つまたはすべてのシンボルに追加または削除できます。
- 任意のプリフィックスまたはサフィックスを、[28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) および AIM ID、コード ID より追加できます。
- 1度に複数の文字を入力して、連結した文字列とすることができます。
- 出力したい順番にプリフィックスとサフィックスを入力する必要があります。
- すべてのシンボルではなく特定のシンボルに対して設定したとき、特定のシンボルのコード ID の値は追加されたプリフィックスまたはサフィックスの文字として見なされます。
- プリフィックスまたはサフィックスの最大サイズは、ヘッダ情報を含めて 200 文字です。

## 13.3. 追加 / 消去方法

### 13.3.1. プリフィックスまたはサフィックスの追加

手順 1. [13.6. プリフィックス](#) (101 ページ) または [13.7. サフィックス](#) (101 ページ) から**プリフィックス追加**または**サフィックス追加**を読み取ります。

手順 2. [27. シンボルチャート](#) (302 ページ) で対象とするシンボルを見つけ、そのシンボルの 16 進値を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) より読み取って入力します。

✍ 対象となるシンボルを限定せず、すべてのシンボルに対してワイルドカードを指定する場合は、**99**を入力します。

手順 3. [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) で追加したいプリフィックスまたはサフィックスの文字を見つけ、その文字の 16 進値を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) より読み取って入力します。

✍ コード ID を追加するには **5C80**を入力します。

✍ AIM ID を追加するには **5C81**を入力します。

✍ バックスラッシュ (\) を追加するには **5C5C**を入力します。[28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) でバックスラッシュの 16 進値は **5C**となっていますが、実際に追加する場合は、**5C**を続けて 2 回入力します。

手順 4. 複数のプリフィックスまたはサフィックスを追加する場合は**手順 3**を繰り返します。

手順 5. [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) より**保存**を読み取って変更を保存するか、**破棄**を読み取って変更を保存せずに終了します。

✍ 複数のシンボルにプリフィックスまたはサフィックスを追加したい場合は、**手順 1 ~ 手順 5**を繰り返してください。

### 13.3.2. プリフィックスまたはサフィックスの消去

特定のシンボルのプリフィックス、サフィックス、またはすべてのシンボルのプリフィックス、サフィックスを消去することができます。すべてのシンボルからプリフィックスまたはサフィックスを消去したい場合は、[13.6. プリフィックス](#) (101 ページ) または [13.7. サフィックス](#) (101 ページ) から**全てのプリフィックスを消去**または**全てのサフィックスを消去**を読み取ります。特定のシンボルに追加したプリフィックスまたはサフィックスを消去したい場合は、以下の手順で行います。

手順 1. [13.6. プリフィックス](#) (101 ページ) または [13.7. サフィックス](#) (101 ページ) から**1つのプリフィックスを消去**または**1つのサフィックスを消去**を読み取ります。

手順 2. [27. シンボルチャート](#) (302 ページ) で対象とするシンボルを見つけ、そのシンボルの 16 進値を、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) より読み取って入力します。

✍ すべてのシンボルを対象とする場合は **99**を入力します。

✍ この変更は自動的に保存されます。

### 13.3.3. 例：特定のシンボルにサフィックスを追加する

UPC-A コードのみに CR（キャリッジリターン）を追加します。

- 手順 1. 13.7. サフィックス（101 ページ）から**サフィックス追加**を読み取ります。
- 手順 2. 27. シンボルチャート（302 ページ）で追加の対象とする UPC-A の 16 進値である **6 3** を、31. プログラミングチャート（311 ページ）より読み取って入力します。
- 手順 3. 28. ASCII 変換チャート（304 ページ）で "CR" の 16 進値である **0 D** を、31. プログラミングチャート（311 ページ）より読み取って入力します。
- 手順 4. 31. プログラミングチャート（311 ページ）より**保存**を読み取って変更を保存するか、**破棄**を読み取って変更を保存せずに終了します。

## 13.4. プリフィックスの送信

以下のコードを使用して、プリフィックスを送信するかどうかを設定します。**送信しない**場合、たとえプリフィックスが定義されていてもスキャナはプリフィックスを送信しません。

初期値 = 送信する



## 13.5. サフィックスの送信

以下のコードを使用して、サフィックスを送信するかどうかを設定します。**送信しない**場合、たとえサフィックスが定義されていてもスキャナはサフィックスを送信しません。

初期値 = 送信する



## 13.6. プリフィックス

- ✎ **記号**を使用する場合は、[8.2. キーボードレイアウト](#) (41 ページ) を適切に設定してください。
- ✎ **制御文字**を使用する場合は、[28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) を確認して [8.6. キーボード出力の変更](#) (54 ページ) を適切に設定してください。



プリフィックス追加



1つのプリフィックスを消去



全てのプリフィックスを消去

## 13.7. サフィックス

- ✎ **記号**を使用する場合は、[8.2. キーボードレイアウト](#) (41 ページ) を適切に設定してください。
- ✎ **制御文字**を使用する場合は、[28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) を確認して [8.6. キーボード出力の変更](#) (54 ページ) を適切に設定してください。



サフィックス追加



1つのサフィックスを消去



全てのサフィックスを消去

## 13.8. クイック設定

### 13.8.1. すべてのシンボルにコード ID プリフィックスを追加（一時的）

以下のバーコードを読み取ると、スキャナは、すべてのシンボルに対して**コード ID** プリフィックスを追加して送信します。このバーコードは一時的な設定を行うためのもので、スキャナの電源がオフになると消去されます。



PRECA2, BK2995C80!

全シンボルにコード ID プリフィックスを追加（一時的）

### 13.8.2. すべてのシンボルに AIM ID プリフィックスを追加（一時的）

以下のバーコードを読み取ると、スキャナは、すべてのシンボルに対して**AIM ID** プリフィックスを追加して送信します。このバーコードは一時的な設定を行うためのもので、スキャナの電源がオフになると消去されます。



PRECA2, BK2995C81!

全シンボルに AIM ID プリフィックスを追加（一時的）

### 13.8.3. すべてのシンボルに CR サフィックスを追加

すべてのシンボルに CR サフィックスを追加したい場合は、以下のバーコードを読み取ります。これは、最初にすべてのサフィックスを消去し、次にすべてのシンボルに対して CR サフィックスを設定します。



VSUF CR.

全シンボルに CR サフィックスを追加

### 13.8.4. USB 通信でよく使われるプリフィックスとサフィックス

以下の5つは、[8.1. USB デバイスタイプ](#) (38 ページ) が **USB HID キーボード (PC)** のときによく使われるプリフィックス/サフィックスです。



バーコードの末尾に Enter キー



バーコードの末尾に Tab キー



バーコードの先頭に Esc キー  
バーコードの末尾に Enter キー



バーコードの末尾に右 Ctrl キー



バーコードの先頭末尾に何も付けない

### 13.8.5. シリアル通信でよく使われるプリフィックスとサフィックス

以下の3つは、RS232 ケーブル接続時または [8.1. USB デバイスタイプ](#) (38 ページ) が **USB CDC ホスト** のときによく使われるプリフィックス / サフィックスの設定です。



バーコードの末尾に CR+LF



バーコードの末尾に CR



バーコードの先頭に STX  
バーコードの末尾に ETX

### 13.9. 機能コード送信

この設定が有効でスキャンしたバーコードデータに機能コードが含まれているとき、スキャナは機能コードをターミナルに送信します。これらの機能コードは、[28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) で提供されます。キーボードウェッジの場合は、スキャンコードは送信前にキーコードへ変換されます。

初期値 = 有効



RMVFNC0.

有効



RMVFNC1.

無効

## 14. 文字間、機能間、データ間遅延

スキャナからのデータの送信速度が速すぎる場合、環境によってはデータの欠落が発生する可能性があります。これらの設定はデータの送信速度を遅くし、より完全な状態でのデータの取得が可能となります。

### 14.1. 文字間遅延

読取りデータの各文字と文字の間の送信遅延を、最大 5,000 ミリ秒 (0 ~ 1,000 / 5 の倍数単位) で設定します。設定を行なうには、以下の文字間遅延を読取り、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

プリフィックス	読み取ったデータ	サフィックス
---------	----------	--------



初期値 = 0



DLYCHR.

文字間遅延

この遅延を削除するには、**文字間遅延**を読み取ったあと、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) から **0** を読取り、最後に**保存**を読み取ります。

✂ 文字間遅延は **USB CDC ホスト** ではサポートされていません。

### 14.1.1. ユーザー定義の文字間遅延

読取りデータの特定の文字と文字の間の送信遅延を、最大 5,000 ミリ秒 (0 ~ 1,000 / 5 の倍数単位) で設定します。以下の**遅延時間**を読取り、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**数字**を使用して遅延時間を設定し、最後に**保存**を読み取ります。

次に、**遅延させる文字**を読取り、[28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) の 3 桁の 10 進値を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) を使用して設定し、最後に保存を読み取ります。



DLYCRX.

遅延時間



DLY\_XX.

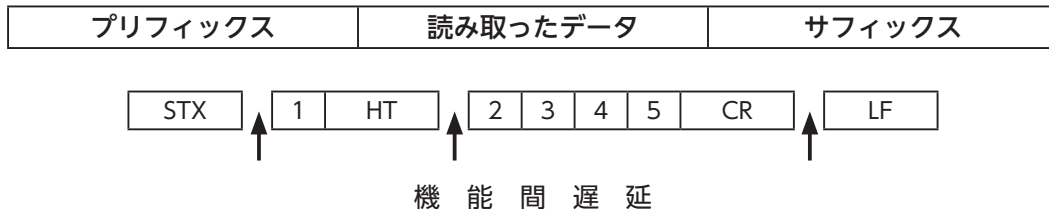
遅延させる文字

この遅延を削除するには、**遅延時間**を読み取ったあと、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) から **0** を読取り、最後に**保存**を読み取ります。

✎ 文字間遅延は **USB CDC ホスト**ではサポートされていません。

## 14.2. 機能間遅延

読取りデータの各区切り送信遅延を、最大 5,000 ミリ秒 (0 ~ 1,000 / 5 の倍数単位) で設定します。以下の**機能間遅延**を読取り、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**数字**を使用して遅延時間を設定し、最後に**保存**を読み取ります。



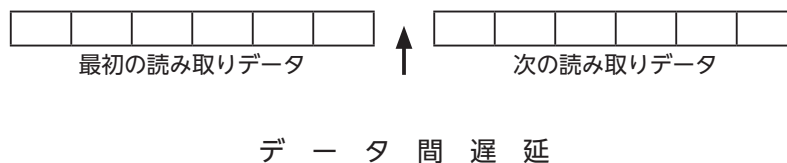
初期値 = 0



この遅延を削除するには、**機能間遅延**を読み取ったあと、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) から **0** を読取り、最後に**保存**を読み取ります。

## 14.3. データ間遅延

最初の読取りデータとその次の読取りデータとの送信遅延を、最大 5,000 ミリ秒 (0 ~ 1,000 / 5 の倍数単位) で設定します。以下の**データ間遅延**を読取り、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**数字**を使用して遅延時間を設定し、最後に**保存**を読み取ります。



初期値 = 0



この遅延を削除するには、**機能間遅延**を読み取ったあと、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) から **0** を読取り、最後に**保存**を読み取ります。

## 15. データ編集

### 15.1. はじめに

スキャナの出力を変更するにはデータ編集を使用します。たとえば、読み取ったバーコードデータのいくつかの場所に文字（列）を挿入することができます。

通常は、バーコードを読むと自動的に出力されます。しかし、データ編集を行なった場合、データを出力するためには少なくとも1つの [15.4.1. 送信コマンド](#)（113 ページ）が必要です。

スキャナは、1つのデータ編集フォーマットに複数のコマンドをプログラミングできます。たとえば、1つの読み取ったバーコードデータに対して2桁目の文字から3文字と10文字目の文字から5文字を送信することができます。それらのコマンドは入力した順に実行されるようにスキャナへ保存されますが、以下のリストはあらかじめ定義された順に保存されます。

1. 特定のターミナル ID、実際のコード ID、実際の桁数
2. 特定のターミナル ID、実際のコード ID、汎用の桁数
3. 特定のターミナル ID、汎用のコード ID、実際の桁数
4. 特定のターミナル ID、汎用のコード ID、汎用の桁数
5. 汎用のターミナル ID、実際のコード ID、実際の桁数
6. 汎用のターミナル ID、実際のコード ID、汎用の桁数
7. 汎用のターミナル ID、汎用のコード ID、実際の桁数
8. 汎用のターミナル ID、汎用のコード ID、汎用の桁数

データ編集で設定できる最大サイズは、ヘッダ情報を含めて 2,000 バイトです。

もしもデータ編集設定を変更したい場合やすべてのデータ編集設定を消去してデフォルトに戻したい場合は、以下の [データ編集初期化](#) を読み取ってください。



DFMDF3.

データ編集初期化

現在設定されているデータ編集の状態を出力するには次のバーコードを読み取ります。



DFMBK3?.

データ編集設定表示

## 15.2. 編集フォーマットの作成

スキャナは、1つの編集フォーマットに複数の条件を含めることができます。複数の条件を含めたい場合は、編集フォーマットの番号を変更せずに手順1～手順7を繰り返してください。スキャナは、それらの条件を並列条件として保存します。試行の順番は、保存された順番と等しくなります。

手順1. 次ページの設定コードから**データ編集開始**を読み取ります。

手順2. **編集フォーマット**を選択します。

スキャナは、**0**から**3**までの異なる編集フォーマットを設定し保存することができます。これらの編集フォーマットは、[15.7. 編集フォーマット](#) (125 ページ) によって任意に切り替えて使用することができます。はじめてデータ編集を行う場合は、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) より**0**を読み取ります。

手順3. **ターミナルタイプ**を選択します。

ターミナルタイプには、常に**099**を選択します。[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) より**099**を読み取ります。

手順4. **シンボルID**を選択します。

シンボルIDには、データ編集の対象としたいシンボル名を[27. シンボルチャート](#) (302 ページ) から見つけ、そのコードの16進値を[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) より読み取って入力します。たとえば、Code 128 バーコードの読取りデータだけを編集したい場合は**6A**を、QRコードの読みとりデータだけを編集したい場合は**73**を選択します。対象のシンボルを限定せずに、すべてのシンボルに対して編集を行いたい場合は**99**を選択してください。

手順5. **データ長**を選択します。

データ長には、データ編集の対象としたいシンボルに含まれる文字数を[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) より読み取って入力します。ここでは、4桁の数値(0001～9999)を使用する必要があります。たとえば、12文字で構成されているバーコードのデータだけを編集したい場合は**0012**を選択します。対象の文字数を限定せずに、すべてのシンボルに対して編集を行いたい場合は**9999**を選択してください。

手順6. **編集コマンド**を選択します。

[15.4. 編集コマンド](#) (112 ページ) を参照し、適切なコマンド構文を[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の英数字を使用して、編集を行うための条件と読み取ったバーコードデータに加える編集データを入力します。

手順7. 編集フォーマットを**保存**します。

次ページの設定コードから**保存**を読み取って変更した編集フォーマットを保存するか、**破棄**を読み取って変更を保存せずに終了します。

## 15.2. 編集フォーマットの作成 (続き)



DFMBK3.

データ編集開始



MNUSAV.

保存



MNUABT.

破棄

## 15.3. 編集フォーマットの削除

スキャナに保存されている特定の編集フォーマットだけを削除したい場合は、**編集フォーマットを選択して削除**を読み取り、**31. プログラミングチャート** (311 ページ) から削除したい編集フォーマットの番号を読み取ります。続けて**ターミナルタイプ**、**シンボル ID**、**データ長**を **31. プログラミングチャート** (311 ページ) より読み取り、最後に**保存**を読み取ります。

スキャナに保存されているすべての編集フォーマットを削除したい場合は、**編集フォーマットをすべて削除**を読み取り、続いて**保存**を読み取ります。



DFMC3.

編集フォーマットを選択して削除



DFMCA3.

編集フォーマットをすべて削除



MNUSAV.

保存



MNUABT.

破棄

## 15.4. 編集コマンド

スキャナは編集点の位置を**カーソル**として認識します。何も設定されていない場合、カーソルは常にバーコードデータの先頭に位置しています。このカーソルの位置を以降のコマンドを使用して移動し、独自の編集データとして設定します。

**注意!** 以降のコマンド構文では視認し易くするために各コマンド間に半角スペースを挿入していますが、実際には続けて入力する必要があります。

✍ 「↔」はカーソルの位置です。

たとえば、**F1** コマンドは現在のカーソル位置以降の全ての文字列を送信するコマンドです。**F1** コマンドだけを使用した場合、カーソル位置が先頭から動いていないため、編集されていないデータが出力されます。

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **F100**

編集前バーコードデータ：↔ABC123456789

編集後バーコードデータ：↔ABC123456789 (カーソルの位置は変わっていない)

出力されるデータ：ABC123456789

たとえば、**F1** コマンド使用して3文字目以降 (4文字目から) のデータをすべて出力したい場合、**F5** コマンドを組み合わせます。**F5** コマンドは現在のカーソル位置から指定した文字数だけカーソルを前方へ移動させるコマンドです。**F5 03** コマンドにより、カーソルはバーコードデータの前方へ3文字分移動し、**F1** コマンドによりカーソル以降のデータがすべて出力されます。

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **F503 F100**

編集前バーコードデータ：↔ABC123456789

編集後バーコードデータ：ABC↔123456789 (カーソルの位置が右に3文字移動)

出力されるデータ：123456789

カーソルの位置は、印字、非印字文字の区別なく適用されます。たとえばバーコードデータ内に Tab キーが存在する場合、その Tab キーも1文字としてカウントされます。実際にコマンド構文を作成する場合には、目に見えない文字も考慮する必要があります。

## 15.4.1. 送信コマンド

### 15.4.1.1. 以降のすべての文字列を送信する

**F 1** 現在のカーソル位置からすべての文字列を送信し、その文字列送信後に任意の 1 文字を追加で送信します。コマンド構文は、**F1xx** です。xx は文字列送信後に追加で送信する任意の 1 文字を [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) の 16 進値で表した値です。xx を省略したい場合は **00** を指定します。

例：先頭からすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **F1 40**

出力結果： ABC123456 → ABC123456@

### 15.4.1.2. 文字数を指定して送信する

**F 2** 現在のカーソルの位置から文字数を指定して文字列を送信し、その文字列送信後に任意の 1 文字を追加で送信することができます。コマンド構文は、**F2nnxx** です。nn は出力する文字数を **01** ~ **99** で指定します。xx は文字列送信後に追加で送信する任意の 1 文字を [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) の 16 進値で表した値です。xx を省略したい場合は **00** を指定します。

例 1：先頭から 3 文字送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **F2 03 40**

出力結果： ABC123456 → ABC@

例 2：先頭から 3 文字送信し「Tab」を挿入し、以降の文字列をすべて送信する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **F2 03 09** F1 00

出力結果： ABC123456 → ABC<Tab>123456

### 15.4.1.3. 文字を指定回数送信する

**F 4** 現在のカーソルの位置に文字を指定回数送信します。コマンド構文は、**F4xxnn** です。nn は送信する回数を **01** ~ **99** で指定します。xx は送信する文字を [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) の 16 進値で表した値です。

例：「Tab」を 2 回送信し、先頭からすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **F4 09 02** F1 40

出力結果： ABC123456 → <Tab><Tab>ABC123456@

#### 15.4.1.4. 指定した文字数を除いてすべての文字列を送信する

**E 9 F1** コマンド同様に、現在のカーソルの位置からすべての文字列を送信しますが、その文字列の後方から指定する数の文字を除外してから送信します。コマンド構文は、**E9nn** です。*nn* は除外する文字数を **01** ~ **99** で指定します。このコマンドの完了後、カーソルは出力されなかった文字の直前に移動します。

例：後方から 4 文字を除外して送信し、「@」を 4 回送信し、以降すべての文字列を送信する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **E9 04** F4 40 04 F1 00

出力結果： ABC123456 → ABC12@@@@3456

#### 15.4.1.5. 特定の文字を検索し直前までの文字列をすべて送信する

**F 3** 現在のカーソルの位置から任意の 1 文字を検索し、最初にヒットした文字の直前までの文字列をすべて送信し、その文字列送信後に任意の 1 文字を追加で送信します。この送信結果には、検索に使用した任意の文字は含まれないことに注意してください。コマンド構文は、**F3ssxx** です。*ss* は検索に使用する任意の 1 文字を 28. ASCII 変換チャート (304 ページ) の 16 進値で表した値です。*xx* は文字列送信後に追加で送信する任意の 1 文字を 28. ASCII 変換チャート (304 ページ) の 16 進値で表した値です。*xx* を省略したい場合は **00** を指定します。このコマンドの完了後、カーソルは検索された文字の直前に移動します。

例：[3] を検索し、その直前までの文字列をすべて送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **F3 33 40**

出力結果： ABC123456 → ABC12@

#### 15.4.1.6. 特定の文字列を検索し直前までの文字列をすべて送信する

**B 9** 現在のカーソルの位置から任意の文字列を検索し、最初にヒットした文字列の直前までの文字列をすべて送信します。この送信結果には、検索に使用した任意の文字は含まれないことに注意してください。コマンド構文は、**B9nnnnss....ss** です。*nnnn* は検索する文字列の文字数を **0001** ~ **9999** で指定します。*ss....ss* は、検索に使用する任意の文字列を 28. ASCII 変換チャート (304 ページ) の 16 進値で表した値です。このコマンドの完了後、カーソルは検索された文字列の直前に移動します。

例：[34] を検索し、その直前までの文字列をすべて送信する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **B9 0002 33 34**

出力結果： ABC123456 → ABC12

## 15.4.2. 挿入コマンド

### 15.4.2.1. シンボル名を挿入する

**B 3** 未サポート

### 15.4.2.2. バーコード長を挿入する

**B 4** 現在のカーソルの位置にバーコード長を挿入します。コマンド構文は、**B4** です。バーコード長は、ゼロ埋めされていない 10 進値で送信されます。このコマンドの完了後、カーソルはその位置に留まります。

例：**データ長を送信し**、以降のすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **B4** F1 40

出力結果： ABC123456 → 9ABC123456@

### 15.4.2.3. 遅延を挿入する

**E F** 未サポート

### 15.4.2.4. キーストロークを挿入する

**B 5** 未サポート

### 15.4.2.5. 文字列を挿入する

**B A** 現在のカーソルの位置に任意の文字列を挿入します。コマンド構文は、**BA***nnnnss....ss* です。*nnnn* は挿入する文字列の文字数を **0001** ~ **9999** で指定します。*ss....ss* は、挿入する任意の文字列を [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) の 16 進値で表した値です。このコマンドの完了後、カーソルは移動しません。

例：**[A001]** を送信し、以降のすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **BA 0004 41 30 30 31** F1 40

出力結果： ABC123456 → A001ABC123456@

### 15.4.3. 置換コマンド

#### 15.4.3.1. 特定の文字を任意の文字に置換する

**E 4** 他のコマンドのカーソル移動に合わせて、送信文字列に含まれる最大 15 の異なる特定の文字を任意の文字へ置換します。このコマンドは **E5** コマンドに遭遇するまで継続されます。コマンド構文は、**E4nnxx<sub>1</sub>yy<sub>1</sub>xx<sub>2</sub>yy<sub>2</sub>...xx<sub>15</sub>yy<sub>15</sub>** です。*nn* は置換前文字と置換後文字の合計文字数を **02** ~ **30** (偶数) で指定します。*xx<sub>1</sub>yy<sub>1</sub>* は常にペアで使用され、*xx<sub>1</sub>* は置換前の文字、*yy<sub>1</sub>* は置換後の文字を [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) の 16 進値で表した値です。

例：「**A**」を「**X**」、「**B**」を「**Y**」に置換し、5 文字送信し「@」を挿入し、残りをすべて送信し「@」を挿入する

[E5 コマンドによる置換中止なし]

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **E4 04 41 58 42 59** F2 05 40 F1 40

出力結果： ABABABABAB → XYXYX@YXYXY@

[E5 コマンドによる置換中止あり]

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **E4 04 41 58 42 59** F2 05 40 **E5** F1 40

出力結果： ABABABABAB → XYXYX@BABAB@

#### 15.4.3.2. 文字の置換を中止する

**E 5** **E4** コマンドによる文字の置換を中止します。使用方法については、上述の **E4** コマンドを参照してください。

## 15.4.4. 抑制コマンド

### 15.4.4.1. 特定の文字の送信を抑制する

**FB** 他のコマンドのカーソル移動に合わせて、最大 15 の異なる特定の文字の送信を抑制します。このコマンドは **FC** コマンドに遭遇するまで継続されます。コマンド構文は、**FBnnxxyy....zz** です。*nn* は抑制する文字数を **01** ~ **15** で指定します。*xxyy....zz* は抑制する文字を [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) の 16 進値で表した値です。

例：「**A**」を抑制した状態で、5 文字送信し「@」を挿入し、残りをすべて送信し「@」を挿入する

[FC コマンドによる抑制中止なし]

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **FB 01 41** F2 05 40 F1 40

出力結果： ABABABABAB → BB@BBB@

[FC コマンドによる抑制中止あり]

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **FB 01 41** F2 05 40 **FC** F1 40

出力結果： ABABABABAB → BB@BABAB@

### 15.4.4.2. 文字の抑制を中止する

**FC** **FB** コマンドによる特定文字の送信の抑制を中止します。使用方法については、上述の **FB** コマンドを参照してください。

## 15.4.5. 前方検索コマンド

### 15.4.5.1. 特定の文字を前方から検索する (一致)

**F 8** 現在のカーソルの位置から任意の 1 文字を前方検索し、最初に一致した文字の直前へカーソルを移動させます。コマンド構文は、**F8xx** です。xx は検索に使用する任意の 1 文字を [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) の 16 進値で表した値です。

例：「1」を前方検索し、以降のすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **F8 31** F1 40

出力結果： ABC123123DEF → 123123DEF@

### 15.4.5.2. 特定の文字を前方から検索する (非一致)

**E 6** 現在のカーソルの位置から任意の 1 文字を前方検索し、最初に一致しなかった文字の直前へカーソルを移動させます。コマンド構文は、**E6xx** です。xx は検索に使用する任意の 1 文字を [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) の 16 進値で表した値です。

例：「0」を前方検索し、以降のすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **E6 30** F1 40

出力結果： 0000123456 → 123456@

### 15.4.5.3. 特定の文字列を前方から検索する

**B 0** 現在のカーソルの位置から任意の文字列を前方検索し、最初に一致した文字列の直前へカーソルを移動させます。コマンド構文は、**B0nnnnss....ss** です。nnnn は検索する文字列の文字数を **0001** ~ **9999** で指定します。ss....ss は、検索に使用する任意の文字列を [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) の 16 進値で表した値です。

例：「AA」を前方検索し、以降のすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **B0 0002 41 41** F1 40

出力結果： A123AA456 → AA456@

## 15.4.6. 後方検索コマンド

### 15.4.6.1. 特定の文字を後方から検索する (一致)

**F 9** 現在のカーソルの位置から任意の1文字を後方検索し、最初に一致した文字の直前へカーソルを移動させます。コマンド構文は、**F9xx** です。xx は検索に使用する任意の1文字を [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) の16進値で表した値です。

例：カーソルを最後方へ移動し、**[1]** を後方検索し、以降のすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 EA **F9 31** F1 40

出力結果： ABC123123DEF → 123DEF@

### 15.4.6.2. 特定の文字を後方から検索する (非一致)

**E 7** 現在のカーソルの位置から任意の1文字を後方検索し、最初に一致しなかった文字の直前へカーソルを移動させます。コマンド構文は、**E7xx** です。xx は検索に使用する任意の1文字を [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) の16進値で表した値です。

例：カーソルを最後方へ移動し、**[0]** を後方検索し、以降のすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 EA **E7 30** F1 40

出力結果： 1234560000 → 60000@

### 15.4.6.3. 特定の文字列を後方から検索する

**B 1** 現在のカーソルの位置から任意の文字列を後方検索し、最初に一致した文字列の直前へカーソルを移動させます。コマンド構文は、**B1nnnnss....ss** です。nnnn は検索する文字列の文字数を **0001** ~ **9999** で指定します。ss....ss は、検索に使用する任意の文字列を [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) の16進値で表した値です。

例：カーソルを最後方へ移動し、**[123]** を後方検索し、以降のすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 EA **B1 0003 31 32 33** F1 40

出力結果： A123AA456 → 123AA456@

## 15.4.7. 移動コマンド

### 15.4.7.1. カーソルを指定文字数進める

**F 5** 現在のカーソルの位置から、指定した文字数だけカーソルを進めます。コマンド構文は、**F5nn** です。  
nn はカーソルを進める文字数を **01** ~ **99** で指定します。

例：カーソルを **3文字進め**、以降のすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 EA **F5 03** F1 40

出力結果： ABC123456 → 123456@

### 15.4.7.2. カーソルを指定文字数戻す

**F 6** 現在のカーソルの位置から、指定した文字数だけカーソルを戻します。コマンド構文は、**F6nn** です。  
nn はカーソルを戻す文字数を **01** ~ **99** で指定します。

例：すべての文字列を送信し「@」を挿入し、**カーソルを6文字戻し**、以降のすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 F1 40 **F6 06** F1 40

出力結果： ABC123456 → ABC123456@123456@

### 15.4.7.3. カーソルを文字列の先頭へ戻す

**F 7** 現在のカーソルの位置から、文字列の先頭へカーソルを戻します。コマンド構文は、**F7** です。

例：すべての文字列を送信し「@」を挿入し、**先頭へカーソルを戻し**、以降のすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 F1 40 **F7** F1 40

出力結果： ABC123456 → ABC123456@ABC123456@

### 15.4.7.4. カーソルを文字列の末尾へ進める

**E A** 現在のカーソルの位置から、文字列の末尾へカーソルを進めます。コマンド構文は、**EA** です。

例：**カーソルを末尾へ進め**、「123」を後方検索し、以降のすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **EA** B1 0003 31 32 33 F1 40

出力結果： A123AA456 → 123AA456@

## 15.4.8. 比較コマンド

### 15.4.8.1. 数値か比較する

**EC** 現在のカーソル位置の文字が数値かどうかを比較します。コマンド構文は、**EC** です。

### 15.4.8.2. 数値以外か比較する

**ED** 現在のカーソル位置の文字が数値以外かどうかを比較します。コマンド構文は、**ED** です。

例：先頭が数値の場合は、すべての文字列を送信し「N」を挿入します。

先頭が数値以外の場合は、すべての文字列を送信し「C」を挿入します。

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **EC** F1 4E

DFMBK3 0 099 99 9999 **ED** F1 43

出力結果： 0ABC123456 → 0ABC123456N

ZABC123456 → ZABC123456C

### 15.4.8.3. 文字を比較する

**FE** 現在のカーソル位置の 1 文字と任意の 1 文字を比較し、一致している場合はカーソルを 1 つ進めます。コマンド構文は **FE $xx$**  です。 $xx$  は比較を行う任意の 1 文字を [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) の 16 進値で表した値です。

例：「0」と比較し、以降のすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **FE 30** F1 40

出力結果： 0ABC123456 → ABC123456@

### 15.4.8.4. 文字列を比較する

**B2** 現在のカーソル位置の文字列と任意の文字列を比較し、一致している場合はカーソルを比較した文字列の直後へ進めます。コマンド構文は **B2 $nnnnss....ss$**  です。 $nnnn$  は検索する文字列の文字数を **0001** ~ **9999** で指定します。 $ss....ss$  は、検索に使用する任意の文字列を [28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) の 16 進値で表した値です。

例：「ABC」と比較し、以降のすべての文字列を送信し「@」を挿入する

コマンド構文：DFMBK3 0 099 99 9999 **B2 0003 41 42 43** F1 40

出力結果： ABC123456 → 123456@

## 15.4.9. データ破棄コマンド

### 15.4.9.1. データを破棄する

**B8** 編集フォーマットに一致するバーコードデータを破棄します。このコマンドは、すべてのコマンドの最後に入力しなければ正しく動作しません。コマンド構文は、**B8** です。

✎ このコマンドを正しく動作させるには、[15.5. データフォーマッター](#)（123 ページ）が**有効 / 必須**である必要があります。**有効 / 必須ではない**が選択されている場合、破棄コマンドが追加された編集フォーマットに一致しても、スキャナは未編集でバーコードデータを出力します。

✎ このコマンドを正しく動作させるには、[15.5. データフォーマッター](#)（123 ページ）が**有効 / 必須**である必要があるため、出力したいすべてのバーコードデータに対して出力できるように、編集フォーマットを追加する必要があります。

## 15.5. データフォーマッター

**データフォーマッター無効**を選択した場合、スキャナが読み取ったバーコードデータに対してデータ編集は行なわれずに、そのままの状態ですべて出力されます。

**データフォーマッター有効、必須ではない、プリフィックスとサフィックスを送信する**を選択した場合、スキャナが読み取ったバーコードデータに対して編集フォーマットに従って変更が加えられ、プリフィックスおよびサフィックスを含めて送信されます。編集フォーマットに一致しないバーコードデータは、そのままの状態ですべて送信されます。

**データフォーマッター有効、必須、プリフィックスとサフィックスを送信する**を選択した場合、スキャナが読み取ったバーコードデータは編集フォーマットに従って変更が加えられ、プリフィックスおよびサフィックスを含めて送信されます。編集フォーマットに一致しないバーコードデータは送信されず、[15.6. 不一致時エラービープ](#) (124 ページ) の設定に従ってエラー音を出力します。

**データフォーマッター有効、必須ではない、プリフィックスとサフィックスを送信しない**を選択した場合、スキャナが読み取ったバーコードデータは編集フォーマットに従って変更が加えられ、プリフィックスおよびサフィックスを含めずに送信されます。編集フォーマットに一致しないバーコードデータは、そのままの状態ですべて送信されます。

**データフォーマッター有効、必須、プリフィックスとサフィックスを送信しない**を選択した場合、スキャナが読み取ったバーコードデータは編集フォーマットに従って変更が加えられ、プリフィックスおよびサフィックスを含めずに送信されます。編集フォーマットに一致しないバーコードデータは送信されず、[15.6. 不一致時エラービープ](#) (124 ページ) の設定に従ってエラー音を出力します。

初期値 = データフォーマッター有効 / 必須ではない / プリフィックスとサフィックスを送信する



DFM\_EN0.

データフォーマッター無効



DFM\_EN1.

データフォーマッター有効 / 必須ではない  
プリフィックスとサフィックスを送信する



DFM\_EN2.

データフォーマッター有効 / 必須  
プリフィックスとサフィックスを送信する

## 15.5. データフォーマッター（続き）



DFM\_EN3.

データフォーマッター有効 / 必須ではない  
プリフィックスとサフィックスを送信しない



DFM\_EN4.

データフォーマッター有効 / 必須  
プリフィックスとサフィックスを送信しない

## 15.6. 不一致時エラービープ

スキャナが、編集フォーマットに一致しないバーコードを読み取った時のエラービープを設定することができます。

初期値 = 不一致エラービープ有効



DFMDEC0.

不一致エラービープ有効



DFMDEC1.

不一致エラービープ無効

## 15.7. 編集フォーマット

最大4つの編集フォーマットを保存し、切り替えることができます。15.2. 編集フォーマットの作成 (109 ページ)の手順2で0を選択すると編集フォーマット 0に保存されます。1、2、3を選択すると、それぞれの編集フォーマットに保存されます。以下のコードの1つを読み取ってスキャナで使用する編集フォーマットを変更します。

初期値 = 編集フォーマット 0



ALTFNM0.

編集フォーマット 0



ALTFNM1.

編集フォーマット 1



ALTFNM2.

編集フォーマット 2



ALTFNM3.

編集フォーマット 3

## 15.8. クイック編集フォーマット

以下のコードを読み取ったあと、次に読み取るバーコードには選択した編集フォーマットが適用され、以降の読取りでは、元の編集フォーマットが適用されます。

例えば、**編集フォーマット0**と**編集フォーマット3**がスキナに保存されていて、通常は**編集フォーマット0**を使用し、特定のバーコードを読み取るときだけ**編集フォーマット3**を使用したい場合は、15.7. 編集フォーマット（125 ページ）から**編集フォーマット0**を選択し、特定のバーコードの読取り前だけ、以下の**クイック編集フォーマット3**を読み取ります。



VSAF\_0.

クイック編集フォーマット0



VSAF\_1.

クイック編集フォーマット1



VSAF\_2.

クイック編集フォーマット2



VSAF\_3.

クイック編集フォーマット3

## 15.9. データ編集の設定例

- ✎ 各コマンドの詳細は、[15.4. 編集コマンド](#)（112 ページ）を参照してください。
- ✎ データ編集コマンドの作成には [22. EZConfig Scanning](#)（265 ページ）の使用をお勧めします。

**注意！** 以下のコマンド構文には視認しやすいように各コマンド間に半角スペースを追加していますが、実際にはコマンドは続けて入力する必要があります。

### 15.9.1. 3 文字目から 6 文字を送信したい

コマンド構文： DFMBK3 0 099 9999 99 F503 F20600

### 15.9.2. GS-128 内の <GS> (FNC1) を「@」に置換して送信したい

コマンド構文： DFMBK3 0 099 49 9999 E4021D40 F100

### 15.9.3. QR コード内のカンマを TAB に置換して送信したい

コマンド構文： DFMBK3 0 099 73 9999 E4022C09 F100

### 15.9.4. QR コード内の不要な改行を抑制して送信したい

コマンド構文： DFMBK3 0 099 73 9999 FB020D0A F100

### 15.9.5. 14 文字で構成された ITF の先頭文字を削除して送信したい

コマンド構文： DFMBK3 0 099 65 0014 F501 F100

## 15.10. EzConfig Scanning コマンド対比表

コマンド	EzConfig Scanning	
	Action	Sub-Action
F1	Send	All Characters
F2	Send	A Number of Characters
F4	Send	A Character multiple times
E9	Send	All but exclude
F3	Send	Up to a Character
B9	Send	Up to a String
B3	Insert	Symbology Name
B4	Insert	Barcode Length
EF	Insert	Delay
B5	Insert	Key strokes
BA	Insert	String
E4	Replace	Characters
FB	Suppress	Characters
F8	Search Forward	Matching Character
E6	Search Forward	Non-Matching Character
B0	Search Forward	String
F9	Search Backword	Matching Character
E7	Search Backword	Non-Matching Character
B1	Search Backword	String
F5	Move the Pointer	Forward
F6	Move the Pointer	Backward
F7	Move the Pointer	Begining of String
EA	Move the Pointer	End of String
EC	Compare	Numeric
ED	Compare	Non-numeric
FE	Compare	Character
B2	Compare	String
FC	Terminate Suppress	n/a
E5	Terminate Replace	n/a
B8	Discard Data	

## 16. バーコード読取り設定

### 16.1. 全てのバーコードの読取り

スキャナで特定のバーコードシンボルだけを読み取りたい場合は、全シンボル 無効を読取り、その後希望のバーコードシンボルの読取り設定を有効にします。



ALLENA0.

全シンボル無効

### 16.2. バーコードの文字数について

スキャナは、いくつかのバーコードシンボルの読取りを許可する文字数範囲を設定することができます。もしも、読み取りたいバーコードの文字数が、スキャナに設定されている**読取り文字数**と一致しない場合は、読取りを行いません。**最小文字数**と**最大文字数**に同じ文字数を設定することで、強制的に固定された文字数のバーコードのみを読み取らせることが可能です。これは、読み取りエラーの削減に役立ちます。

例：9文字から20文字の範囲で作成されたバーコードの読み取りを許可します。

最小文字数=09、最大文字数=20

例：15文字で作成されたバーコードのみ読み取りを許可します。

最小文字数=15、最大文字数=15

最小文字数と最大文字数を初期値から変更する場合は、設定したいバーコードシンボルの説明項目へ移動し、その中の**最小文字数**または**最大文字数**を読み取り、希望の文字数を巻末の [31. プログラミングチャート](#) (311ページ) の**数値**バーコードから読取り、最後に**保存**バーコードを読み取ります。

最小文字数および最大文字数の初期値は、設定可能な各バーコードシンボルの説明項目に記載されています。

## 16.3. NW-7 (Codabar)

### 16.3.1. NW-7 初期化

NW-7 のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



NW-7 初期化

### 16.3.2. NW-7 読取り許可

NW-7 の読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



有効



無効

### 16.3.3. NW-7 スタート・ストップキャラクタ

スタート・ストップキャラクタとは、NW-7 の始まりと終わりに配置される文字のことです。通常、**A**、**B**、**C**、**D** の4つのアルファベットのいずれかが配置されます。

初期値 = 送信しない



送信する



送信しない

### 16.3.4. NW-7 チェックデジット

スキャナは、モジュラス 16 で作成されたチェックデジットが付加された NW-7 のみを読み取るようプログラムすることができます。

**検査しない**場合、スキャナはチェックデジットの有無に関わらず読取り、すべてのデータを送信します。

**検査し送信しない**場合、スキャナは正しいチェックデジットがセットされた NW-7 のみを読取り、そのチェックデジットを除外したデータを送信します。

**検査し送信する**場合、スキャナは正しいチェックデジットがセットされた NW-7 のみを読取り、そのチェックデジットを含めたデータを送信します。

初期値 = 検査しない



CBRCK20.

検査しない



CBRCK21.

検査し送信しない



CBRCK22.

検査し送信する

### 16.3.5. NW-7 シンボル連結

NW-7はシンボル連結をサポートしています。シンボル連結が有効のとき、ストップキャラクタが「D」のNW-7と、スタートキャラクタが「D」のNW-7がある場合、スキャナは隣接したNW-7を探し、シンボル連結できる場合は連結し、そうでない場合は単独のNW-7として読み取ります。2つのNW-7の文字列が連結された場合、「D」は省略されて送信されます。



「D」を持つ単独のNW-7の読み取りを防止するには、**必須**バーコードを読み取ります。この設定を行なっても、「D」以外のスタート・ストップキャラクタを持つNW-7には影響ありません。

初期値 = 無効



### 16.3.6. NW-7 連結タイムアウト

シンボル連結のために次のバーコードを探すまでの遅延を設定することができます。この遅延の時間を変更するには、以下のバーコードを読み取ってから設定したいタイムアウト（10～4,000ミリ秒）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 800 ミリ秒



### 16.3.7. NW-7 検査回数

Codabar バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなります。バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の **数字** を使用して設定し、最後に **保存** を読み取ります。

初期値 = 0



CBRVOT.

検査の試行回数

### 16.3.8. NW-7 読取り文字数

NW-7 の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#)（129 ページ）を参照してください。

設定範囲 = 2～60 / 初期値 = 最小 4、最大 60



CBRMIN.

最小文字数



CBRMAX.

最大文字数

## 16.4. Code 39

### 16.4.1. Code 39 初期化

Code 39 のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



C39DFT.

Code 39 初期化

### 16.4.2. Code 39 読取り許可

Code 39 の読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



C39ENA1.

有効



C39ENA0.

無効

### 16.4.3. Code 39 スタート・ストップキャラクタ

Code 39 のデータの先頭と末尾に挿入されているスタート・ストップキャラクタの送信許可を設定します。  
Code 39 のスタート・ストップキャラクタは「**アスタリスク (\*)**」です。

✎ \*が別の記号で出力される場合は、[8.2. キーボードレイアウト](#) (41 ページ) を適切に設定して下さい。

初期値 = 送信しない



C39SSX1.

送信する



C39SSX0.

送信しない

#### 16.4.4. Code 39 チェックデジット

**検査しない**場合、スキャナはチェックデジットの有無に関わらず読取り、すべてのデータを送信します。

**検査し送信しない**場合、スキャナは正しいチェックデジットがセットされた Code 39 のみを読取り、そのチェックデジットを除外したデータを送信します。

**検査し送信する**場合、スキャナは正しいチェックデジットがセットされた Code 39 のみを読取り、そのチェックデジットを含めたデータを送信します。

初期値 = 検査しない



C39CK20.

検査しない



C39CK21.

検査し送信しない



C39CK22.

検査し送信する

#### 16.4.5. Code 39 検査回数

Code 39 バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数 (0 ~ 10) を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



C39V0T.

検査の試行回数

## 16.4.6. Code 39 読取り文字数

Code 39 の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 0 ~ 48 / 初期値 = 最小 0、最大 48



C39MIN.

最小文字数



C39MAX.

最大文字数

## 16.4.7. Code 39 シンボル連結

この機能を有効にすると、Code 39 を連結して送信することができます。(スタート・ストップキャラクタを除いて) スペースから始まる Code 39 を読み取ると、スキャナはデータをすぐに送信せずに、スペースを削除してから、読み取った順番にバッファに保存します。そして、スペース以外から始まる Code 39 を読み取ると、データを読み取った順に送信します。(先入れ先出し)

- ✎ バッファ保存中に異なる規格のシンボルを読み取った場合は、バッファのデータはクリアされます。
- ✎ バッファ保存時、読取り成功の LED 表示およびブザーの鳴動は行いません。

初期値 = 無効



C39APP1.

有効



C39APP0.

無効

## 16.4.8. Code 32 読取り許可

Code 32 は、イタリアの薬局で使用されている Code 39 の一種です。このシンボルは PARAF としても知られています。

✎ Code 32 コードを読み取る場合は、[16.23.1. Trioptic コード 読取り許可](#) (191 ページ) を無効にする必要があります。

初期値 = 無効



C39B321.

有効



C39B320.

無効

## 16.4.9. Code 39 フル ASCII

この機能が有効の場合、いくつかの文字は2つの文字を組み合わせて1文字として解釈されます。例えば、「\$V」は制御文字の「SYN」としてデコードされ、「/C」は文字の「#」としてデコードされます。

フル ASCII 一覧表

NUL	%U	DLE	\$P	空白	空白	0	0	@	%V	P	P	`	%W	p	+P
SOH	\$A	DC1	\$Q	!	/A	1	1	A	A	Q	Q	a	+A	q	+Q
STX	\$B	DC2	\$R	"	/B	2	2	B	B	R	R	b	+B	r	+R
ETX	\$C	DC3	\$S	#	/C	3	3	C	C	S	S	c	+C	s	+S
EOT	\$D	DC4	\$T	\$	/D	4	4	D	D	T	T	d	+D	t	+T
ENQ	\$E	NAK	\$U	%	/E	5	5	E	E	U	U	e	+E	u	+U
ACK	\$F	SYN	\$V	&	/F	6	6	F	F	V	V	f	+F	v	+V
BEL	\$G	ETB	\$W	'	/G	7	7	G	G	W	W	g	+G	w	+W
BS	\$H	CAN	\$X	(	/H	8	8	H	H	X	X	h	+H	x	+X
HT	\$I	EM	\$Y	)	/I	9	9	I	I	Y	Y	i	+I	y	+Y
LF	\$J	SUB	\$Z	*	/J	:	/Z	J	J	Z	Z	j	+J	z	+Z
VT	\$K	ESC	%A	+	/K	;	%F	K	K	[	%K	k	+K	{	%P
FF	\$L	FS	%B	,	/L	<	%G	L	L	\	%L	l	+L		%Q
CR	\$M	GS	%C	-	-	=	%H	M	M	]	%M	m	+M	}	%R
SO	\$N	RS	%D	.	.	>	%I	N	N	^	%N	n	+N	~	%S
SI	\$O	US	%E	/	/O	?	%J	O	O	_	%O	o	+O	DEL	%T

初期値 = フル ASCII 無効



C39ASC1.

フル ASCII 有効



C39ASC0.

フル ASCII 無効

## 16.4.10. Code 39 ギャップサイズ

Code 39 は、一般的に小さな文字間ギャップを持っていますが、これは通常とても小さいものです。バーコード印刷技術によっては、このギャップが許容される最大サイズよりも大きくなり、読み取りができなくなる場合があります。この問題が発生した場合、大きい文字間ギャップを設定することで、このような規格外のバーコードを読み取ることができる可能性があります。

初期値 = 標準の文字間ギャップサイズ



C39UIC1.

大きい文字間ギャップサイズ



C39UIC0.

標準の文字間ギャップサイズ

## 16.4.11. Code 39 コードページ

コードページは、文字コードの文字への割り当てを定義します。ホストが受信したデータが適切な文字で表示されない場合は、読み取ったバーコードがソフトウェアの期待しているものとは異なるコードページを使用して作成された可能性があります。この場合、以下のバーコードをスキャンし、バーコードが作成されたコードページを [29. ISO 2022/ISO 646 文字コード変換](#) (307 ページ) から検索し、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の **数値**バーコードから読み取り、最後に**保存**バーコードを読み取ります。その後、データは正しく表示されるはずですが。

初期値 = 2



C39DCP.

Code 39 コードページ

## 16.5. ITF (Interleaved 2 of 5)

### 16.5.1. ITF 初期化

ITF のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



I25DFT.

ITF 初期化

### 16.5.2. ITF 読取り許可

ITF の読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



I25ENA1.

有効



I25ENA0.

無効

### 16.5.3. ITF チェックデジット

**検査しない**場合、スキャナはチェックデジットの有無に関わらず読取り、すべてのデータを送信します。

**検査し送信しない**場合、スキャナは正しいチェックデジットがセットされた ITF のみを読取り、そのチェックデジットを除外したデータを送信します。

**検査し送信する**場合、スキャナは正しいチェックデジットがセットされた ITF のみを読取り、そのチェックデジットを含めたデータを送信します。

初期値 = 検査しない



I25CK20.

検査しない



I25CK21.

検査し送信しない



I25CK22.

検査し送信する

### 16.5.4. ITF 検査回数

ITF バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



I25V0T.

検査の試行回数

### 16.5.5. ITF 読取り文字数

ITF の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 2 ~ 80 / 初期値 = 最小 4、最大 80



I25MIN.

最小文字数



I25MAX.

最大文字数

## 16.6. NEC 2 of 5 (生協コード)

### 16.6.1. NEC 2 of 5 初期化

NEC 2 of 5 のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



N25DFT.

NEC 2 of 5 初期化

### 16.6.2. NEC 2 of 5 読取り許可

NEC 2 of 5 の読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



N25ENA1.

有効



N25ENA0.

無効

### 16.6.3. NEC 2 of 5 チェックデジット

**検査しない**場合、スキャナはチェックデジットの有無に関わらず読取り、すべてのデータを送信します。

**検査し送信しない**場合、スキャナは正しいチェックデジットがセットされた NEC 2 of 5 のみを読取り、そのチェックデジットを除外したデータを送信します。

**検査し送信する**場合、スキャナは正しいチェックデジットがセットされた NEC 2 of 5 のみを読取り、そのチェックデジットを含めたデータを送信します。

初期値 = 検査しない



N25CK20.

検査しない



N25CK21.

検査するが送信しない



N25CK22.

検査し送信する

### 16.6.4. NEC 2 of 5 検査回数

NEC 2 of 5 バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



N25VOT.

検査の試行回数

## 16.6.5. NEC 2 of 5 読取り文字数

NEC 2 of 5 の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 2 ~ 80 / 初期値 = 最小 4、最大 80



N25MIN.

最小文字数



N25MAX.

最大文字数

## 16.7. Code 93

### 16.7.1. Code 93 初期化

Code 93 のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



C93DFT.

Code 93 初期化

### 16.7.2. Code 93 読取り許可

Code 93 の読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



C93ENA1.

有効



C93ENA0.

無効

### 16.7.3. Code 93 検査回数

Code 93 バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなります。バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読み取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の **数字** を使用して設定し、最後に **保存** を読み取ります。

初期値 = 0



C93VOT.

検査の試行回数

## 16.7.4. Code 93 読取り文字数

Code 93 の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 0 ~ 80 / 初期値 = 最小 0、最大 80



C93MIN.

最小文字数



C93MAX.

最大文字数

## 16.7.5. Code 93 シンボル連結

この機能を有効にすると、Code 93 を連結して送信することができます。(スタート・ストップキャラクタを除いて) スペースから始まる Code 93 を読み取ると、スキャナはデータをすぐに送信せずに、スペースを削除してから、読み取った順番にバッファに保存します。そして、スペース以外から始まる Code 93 を読み取ると、データを読み取った順に送信します。(先入れ先出し)

✎ バッファ保存中に異なる種類のバーコードシンボルを読み取った場合は、バッファのデータはクリアされます。

初期値 = 無効



C93APP1.

有効



C93APP0.

無効

## 16.8. Industrial 2 of 5

### 16.8.1. Industrial 2 of 5 初期化

Industrial 2 of 5 のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



R25DFT.

Industrial 2 of 5 初期化

### 16.8.2. Industrial 2 of 5 読取り許可

Industrial 2 of 5 の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



R25ENA1.

有効



R25ENA0.

無効

### 16.8.3. Industrial 2 of 5 検査回数

Industrial 2 of 5 バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の数字を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



R25VOT.

検査の試行回数

## 16.8.4. Industrial 2 of 5 読取り文字数

Industrial 2 of 5 の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 1 ~ 48 / 初期値 = 最小 4、最大 48



R25MIN.

最小文字数



R25MAX.

最大文字数

## 16.9. IATA 2 of 5

### 16.9.1. IATA 2 of 5 初期化

IATA 2 of 5 のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



A25DFT.

IATA 2 of 5 初期化

### 16.9.2. IATA 2 of 5 読取り許可

IATA 2 of 5 の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



A25ENA1.

有効



A25ENA0.

無効

### 16.9.3. IATA 2 of 5 検査回数

IATA 2 of 5 バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数 (0 ~ 10) を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の数字を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



A25VOT.

検査の試行回数

## 16.9.4. IATA 2 of 5 読取り文字数

IATA 2 of 5 の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 1 ~ 48 / 初期値 = 最小 4、最大 48



A25MIN.

最小文字数



A25MAX.

最大文字数

## 16.10. Matrix 2 of 5

### 16.10.1. Matrix 2 of 5 初期化

Matrix 2 of 5 のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



X25DFT.

Matrix 2 of 5 初期化

### 16.10.2. Matrix 2 of 5 読取り許可

Matrix 2 of 5 の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



X25ENA1.

有効



X25ENA0.

無効

### 16.10.3. Matrix 2 of 5 検査回数

Matrix 2 of 5 バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の数字を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



X25VOT.

検査の試行回数

## 16.10.4. Matrix 2 of 5 読取り文字数

Matrix 2 of 5 の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 1 ~ 80 / 初期値 = 最小 4、最大 80



X25MIN.

最小文字数



X25MAX.

最大文字数

## 16.11. Code 11

### 16.11.1. Code 11 初期化

Code 11 のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



C11DFT.

Code 11 初期化

### 16.11.2. Code 11 読取り許可

Code 11 の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



C11ENA1.

有効



C11ENA0.

無効

### 16.11.3. Code 11 チェックデジット

Code 11 は 1 桁又は 2 桁のチェックデジットが必ず必要です。

初期値 = 2 桁チェックデジット



C11CK20.

1 桁チェックデジット



C11CK21.

2 桁チェックデジット

## 16.11.4. Code 11 検査回数

Code 11 バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の数字を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



C11V0T.

検査の試行回数

## 16.11.5. Code 11 読取り文字数

Code 11 の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#)（129 ページ）を参照してください。

設定範囲 = 1 ～ 80 / 初期値 = 最小 4、最大 80



C11MIN.

最小文字数



C11MAX.

最大文字数

## 16.12. Code 128

### 16.12.1. Code 128 初期化

Code 128 のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



128DFT.

Code 128 初期化

### 16.12.2. Code 128 読取り許可

Code 128 の読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



128ENA1.

有効



128ENA0.

無効

### 16.12.3. Code 128 検査回数

Code 128 バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを讀取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の **数字** を使用して設定し、最後に **保存** を読み取ります。

初期値 = 0



128VOT.

検査の試行回数

## 16.12.4. Code 128 FNC コード

Code 128 の先頭の FNC コードの送信を設定します。この機能が有効の場合、FNC コードはそれぞれ次の ASCII コードで送信されます。FNC1=81、FNC2=82、FNC=83

初期値 = 無効



128FNC1.

有効



128FNC0.

無効

## 16.12.5. Code 128 読取り文字数

Code 128 の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 最小 0 ~ 80、最大 0 ~ 90 / 初期値 = 最小 0、最大 80



128MIN.

最小文字数



128MAX.

最大文字数

## 16.12.6. Code 128 シンボル連結

この機能を有効にすると、Code 128 を連結して送信することができます。シンボル連結のトリガー文字 (FNC2) を含む Code 128 を読み取ると、スキャナはデータをすぐに送信せずに、読み取った順番にバッファに保存します。そして、トリガー文字を含まない Code 128 を読み取ると、データを読み取った順に送信します。(先入れ先出し)

✎ バッファ保存中に異なる種類のバーコードシンボルを読み取った場合は、バッファのデータはクリアされます。

初期値 = 無効



## 16.12.7. ISBT 128 シンボル連結

The International Society of Blood Transfusion (ISBT) は、1994 年に、統一された方法で重要な血液情報をやりとりするための基準を批准しました。ISBT フォーマットの使用には、有料のライセンスが必要です。ISBT 128 アプリケーション仕様は次のように特徴付けられる。

1) 血液製剤のラベリング用の重要なデータ要素、2) 現在は高いセキュリティと効率のよいスペース設計のため Code 128 の使用を推奨、3) 隣り合ったシンボルの連結をサポートする Code 128 の変形、4) 血液製剤ラベルのバーコードのための基準レイアウト。

シンボル連結を使用するには、以下のバーコードを使用します。

初期値 = 無効



## 16.12.8. Code 128 コードページ

コードページは、文字コードの文字への割り当てを定義します。ホストが受信したデータが適切な文字で表示されない場合は、読み取ったバーコードがソフトウェアの期待しているものとは異なるコードページを使用して作成された可能性があります。この場合、以下のバーコードをスキャンし、バーコードが作成されたコードページを [29. ISO 2022/ISO 646 文字コード変換](#) (307 ページ) から検索し、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の **数値**バーコードから読取り、最後に**保存**バーコードを読み取ります。その後、データは正しく表示されるはずですが。

初期値 = 2



128DCP.

Code 128 コードページ

## 16.13. GS1-128

### 16.13.1. GS1-128 初期化

GS1-128 のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



GS1DFT.

GS1-128 初期化

### 16.13.2. GS1-128 読取り許可

GS1-128 の読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



GS1ENA1.

有効



GS1ENA0.

無効

### 16.13.3. GS1-128 検査回数

GS1-128 バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読み取ってから設定したい回数 (0 ~ 10) を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の数字を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



GS1VOT.

検査の試行回数

#### 16.13.4. GS1-128 読取り文字数

GS1-128 の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 最小 0 ~ 80、最大 0 ~ 90 / 初期値 = 最小 0、最大 80



GS1MIN.

最小文字数



GS1MAX.

最大文字数

## 16.14. Telepen

### 16.14.1. Telepen 初期化

Telepen のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



TELDFT.

Telepen 初期化

### 16.14.2. Telepen 読取り許可

Telepen の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



TELENA1.

有効



TELENA0.

無効

### 16.14.3. Telepen フォーマット

**AIM Telepen** を使用すると、スキャナはスタート・ストップパターン 1 のシンボルを読み取り、それらをフル ASCII (スタート・ストップパターン 1) としてデコードします。**オリジナル Telepen** を使用すると、スキャナはスタート・ストップパターン 1 のシンボルを読み取り、それらをオプションのフル ASCII を含む圧縮された数値としてデコードします。

初期値 = AIM Telepen



TELOLD0.

AIM Telepen



TELOLD1.

オリジナル Telepen

#### 16.14.4. Telepen 検査回数

Telepen バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなります。バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の数字を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



TEL VOT.

検査の試行回数

#### 16.14.5. Telepen 読取り文字数

Telepen の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#)（129 ページ）を参照してください。

設定範囲 = 1 ～ 60 / 初期値 = 最小 1、最大 60



TEL MIN.

最小文字数



TEL MAX.

最大文字数

## 16.15. UPC-A

### 16.15.1. UPC-A 初期化

UPC-A のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



UPC-A 初期化

### 16.15.2. UPC-A 読取り許可

UPC-A の読取り許可を設定します。

✎ UPC-A を無効にした場合、スキャナが UPC-A コードを読み取ると先頭に 0 を追加して 13 文字の JAN-13 コードとして送信します。

初期値 = 有効



UPAENA1.

有効



UPAENA0.

無効

### 16.15.3. UPC-A チェックデジット

チェックデジットをバーコードデータの最後に送信するかどうかの選択を行ないます。

初期値 = 送信する



UPACKX1.

送信する



UPACKX0.

送信しない

## 16.15.4. UPC-A ナンバーシステム

UPC シンボルのシステム番号は、通常バーコードデータの先頭に送信されますが、それを送信しないように設定できます。

初期値 = 送信する



UPANSX1.

送信する



UPANSX0.

送信しない

## 16.15.5. UPC-A アドオンコード

すべての読み取った UPC-A データの最後に、2桁または5桁のアドオンコードを追加します。

初期値 = 2桁アドオン無効、5桁アドオン無効



UPAAD21.

2桁アドオン有効



UPAAD20.

2桁アドオン無効



UPAAD51.

5桁アドオン有効



UPAAD50.

5桁アドオン無効

## 16.15.6. UPC-A アドオンコードの要求

**要求する**が選択されている場合、スキャナはアドオンコードを持った UPC-A バーコードのみを読み取ります。

16.15.5. UPC-A アドオンコード (165 ページ) UPC-A アドオンコード .UPC-A アドオンコード (<OV> ページ) のリストから **2桁または5桁アドオンコードを有効**にする必要があります。

初期値 = 要求しない



要求する



要求しない

## 16.15.7. UPC-A アドオンコードタイムアウト

アドオンコードを検出し続けるための時間を設定することができます。この時間内にアドオンコードが見つからない場合は、16.15.6. UPC-A アドオンコードの要求 (166 ページ) に基づいて、データを送信または破棄します。これを変更するには、以下のバーコードを読み取ってから設定したい時間 (0 ~ 500 ミリ秒) を 31. プログラミングチャート (311 ページ) の数字を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

✎ アドオンコードタイムアウトは、すべてのアドオンコードとクーポンコードの検出に適用されます。

初期値 = 120



アドオンコードタイムアウト

## 16.15.8. UPC-A アドオンコードセパレータ

この機能が**有効**の場合、バーコードデータとアドオンデータの間にスペース(空白)を追加します。**無効**の場合は、スペースは追加されません。

初期値 = 有効



UPAADS1.

有効



UPAADS0.

無効

## 16.15.9. UPC-A 検査回数

UPC-A バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数(0～10)を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



UPAVOT.

検査の試行回数

## 16.15.10. 拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13

次のバーコードを使用して拡張クーポンコード付きのUPC-AおよびEAN-13を有効または無効に設定します。初期値（無効）では、スキャナはクーポンコードと拡張クーポンコードを単一のバーコードとして扱います。

**連結許可**を選択した場合、スキャナは1度の読取りでクーポンコードと拡張クーポンコードを見つけると、それぞれ独立したシンボルとして両方を送信します。そうでない場合、読み取った最初のクーポンコードを送信します。

**連結必須**を選択した場合、スキャナは1度の読取りでクーポンコードと拡張クーポンコードを見つけなければいけません。両方のコードが読み取られなければデータは出力されません。

初期値 = 無効



## 16.15.11. 拡張クーポンコード タイムアウト

拡張クーポンコードを検出し続けるための時間を設定することができます。この時間内に拡張クーポンコードが見つからない場合は、[16.15.10. 拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13](#) (168 ページ) の設定値に基づいて、データを送信または破棄します。これを変更するには、以下のバーコードを読み取ってから設定したい時間 (0 ~ 500 ミリ秒) を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

✂ アドオンコードタイムアウトは、すべてのアドオンコードとクーポンコードの検出に適用されます。

初期値 = 120



拡張クーポンコード タイムアウト

## 16.15.12. GS1 DataBar クーポン

UPC と GS1 DataBar の両方を持っているクーポンの GS1 DataBar コードのデータのみを読み取る必要がある場合、**GS1 出力有効**を選択することで、GS1 DataBar コードのみを読み取って出力することができます。

初期値 = GS1 出力無効



CPNGS10.

GS1 出力無効



CPNGS11.

GS1 出力有効

## 16.16. UPC-E

### 16.16.1. UPC-E 初期化

UPC-E0 および UPC-E1 のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



UPEDFT.

UPC-E 初期化

### 16.16.2. UPC-E0 読取り許可

ほとんどの UPC バーコードは 0（ゼロ）ナンバーシステムで始まります。これらのコードを読みとるため **UPC-E0 有効** を選択します。1 ナンバーシステムからはじまるコードの読取りが必要な場合は、[16.16.10. UPC-E1 読取り許可](#)（174 ページ）を使用してください。

初期値 = UPC-E0 有効



UPEEN01.

UPC-E0 有効



UPEEN00.

UPC-E0 無効

### 16.16.3. UPC-E0 拡張

この機能は、UPC-E コードを 12 文字の UPC-A フォーマットに拡張します。

初期値 = 拡張しない



UPEEXP1.

拡張する



UPEEXP0.

拡張しない

## 16.16.4. UPC-E0 チェックデジット

チェックデジットをバーコードデータの最後に送信するかどうかの選択を行ないます。

初期値 = 送信する



UPECKX1.

送信する



UPECKX0.

送信しない

## 16.16.5. UPC-E0 ナンバーシステム

この機能は、UPC-E0 のナンバーシステム (0) を送信するかどうかの選択を行います。

初期値 = 送信する



UPENSX1.

送信する



UPENSX0.

送信しない

## 16.16.6. UPC-E0 アドオンコード

すべての読み取った UPC-E データの最後に、2桁または5桁のアドオンコードを追加します。

初期値 = 2桁アドオン無効、5桁アドオン無効



UPEAD21.

2桁アドオン有効



UPEAD20.

2桁アドオン無効



UPEAD51.

5桁アドオン有効



UPEAD50.

5桁アドオン無効

## 16.16.7. UPC-E0 アドオンコードの要求

**要求する**が選択されている場合、スキャナはアドオンコードを持った UPC-E0 バーコードのみを読み取ります。

[16.16.6. UPC-E0 アドオンコード](#) (172 ページ) のリストから **2桁または5桁アドオンコードを有効にする** 必要があります。

初期値 = 要求しない



UPEARQ1.

要求する



UPEARQ0.

要求しない

## 16.16.8. UPC-E0 アドオンコードタイムアウト

アドオンコードを検出し続けるための時間を設定することができます。この時間内にアドオンコードが見つからない場合は、[16.16.7. UPC-E0 アドオンコードの要求](#) (172 ページ) に基づいて、データを送信または破棄します。これを変更するには、以下のバーコードを読み取ってから設定したい時間 (0 ~ 500 ミリ秒) を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の数字を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

✎ アドオンコードタイムアウトは、すべてのアドオンコードとクーポンコードの検出に適用されます。

初期値 = 120



DLYADD.

アドオンコードタイムアウト

## 16.16.9. UPC-E0 アドオンコードセパレータ

この機能が**有効**の場合、バーコードデータとアドオンデータ間にスペース (空白) を追加します。**無効**の場合は、スペースは追加されません。

初期値 = 有効



UPEADS1.

有効



UPEADS0.

無効

## 16.16.10. UPC-E1 読取り許可

ほとんどのUPCバーコードは0（ゼロ）ナンバーシステムで始まります。これらのコードは [16.16.2. UPC-E0 読取り許可](#) (170 ページ) を使用します。1 ナンバーシステムからはじまるコードの読取りが必要な場合は、**UPC-E1 有効**を選択します。

初期値 = UPC-E1 無効



UPEEN11.

UPC-E1 有効



UPEEN10.

UPC-E1 無効

## 16.16.11. UPC-E 検査回数

UPC-E バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



UPEVOT.

検査の試行回数

## 16.17. JAN-13

### 16.17.1. JAN-13 初期化

JAN-13 のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



E13DFT.

JAN-13 初期化

### 16.17.2. JAN-13 読取り許可

JAN-13 の読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



E13ENA1.

有効



E13ENA0.

無効

### 16.17.3. ゼロ先頭の JAN コード

UPC-A を JAN-13 に変換しない場合、先頭の 0 は削除され 12 文字の UPC-A コードとして送信されます。

UPC-A を JAN-13 に変換する場合、先頭の 0 はそのまま 13 文字の JAN-13 コードとして送信されます。

初期値 = UPC-A を JAN-13 に変換しない



UPAENA1.

UPC-A を JAN-13 に変換しない



UPAENA0.

UPC-A を JAN-13 に変換する

## 16.17.4. JAN-13 チェックデジット

チェックデジットをバーコードデータの最後に送信するかどうかの選択を行ないます。

初期値 = 送信する



E13CKX1.

送信する



E13CKX0.

送信しない

## 16.17.5. JAN-13 アドオンコード

すべての読み取った JAN-13 データの最後に、2桁または5桁のアドオンコードを追加します。

初期値 = 2桁アドオン無効、5桁アドオン無効



E13AD21.

2桁アドオン有効



E13AD20.

2桁アドオン無効



E13AD51.

5桁アドオン有効



E13AD50.

5桁アドオン無効

## 16.17.6. JAN-13 アドオンコードの要求

要求するが選択されている場合、スキャナはアドオンコードを持った JAN-13 バーコードのみを読み取ります。

16.17.5. JAN-13 アドオンコード (176 ページ) のリストから **2桁または5桁アドオンコードを有効にする** 必要があります。

初期値 = 要求しない



E13ARQ1.

要求する



E13ARQ0.

要求しない

## 16.17.7. JAN-13 アドオンコードタイムアウト

アドオンコードを検出し続けるための時間を設定することができます。この時間内にアドオンコードが見つからない場合は、16.17.6. JAN-13 アドオンコードの要求 (177 ページ) に基づいて、データを送信または破棄します。これを変更するには、以下のバーコードを読み取ってから設定したい時間 (0 ~ 500 ミリ秒) を 31. プログラミングチャート (311 ページ) の数字を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

✎ アドオンコードタイムアウトは、すべてのアドオンコードとクーポンコードの検出に適用されます。

初期値 = 120



DLYADD.

アドオンコードタイムアウト

## 16.17.8. JAN-13 アドオンコードセパレータ

この機能が有効の場合、バーコードデータとアドオンデータ間にスペース(空白)を追加します。無効の場合は、スペースは追加されません。

初期値 = 有効



E13ADS1.

有効



E13ADS0.

無効

✎ 拡張クーポンコードについては、[16.15.10. 拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13](#) (168 ページ) を参照してください。

## 16.17.9. ISBN 変換

**有効**の場合、EAN-13 Bookland シンボルは同等の ISBN ナンバー形式に変換されます。

初期値 = 無効



E13ISB1.

有効



E13ISB0.

無効

## 16.17.10. JAN-13 検査回数

JAN-13 バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



E13V0T.

検査の試行回数

## 16.18. JAN-8

### 16.18.1. JAN-8 初期化

JAN-8 のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



EA8DFT.

JAN-8 初期化

### 16.18.2. JAN-8 読取り許可

JAN-8 の読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



EA8ENA1.

有効



EA8ENA0.

無効

### 16.18.3. JAN-8 チェックデジット

チェックデジットをバーコードデータの最後に送信するかどうかの選択を行ないます。

初期値 = 送信する



EA8CKX1.

送信する



EA8CKX0.

送信しない

## 16.18.4. JAN-8 アドオンコード

すべての読み取った JAN-8 データの最後に、2桁または5桁のアドオンコードを追加します。

初期値 = 2桁アドオン無効、5桁アドオン無効



EA8AD21.

2桁アドオン有効



EA8AD20.

2桁アドオン無効



EA8AD51.

5桁アドオン有効



EA8AD50.

5桁アドオン無効

## 16.18.5. JAN-8 アドオンコードの要求

要求するが選択されている場合、スキャナはアドオンコードを持った JAN-8 バーコードのみを読み取ります。

[16.18.4. JAN-8 アドオンコード](#) (181 ページ) のリストから **2桁または5桁アドオンコードを有効にする** 必要があります。

初期値 = 要求しない



EA8ARQ1.

要求する



EA8ARQ0.

要求しない

## 16.18.6. JAN-8 アドオンコードタイムアウト

アドオンコードを検出し続けるための時間を設定することができます。この時間内にアドオンコードが見つからない場合は、[16.18.5. JAN-8 アドオンコードの要求](#) (181 ページ) に基づいて、データを送信または破棄します。これを変更するには、以下のバーコードを読み取ってから設定したい時間 (0 ~ 500 ミリ秒) を [31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

✎ アドオンコードタイムアウトは、すべてのアドオンコードとクーポンコードの検出に適用されます。

初期値 = 120



DLYADD.

アドオンコードタイムアウト

## 16.18.7. JAN-8 アドオンコードセパレータ

この機能が有効の場合、バーコードデータとアドオンデータの間スペース (空白) を追加します。無効の場合は、スペースは追加されません。

初期値 = 有効



EA8ADS1.

有効



EA8ADS0.

無効

## 16.18.8. JAN-8 検査回数

JAN-8 バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



EA8VOT.

検査の試行回数

## 16.19. MSI

### 16.19.1. MSI 初期化

MSI のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



MSIDFT.

MSI 初期化

### 16.19.2. MSI 読取り許可

MSI の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



MSIENA1.

有効



MSIENA0.

無効

### 16.19.3. MSI チェックデジット

MSI バーコードは 1 文字また 2 文字の異なるタイプのチェックデジットを使用します。

**MOD10/11 検査し送信する場合**、スキャナは MOD10/11 のチェックデジットがセットされた MSI バーコードのみを読み取り、そのチェックデジットを含めたデータを送信します。

**MOD10/11 検査し送信しない場合**、スキャナは MOD10/11 のチェックデジットがセットされた MSI バーコードのみを読み取り、そのチェックデジットを除外したデータを送信します。

初期値 = MOD10 検査し送信しない



MSICLK0.

MOD10 検査し送信しない



MSICLK1.

MOD10 検査し送信する



MSICLK2.

MOD10/10 検査し送信しない



MSICLK3.

MOD10/10 検査し送信する



MSICLK4.

MOD10/11 検査し送信しない



MSICLK5.

MOD10/11 検査し送信する



MSICLK6.

検査しない

## 16.19.4. MSI 検査回数

MSI バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の数字を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



MSIVOT.

検査の試行回数

## 16.19.5. MSI 読取り文字数

MSI の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#)（129 ページ）を参照してください。

設定範囲 = 4～48 / 初期値 = 最小 4、最大 48



MSIMIN.

最小文字数



MSIMAX.

最大文字数

## 16.20. GS1 DataBar Omnidirectional

### 16.20.1. GS1 DataBar Omnidirectional 初期化

GS1 DataBar Omnidirectional のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



RSSDFT.

GS1 DataBar Omnidirectional 初期化

### 16.20.2. GS1 DataBar Omnidirectional 読取り許可

GS1 DataBar Omnidirectional の読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



RSSENA1.

有効



RSSENA0.

無効

### 16.20.3. GS1 DataBar Omnidirectional 検査回数

GS1 DataBar Omnidirectional バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の **数字** を使用して設定し、最後に **保存** を読み取ります。

初期値 = 0



RSSVOT.

検査の試行回数

## 16.21. GS1 DataBar Limited

### 16.21.1. GS1 DataBar Limited 初期化

GS1 DataBar Limited のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



RSLDFT.

GS1 DataBar Limited 初期化

### 16.21.2. GS1 DataBar Limited 読取り許可

GS1 DataBar Limited の読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



RSLENA1.

有効



RSLENA0.

無効

### 16.21.3. GS1 DataBar Limited 検査回数

GS1 DataBar Limited バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなります。バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の数字を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



RSLVOT.

検査の試行回数

## 16.22. GS1 DataBar Expanded

### 16.22.1. GS1 DataBar Expanded 初期化

GS1 DataBar Expanded のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



RSEDFT.

GS1 DataBar Expanded 初期化

### 16.22.2. GS1 DataBar Expanded 読取り許可

GS1 DataBar Expanded の読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



RSEENA1.

有効



RSEENA0.

無効

### 16.22.3. GS1 DataBar Expanded 検査回数

GS1 DataBar Expanded バーコードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の数字を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



RSEVOT.

検査の試行回数

## 16.22.4. GS1 DataBar Expanded 読取り文字数

GS1 DataBar Expanded の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 4 ~ 74 / 初期値 = 最小 4、最大 74



RSEMIN.

最小文字数



RSEMAX.

最大文字数

## 16.23. Trioptic コード

### 16.23.1. Trioptic コード 読取り許可

Trioptic コードの読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



### 16.23.2. Trioptic コード 検査回数

Trioptic コードの読取り時にエラーの発生を低減させるにはこの設定を調整します。この設定はデータを送信する前に複数回のデコードを行ない、設定された回数のデータ一致を検査することでエラーを低減します。検査の試行回数が多いほどエラーは少なくなりますが、バーコードの読取りに長い時間がかかる場合があります。検査の試行回数を変更するには、以下のバーコードを読取ってから設定したい回数（0～10）を [31. プログラミングチャート](#)（311 ページ）の**数字**を使用して設定し、最後に**保存**を読み取ります。

初期値 = 0



## 16.24. Codablock A

### 16.24.1. Codablock A 初期化

Codablock A のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



CBADFT.

Codablock A 初期化

### 16.24.2. Codablock A 読取り許可

Codablock A の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



CBAENA1.

有効



CBAENA0.

無効

### 16.24.3. Codablock A 読取り文字数

Codablock A の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 1 ~ 600 / 初期値 = 最小 1、最大 600



CBAMIN.

最小文字数



CBAMAX.

最大文字数

## 16.25. Codablock F

### 16.25.1. Codablock F 初期化

Codablock F のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



CBFDFT.

Codablock F 初期化

### 16.25.2. Codablock F 読取り許可

Codablock F の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



CBFENA1.

有効



CBFENA0.

無効

### 16.25.3. Codablock F 読取り文字数

Codablock F の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 1 ~ 2048 / 初期値 = 最小 1、最大 2048



CBFMIN.

最小文字数



CBFMAX.

最大文字数

## 16.26. Label Code

### 16.26.1. Label Code 読取り許可

Label Code の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



LBLENA1.

有効



LBLENA0.

無効

## 16.27. PDF417

### 16.27.1. PDF417 初期化

PDF417 のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



PDFDFT.

PDF417 初期化

### 16.27.2. PDF417 読取り許可

PDF417 の読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



PDFENA1.

有効



PDFENA0.

無効

### 16.27.3. PDF417 読取り文字数

PDF417 の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 1 ~ 2750 / 初期値 = 最小 1、最大 2750



PDFMIN.

最小文字数



PDFMAX.

最大文字数

## 16.27.4. マクロ PDF417 読取り許可

マクロ PDF417 は、1つの PDF417 では表現できないような大量のデータを複数の PDF417 に分割して表現します。この機能が**有効**のとき、分割された PDF417 を読み取って1つのデータとしてエンコードします。

初期値 = 有効



PDFMAC1.

**有効**



PDFMAC0.

**無効**

## 16.28. MicroPDF417

### 16.28.1. MicroPDF417 初期化

MicroPDF417 のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



MPDDFT.

MicroPDF417 初期化

### 16.28.2. MicroPDF417 読取り許可

MicroPDF417 の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



MPDENA1.

有効



MPDENA0.

無効

### 16.28.3. MicroPDF417 読取り文字数

MicroPDF417 の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 1 ~ 366 / 初期値 = 最小 1、最大 366



MPDMIN.

最小文字数



MPDMAX.

最大文字数

## 16.29. GS1 合成シンボル (CC-A、CC-B、CC-C)

特定の1次元コードと2次元コードを組み合わせることでGS1合成シンボルが形成されます。

### 16.29.1. GS1 合成シンボル 初期化

GS1合成シンボルのすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



COMDFT.

GS1 合成シンボル初期化

### 16.29.2. GS1 合成シンボル 読取り許可

GS1合成シンボルの読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



COMENA1.

有効



COMENA0.

無効

### 16.29.3. GS1 合成シンボル UPC/EAN バージョン

UPC または EAN バーコードを含む GS1 合成シンボルをデコードするために、この機能を有効にします。(これは、GS1-128 や GS1 DataBar 系を含む GS1 合成シンボルには影響を与えません。)

初期値 = 無効



COMUPC1.

有効



COMUPC0.

無効

✎ UPC と GS1 DataBar の両方を持っているクーポンの GS1 DataBar コードのデータのみを読み取る必要がある場合は、[16.15.12. GS1 DataBar クーポン](#) (169 ページ) をご覧ください。

### 16.29.4. GS1 合成シンボル 読取り文字数

GS1 合成シンボルの読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 1 ~ 2435 / 初期値 = 最小 1、最大 2435



COMMIN.

最小文字数



COMMAX.

最大文字数

## 16.29.5. GS1 エミュレーション

スキャナは、GS1 データキャリアからの出力を自動的にフォーマットして、同等の GS1-128 または GS1 DataBar シンボルにエンコードされるようエミュレートできます。GS1 データキャリアには、UPC-A、UPC-E、JAN-13、JAN-8、ITF-14、GS1-128、GS1 DataBar、GS1 合成シンボルが含まれます。(GS1 データを受け入れるアプリケーションは、1 つのデータキャリアタイプのみを認識すればいいだけなので単純化できます。)

**GS1-128 エミュレーション**の場合、すべての小売りコード (UPC、UPC-E、JAN-8、JAN-13) は 16 文字に拡張されます。AIM ID が有効の場合、その値は GS1-128 の AIM ID である **[JC1]** (302 ページの [\[27. シンボルチャート\]](#) 参照) となります。

**GS1 DataBar エミュレーション**の場合、すべての小売りコード (UPC、UPC-E、JAN-8、JAN-13) は 16 文字に拡張されます。AIM ID が有効の場合、その値は GS1 DataBar の AIM ID である **[Jem]** (302 ページの [\[27. シンボルチャート\]](#) 参照) となります。

**GS1 コード 拡張無効**の場合、小売りコードの拡張は無効となり、UPC-E の拡張は [16.16.3. UPC-E0 拡張](#) (170 ページ) 設定によって制御されます。AIM ID が有効の場合、その値は GS1-128 の AIM ID である **[C1]** (302 ページの [\[27. シンボルチャート\]](#) 参照) となります。

**JAN-8 を JAN-13 に変換**の場合、すべての JAN-8 バーコードは JAN-13 の形式に変換されます。

初期値 = GS1 エミュレーション 無効



EANEMU1.

GS1-128 エミュレーション



EANEMU2.

GS1 DataBar エミュレーション



EANEMU3.

GS1 コード 拡張無効



EANEMU4.

JAN-8 を JAN-13 に変換

## 16.29.5. GS1 エミュレーション (続き)



EANEMU0.

GS1 エミュレーション 無効

## 16.30. TLC 39 (TCIF Linked Code 39)

### 16.30.1. TLC 39 読取り許可

このコードは、Code 39 コード部分と MicroPDF スタックコード部分を持つ合成コードです。スキャナは Code 39 コード部分を読みますが、MicroPDF 部分は、この機能が**有効**の場合のみ読み取ります。1次元コード部分はこの機能が**無効**でも Code 39 として読取りができます。

初期値 = 無効



T39ENA1.

有効



T39ENA0.

無効

## 16.31. QR コード

### 16.31.1. QR コード 初期化

QR コードのすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



QRCDFT.

QR コード 初期化

### 16.31.2. QR コード 読取り許可

QR コードおよびマイクロ QR コードの読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



QRCENA1.

有効



QRCENA0.

無効

### 16.31.3. QR コード 読取り文字数

QR コードの読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 1 ~ 7089 / 初期値 = 最小 1、最大 7089



QRCMIN.

最小文字数



QRCMAX.

最大文字数

## 16.31.4. QR コード シンボル連結

スキャナは、分割（連結）QR コードをサポートしています。この機能を**有効**にすると、QR コードの仕様に沿って分割された複数の QR コードを読み取り、データを連結してからホストへ送信します。この機能を使用するために、1回でスキャン可能な領域にすべての QR コードが存在している必要があります。

初期値 = 有効



QRCAPP1.

有効



QRCAPP0.

無効

## 16.31.5. QR コード コードページ

コードページは、文字コードの文字への割り当てを定義します。ホストが受信したデータが適切な文字で表示されない場合は、読み取ったバーコードがソフトウェアの期待しているものとは異なるコードページを使用して作成された可能性があります。この場合、以下のバーコードをスキャンし、バーコードが作成されたコードページを [29. ISO 2022/ISO 646 文字コード変換](#) (307 ページ) から検索し、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**数値**バーコードから読み取り、最後に**保存**バーコードを読み取ります。その後、データは正しく表示されるはずですが。

初期値 = 51



QRCDP.

QR コード コードページ

## 16.31.6. QRコード クワイエットゾーンなし

この機能を**オン**にすると、クワイエットゾーン（上下左右のスペース）のないQRコードを読み取ることができます。

初期値 = オフ



QRQNQZ1.

オン



QRQNQZ0.

オフ

## 16.32. Data Matrix

### 16.32.1. Data Matrix 初期化

Data Matrix のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



Data Matrix 初期化

### 16.32.2. Data Matrix 読取り許可

Data Matrix の読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



有効



無効

### 16.32.3. Data Matrix 読取り文字数

Data Matrix の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 1 ~ 3116 / 初期値 = 最小 1、最大 3116



最小文字数



最大文字数

## 16.32.4. Data Matrix コードページ

コードページは、文字コードの文字への割り当てを定義します。ホストが受信したデータが適切な文字で表示されない場合は、読み取ったバーコードがソフトウェアの期待しているものとは異なるコードページを使用して作成された可能性があります。この場合、以下のバーコードをスキャンし、バーコードが作成されたコードページを [29. ISO 2022/ISO 646 文字コード変換](#) (307 ページ) から検索し、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の **数値**バーコードから読取り、最後に**保存**バーコードを読み取ります。その後、データは正しく表示されるはずですが。

初期値 = 51



IDMDCP.

Data Matrix コードページ

## 16.33. MaxiCode

### 16.33.1. MaxiCode 初期化

MaxiCode のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



MaxiCode 初期化

### 16.33.2. MaxiCode 読取り許可

MaxiCode の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



有効



無効

### 16.33.3. MaxiCode 読取り文字数

MaxiCode の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 1 ~ 150 / 初期値 = 最小 1、最大 150



最小文字数



最大文字数

## 16.34. Aztec

### 16.34.1. Aztec 初期化

Aztec のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



Aztec コード 初期化

### 16.34.2. Aztec 読取り許可

Aztec の読取り許可を設定します。

初期値 = 有効



有効



無効

### 16.34.3. Aztec 読取り文字数

Aztec の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 1 ~ 3832 / 初期値 = 最小 1、最大 3832



最小文字数



最大文字数

#### 16.34.4. Aztec シンボル連結

この機能を**有効**にすると、Aztec の仕様に沿って分割された複数の Aztec を読取り、データを連結してからホストへ送信します。この機能を使用するために、1 回でスキャン可能な領域にすべての Aztec が存在している必要があります。

初期値 = 有効



#### 16.34.5. Aztec コードページ

コードページは、文字コードの文字への割り当てを定義します。ホストが受信したデータが適切な文字で表示されない場合は、読み取ったバーコードがソフトウェアの期待しているものとは異なるコードページを使用して作成された可能性があります。この場合、以下のバーコードをスキャンし、バーコードが作成されたコードページを [29. ISO 2022/ISO 646 文字コード変換](#) (307 ページ) から検索し、[31. プログラミングチャート](#) (311 ページ) の**数値**バーコードから読取り、最後に**保存**バーコードを読み取ります。その後、データは正しく表示されるはずですが。

初期値 = 51



## 16.35. Han Xin

### 16.35.1. Han Xin 初期化

Han Xin のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



HX\_DFT.

Han Xin 初期化

### 16.35.2. Han Xin 読取り許可

Han Xin コードの読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



HX\_ENA1.

有効



HX\_ENA0.

無効

### 16.35.3. Han Xin 読取り文字数

Han Xin の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 1 ~ 7833 / 初期値 = 最小 1、最大 7833



HX\_MIN.

最小文字数



HX\_MAX.

最大文字数

## 16.36. Dot Code

### 16.36.1. Dot Code 初期化

Dot Code のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



Dot Code 初期化

### 16.36.2. Dot Code 読取り許可

Dot Code の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



有効



DOTENA0.

無効

### 16.36.3. Dot Code 読取り文字数

Dot Code の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 1 ~ 2400 / 初期値 = 最小 1、最大 2400



最小文字数



DOTMAX.

最大文字数

## 16.37. Grid Matrix

### 16.37.1. Grid Matrix 初期化

Grid Matrix のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



GMXDFT.

Grid Matrix 初期化

### 16.37.2. Grid Matrix 読取り許可

Grid Matrix の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



GMXENA1.

有効



GMXENA0.

無効

### 16.37.3. Grid Matrix 読取り文字数

Grid Matrix の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 1 ~ 2751 / 初期値 = 最小 1、最大 2751



GMXMIN.

最小文字数



GMXMAX.

最大文字数

## 16.38. China Post (Hong Kong 2 of 5)

### 16.38.1. China Post 初期化

China Post のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



CPCDFT.

China Post 初期化

### 16.38.2. China Post 読取り許可

China Post の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



CPCENA1.

有効



CPCENA0.

無効

### 16.38.3. China Post 読取り文字数

China Post の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 2 ~ 80 / 初期値 = 最小 4、最大 80



CPCMIN.

最小文字数



CPCMAX.

最大文字数

## 16.39. Korea Post

### 16.39.1. Korea Post 初期化

Korea Post のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



KPCDFT.

Korea Post 初期化

### 16.39.2. Korea Post 読取り許可

Korea Post の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



KPCENA1.

有効



KPCENA0.

無効

### 16.39.3. Korea Post 読取り文字数

Korea Post の読取りを許可する文字数範囲を以下のバーコードを使用して設定します。設定方法は [16.2. バーコードの文字数について](#) (129 ページ) を参照してください。

設定範囲 = 2 ~ 80 / 初期値 = 最小 4、最大 48



KPCMIN.

最小文字数



KPCMAX.

最大文字数

## 16.39.4. Korea Post チェックデジット

チェックデジットをバーコードデータの最後に送信するかどうかの選択を行ないます。

初期値 = 送信しない



KPCCHK1.

送信する



KPCCHK0.

送信しない

## 16.40. 郵便コード（2次元）

次のリストは、読取り可能な2次元郵便コードと2次元郵便コードの組み合わせです。1度に1つの2次元郵便コードだけを使用することができます。2つめの2次元郵便コードを選択すると、1つ目の2次元郵便コードは使用できなくなります。



POSTAL0.

2次元郵便コード 無効

### 16.40.1. 2次元郵便コード（単体）

初期値 = 2次元郵便コード無効



POSTAL1.

Australian Post



POSTAL7.

British Post



POSTAL30.

Canadian Post



POSTAL10.

Intelligent Mail



POSTAL3.

日本郵便カスタマバーコード



POSTAL4.

KIX Post

### 16.40.1. 2次元郵便コード（単体）（続き）



POSTAL5.

Planet Code

16.40.3. Planet Code チェックデジット（221 ページ）もあわせてご覧ください。



POSTAL9.

Postal-4i



POSTAL6.

Postnet

16.40.4. Postnet チェックデジット（221 ページ）もあわせてご覧ください。



POSTAL11.

Postnet with B and B' Fields



POSTAL2.

InfoMail

### 16.40.2. 2次元郵便コード（組み合わせ）



POSTAL8.

InfoMail  
British Post



POSTAL20.

Intelligent Mail  
Postnet with B and B' Fields

## 16.40.2. 2次元郵便コード（組み合わせ）（続き）



POSTAL14.

Postnet  
Postal-4i



POSTAL16.

Postnet  
Intelligent Mail



POSTAL17.

Postal-4i  
Intelligent Mail



POSTAL19.

Postal-4i  
Postnet with B and B' Fields



POSTAL12.

Planet Code  
Postnet



POSTAL18.

Planet Code  
Postnet with B and B' Fields



POSTAL13.

Planet Code  
Postal-4i

16.40.2. 2次元郵便コード（組み合わせ）（続き）



POSTAL15.

Planet Code  
Intelligent Mail



POSTAL21.

Planet Code  
Postnet  
Postal-4i



POSTAL22.

Planet Code  
Postnet  
Intelligent Mail



POSTAL23.

Planet Code  
Postal-4i  
Intelligent Mail



POSTAL24.

Postnet  
Postal-4i  
Intelligent Mail



POSTAL25.

Planet Code  
Postal-4i  
Postnet with B and B' Fields

## 16.40.2. 2次元郵便コード（組み合わせ）（続き）



POSTAL26.

Planet Code

Intelligent Mail

Postnet with B and B' Fields



POSTAL27.

Postal-4i

Intelligent Mail

Postnet with B and B' Fields



POSTAL28.

Planet Code

Postal-4i

Intelligent Mail、Postnet



POSTAL29.

Planet Code

Postal-4i

Intelligent Mail

Postnet with B and B' Fields

### 16.40.3. Planet Code チェックデジット

チェックデジットをバーコードデータの最後に送信するかどうかの選択を行ないます。

初期値 = 送信しない



PLNCKX1.

送信する



PLNCKX0.

送信しない

### 16.40.4. Postnet チェックデジット

チェックデジットをバーコードデータの最後に送信するかどうかの選択を行ないます。

初期値 = 送信しない



NETCKX1.

送信する



NETCKX0.

送信しない

## 16.40.5. Australian Post 解釈

このオプションは、Australian Post 4-State シンボル内の顧客フィールドに、どのような解釈が適用されるかを制御します。

**Bar Output** は、「0123」形式でバーパターンを一覧にします。

**Numeric N Table** は、N Table を用いて数字データとしてフィールドを解釈させます。

**Alphanumeric C Table** は、C Table を用いて英数字データとしてフィールドを解釈させます。Australian Post Specification Tables を参照してください。

**Combination C and N Table** は、C または N Table のいずれかを用いてフィールドを解釈させます。

初期値 = Bar Output



AUSINT0.

Bar Output



AUSINT1.

Numeric N Table



AUSINT2.

Alphanumeric C Table



AUSINT3.

Combination C and T Tables

## 17. バーコードオプション

### 17.1. 低品質な 1 次元バーコードの読取り

この設定により、スキャナの低品質（損傷、破損、印刷不良など）な 1 次元バーコードを読取る能力が向上します。この機能を**オン**にすると、これらの低品質なバーコードの読取性能は強化されますが、通常の高品質なバーコードの読取性能が低下します。この設定は QR コードなどの 2 次元バーコードには適用されません。

初期値 = オフ



### 17.2. 低品質な PDF コードの読取り

この設定により、スキャナの低品質（損傷、破損、印刷不良など）な PDF417 コードを読取る能力が向上します。この機能を**オン**にすると、これらの低品質な PDF コードの読取性能は強化されますが、通常の高品質な PDF コードの読取性能が低下します。この設定は 1 次元バーコードには適用されません。

初期値 = オフ



### 17.3. 低解像度な PDF コードの読取り

この設定により、スキャナの低解像度な PDF417 コードを読み取る能力が向上します。この機能を**オン**にすると、これらの低品質な PDF コードの読取性能は強化されますが、通常の高解像度な PDF コードの読取性能が低下します。この設定は 1 次元バーコードには適用されません。

初期値 = オフ



PDFDMI0.

オフ



PDFDMI1.

オン

### 17.4. 低品質な Dot Code の読取り

この設定により、スキャナの低品質（損傷、破損、印刷不良など）な Dot Code を読取る能力が向上します。この機能を**オン**にすると、これらの低品質な Dot Code の読取性能は強化されますが、通常の高品質な Dot Code の読取性能が低下します。この設定は 1 次元バーコードには適用されません。

初期値 = オフ



DOTEXS0.

オフ



DOTEXS1.

オン

## 17.5. デコードセキュリティ

バーコードの読み取り仕様を非常に厳密に実装すると、誤読が発生してホストに送信される可能性が非常に低くなります。これは、破損、印字エラー、サンプリング不足、品質不良などの曖昧なバーコードの一部が読取れないことを意味します。

デコードセキュリティは、**Code 39**、**Code 128**、**UPCコード**、**JANコード**、**NW-7 (Codabar)**、**ITF (Interleaved 2 of 5)** 特有の問題を緩和する設定で、低いセキュリティレベルを使用すると、誤読する可能性のある曖昧なバーコードでも読み取りを可能とすることができます。

**0** が最も高いセキュリティレベルで、**3** が最も低いセキュリティレベルです。

初期値 = セキュリティレベル 2



DECSEC0.

セキュリティレベル 0



DECSEC1.

セキュリティレベル 1



DECSEC2.

セキュリティレベル 2



DECSEC3.

セキュリティレベル 3

## 17.6. 反転バーコードの読取

この機能は反転したバーコードの読取りを許可するために使用します。**反転無効**は、通常のバーコードのみを読み取ります。**反転のみ**は、反転したバーコードのみを読み取ります。**反転自動検知**は、通常および反転したバーコードの両方を読み取ります。

- ✎ この設定は QR コードのなどの 2 次元バーコードには適用されません。
- ✎ GS1 Databar 系バーコード、および GS1 Databar 系を含む合成シンボル (CC-A/B/C) の反転コードはサポートしておりません。GS1 Databar 系の反転は JIS X 0509 の規格に違反しています。詳しくは「JIS X 0509 付属書 I 印刷上の考慮点 1.1 ガードパターンに関する考慮点」をご確認ください。

初期値 = 反転無効



VIDREV1.  
反転のみ



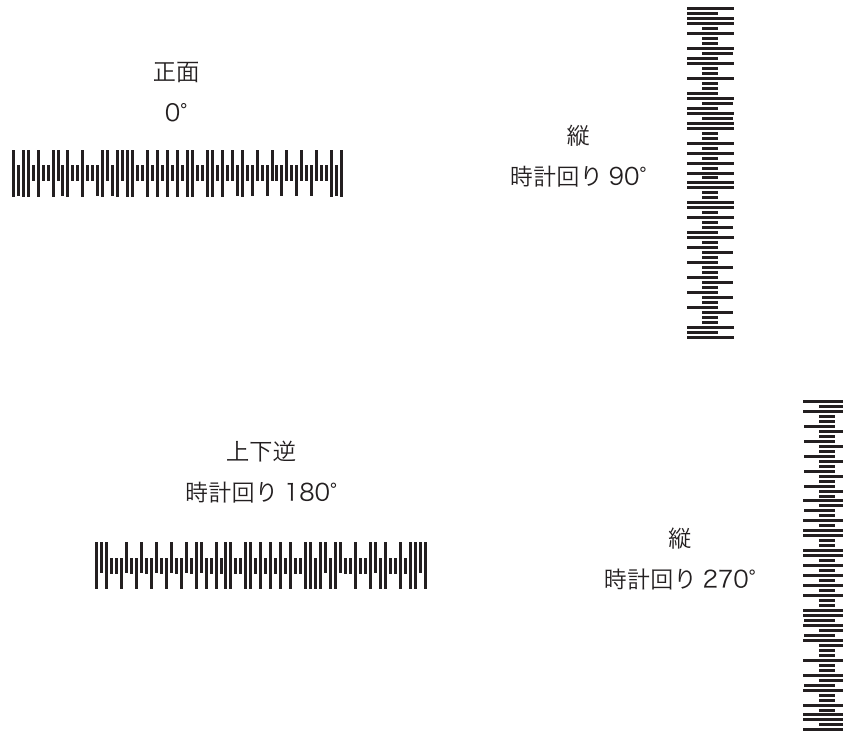
VIDREV2.  
反転自動検知



VIDREV0.  
反転無効

## 17.7. 読取り方向

いくつかのバーコードは、読み取り方向に敏感です。たとえば日本郵便カスタマバーコードは読み取り方向によって誤読します。通常使用時、読み取り方向に敏感なバーコードがスキャナの正面から読み取られない場合はこの設定を使用します。



初期値 = 正面 0°



## 18. OCR プログラミング

### 18.1. OCR プログラミングの概要

次の手順は、光学文字認識（OCR）用にスキャナをプログラミングするためのものです。プログラミングコマンドを連続して入力するための無料のソフトウェアツールを提供しています。[22. EZConfig Scanning](#)（265 ページ）を参照してください。

✍ スキャナは、6～60 ポイントの OCR 書体（**OCR-A**、**OCR-B**、**MICR E-13B**、**SEMI フォント**）を読み取ります。事前定義された OCR テンプレートを選択するか、読み取る予定の OCR タイプ用に独自のカスタムテンプレートを作成できます。

現在、次の OCR 文字がサポートされています。

OCR-A :

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

# \$ % & ( ) \* + - . / < > @ \ € £ ¥

OCR-B :

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

# \$ % & ( ) \* + - . / < > @ \ € £ ¥

MICR E-13B

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 : ; , ' " # \$ % & ' ( ) \* + - . / < > @ \ € £ ¥

## 18.2. OCR 設定

### 18.2.1. OCR 初期化

OCR のすべての設定を初期化するには、次のバーコードを読み取ります。



OCRDFT.

OCR 初期化

### 18.2.2. OCR 読取り許可

以下のバーコードを読み取って、**標準表示 OCR**、**反転表示 OCR**、**標準および反転 OCR** のいずれかを読み取れるように設定します。**OCR 無効**を読み取ると OCR の読取りは無効化されます。

OCR 読取りが有効になったら、OCR 文字を読み取るために、[18.2.4. OCR 事前定義済みテンプレート](#) (231 ページ) を選択するか、[18.2.5. OCR カスタムテンプレート](#) (236 ページ) を作成する必要があります。

初期値 = OCR 無効



OCRENA1.

標準表示 OCR



OCRENA2.

反転表示 OCR



OCRENA3.

標準および反転表示 OCR



OCRENA0.

OCR 無効

### 18.2.3. OCR 読取り方向

OCR 文字は読取り方向に非常に敏感です。たとえば OCR 文字は、横向きまたは上下逆さまに読み取ったときに誤読する可能性があります。スキャナが OCR 文字に対して垂直に読取ることができない場合は、この機能で読取り方向を選択します。OCR 文字列が選択した方向にない場合、読み取られません。

正面

縦、下から上

上下逆

縦、上から下

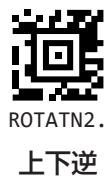
ABCDEF

ABCDEF

FEDCBA

ABCDEF

初期値 = 正面





#### 18.2.4.2. ISBN テンプレート

ISBN テンプレートは、国際標準図書番号 (ISBN) を読み取るために使用します。このテンプレートは、OCR-A フォントと OCR-B フォントの両方を読み取ります。

例：13 文字の ISBN 形式 OCR-A テキスト

ISBN 0-8436-1072-7

この形式は、4 文字の ISBN と、それに続くハイフンを含む 13 文字で構成されています。最後の文字は MOD11 チェックサム (数値)、または文字「X」です。すべての ISBN の読取り結果は、チェックサムによって有効かどうかをチェックされます。

例：17 文字の ISBN 形式 OCR-A テキスト

ISBN 978-0-571-08989-5

この形式は 13 文字の ISBN 形式とは異なり、チェックサムは MOD10 チェックサム (数値) のみです。

以下のバーコードを読み取って ISBN テンプレートを有効にします。



OCRATS4.

ISBN テンプレート有効

ISBN テンプレートと共に、複数の OCR テンプレートを有効にすることができます。[18.2.7. OCR テンプレート 組み合わせ](#) (246 ページ) を参照してください。

### 18.2.4.3. プライスフィールド テンプレート

プライスフィールドは書籍の価格設定を含む多くの用途で使用されます。このテンプレートは、OCR-A フォントと OCR-B フォントの両方を読み取ります。フォーマットは以下の様になっています。

C1234 P5678E

フィールドは「C」で始まり、「E」で終わります。プライスフィールドの最初の部分は、「C」に続く 4 桁の数値です。後半は、通貨文字で始まります。上の例だと「P」になっていますが、プライスフィールドテンプレートでは、次の追加の文字が許可されています。

₤ € £ ¥

通貨文字に続いて、3～6 桁の数値のグループと終了文字の「E」が続きます。以下の例は、プライスフィールドテンプレートが有効化される時読取ることができます。

C6712 ₤801E

C0217 €4399E

C0823 £31559E

C0331 ¥706213E

以下のバーコードを読み取ってプライスフィールドテンプレートを有効にします。



OCRATS8.

プライスフィールドテンプレート有効

プライスフィールドテンプレート共に、複数の OCR テンプレートを有効にすることができます。[18.2.7. OCR テンプレート 組み合わせ](#) (246 ページ) を参照してください。

#### 18.2.4.4. MICR E-13B テンプレート

**MICR E-13B** は、10 個の数値と 4 個の制御文字からなる 14 文字で構成されています。4 つの制御文字は TOAD (Transit、On-Us、Amount、Dash) として知られており、それらは次の作法で出力されます。

MICR 文字	機能	ASCII 文字	10 進値	16 進値
⋮	Transit	A	65	0x41
⋮ <sup>1</sup>	Amount	B	66	0x42
⋮ <sup>2</sup>	On-Us	C	67	0x43
⋮ <sup>3</sup>	Dash	D	68	0x44

MICR E-13B は、銀行口座番号、銀行コード、小切手番号およびその他の情報を 1 行にエンコードするために小切手などの金融アプリケーションで使用されます。小切手やその他の財務書類にデータを表示する方法に対処する標準的なガイドラインがありますが、ドキュメント設計者の裁量に大きな柔軟性が残されています。

MICR E-13B テンプレートは、長さが 4-40 文字の MICR 文字列を読み取ります。テンプレートでは、連続したスペースを 1 つだけ使用できます。MICR 行に 1 つ以上のスペースで区切られたフィールドが含まれる多くの小切手がありますが、これらのフィールドは個別の MICR 文字列として読み取られ、出力されます。MICR 出力を作る文字列は範囲が広いので、ユーザーは目的の MICR 文字列の一部だけが実際にスキャナに表示される MICR テキストが部分的に読み取られていないかをチェックする必要があります。

次の例は、MICR E-13B テンプレートが有効のときに読み取ることができます。

⋮ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ⋮

⋮<sup>1</sup> 0 1 2 3 5 ⋮ ⋮ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ⋮ 1 9 3 4 1 2 4 5 4 ⋮<sup>2</sup>

⋮<sup>2</sup> 9 8 7 6 5 ⋮<sup>3</sup> ⋮ 5 6 8 1 2 3 9 7 7 ⋮ 6 7 8 9 1 7 8 8 ⋮<sup>3</sup> 7 0

3 番目の例では、1 つ目と 2 つ目のフィールドの間に 4 つのスペースの隙間があるため、2 つの区切られた出力結果があるので注意してください。

以下のバーコードを読み取って MICR E-13B テンプレートを有効にします。



OCRATS16.

MICR E-13B テンプレート有効

MICR E-13B テンプレート共に、複数の OCR テンプレートを有効にすることができます。[18.2.7. OCR テンプレート 組み合わせ](#) (246 ページ) を参照してください。

#### 18.2.4.4. MICR E-13B テンプレート (続き)

MICR E-13B 内の標準フィールドの 1 つは銀行コードです。Transit 記号 (A) で始まり、9 桁の数値と終端の Transit 記号 (A)g が続きます。いくつかの小切手で、銀行コードのフィールドは少なくとも一つのスペースによって両端が区切られ、独立したフィールドとして読取ることができます。これは、次のテンプレートを作成することによって行います。

1 4 x 4 1 5 1 4 9 x 4 1 0

銀行コードフィールドが長いフィールドの一部（先頭または末尾の Transit 文字とその他の MICR 文字の間のどちらかにスペースがない）の場合、それらの書類を読み取りにカスタムテンプレートを作成する必要があります。

## 18.2.5. OCR カスタムテンプレート

### 18.2.5.1. はじめに

スキャナで読み取る OCR 文字列の文字数と内容を定義するカスタムテンプレートまたは文字列を作成できます。テンプレートは、行列形式のテキストレイアウトと同様に OCR フォントを定義します。テンプレートには最大 18 行、各行には最大 50 文字、合計で最大 320 文字を含めることができます。各文字位置内で、明示的な ASCII 値、ASCII 値のグループ、ワイルドカード文字やそれらの組み合わせのいずれかを使用して、許可される文字を指定できます。OCR の読取り精度を向上させるには、各文字位置の値をアプリケーションに合わせて特定の値に制限します。

### 18.2.5.2. スペース (空白)

1 つ以上のスペースはテンプレートでは認識されません。

#### ONE SPACE

例えば上のように、OCR テキストの「E」と「S」の間に 1 つのスペースだけが存在する場合、テンプレートは有効です。しかし、次のように、OCR テキストの「O」と「S」の間に 2 つのスペースが存在すると無効となります。

#### TWO SPACE

行の先頭と末尾に任意の数のスペースを使用できます。これらのスペースは、ASCII 値のスペース (16 進数、0x20) でテンプレートに含める必要があり、グループまたはワイルドカード文字の一部として含めることはできません。

### 18.2.5.3. 文字サイズ

実際に読み取る OCR 文字の理想的な高さは約 20 ピクセルですが、最大 50 ピクセルの高さの文字を読み取ることができます。すべての OCR 文字の高さが 40 ピクセルを超える場合、OCR 文字を 1/2 にすることで読取り速度と読取り精度の両方でより良い結果が得られます。

### 18.2.5.4. ユーロ、ポンド、円通貨文字

OCR テンプレート文字列では、7 ビット ASCII 値が使用されます。ただし、ユーロ、ポンド、円通貨記号には、7 ビット ASCII での表現はありません。これらの 8 ビットコードは以下の通りです。

通貨	10 進値	16 進値
ユーロ	128	0x80
ポンド	163	0xA3
円	165	0xA5

## 18.2.6. OCR カスタムテンプレートの作成

### 18.2.6.1. 制御コードチャート

制御コード	値	引数
テンプレート終了	0	
新規テンプレート	1	フォント： 1 - OCR-A 2 - OCR-B 3 - OCR-A および OCR-B 4 - MICR E-13B 5 - SEMI
改行	2	
グループ定義開始	3	ID[001 - 255]
グループ定義終了	4	
ワイルドカード：数字	5	[0 - 9]
ワイルドカード：英字	6	[A - Z(大文字)]
ワイルドカード：英数字	7	[0 - 9] [A - Z(大文字)]
ワイルドカード：スペースを含むすべての文字	8	
グループ使用	A	ID[001 - 255]
インライングループ開始	B	
インライングループ終了	C	
チェックサム	D	ウェイト(係数)、タイプ、モジュラス
文字の固定回数繰り返し	E	[01 - 50]
文字の可変回数繰り返し	F	繰り返しの最小回数：[01 - 50] 繰り返しの最大回数：[01 - 50]
ASCII 16 進値	x##	x(小文字) + 2文字の数値

**注意！** 以降のすべての例では、視認しやすくするために文字間をスペースで区切ってありますが、実際のテンプレートではスペースで区切る必要はありません。

### 18.2.6.2. 新規テンプレートコード

すべての OCR テンプレートは、**新規テンプレート**制御コードで始まります。この制御コードの直後の値は、このテンプレートで作成されているフォントを示します。

12345678

例えば、上記のような OCR-A または OCR-B のいずれかで作成された 8 文字の数字の OCR 文字の読取りを必要とする場合のテンプレート文字列は以下の通りです。

1 3 5 5 5 5 5 5 5 0

制御コード	説明
1	新規テンプレートコード
3	OCR-A および OCR-B の両方
5	ワイルドカード：数字 - 8 回
5	
5	
5	
5	
5	
5	
5	
0	テンプレート終了

テンプレートでは、同じ文字列内に複数のテンプレートを個別に含めることができます。各テンプレートは**新規テンプレート**制御コードで開始されます。

### 18.2.6.3. 改行コード

複数行で表現された OCR 文字を読み取るために使用されるテンプレート内の改行は、**改行制御コード**によって表されます。

4321  
A-3D FG9

例えば、上記のような OCR-A フォントを使用した、1 行目が 4 文字の数字、2 行目が 8 文字の英数字およびスペースで構成された OCR 文字の読取りを必要とする場合のテンプレート文字列は以下の通りです。

1 1 5 5 5 5 2 8 8 8 8 8 8 8 0

制御コード	説明
1	新規テンプレートコード
1	OCR-A
5	ワイルドカード：数字 - 5 回
5	
5	
5	
2	改行コード
8	ワイルドカード：スペースを含むすべての文字
8	
8	
8	
8	
8	
8	
0	テンプレート終了

#### 18.2.6.4. 繰り返しコード

カスタムテンプレートの作成を単純化するため、**繰り返し制御コード**を使用して特定の ASCII 値、ワイルドカード、グループを繰り返すことができます。各 OCR 行は最大 50 文字に制限されているため、**繰り返し**を使用して文字列を短縮できます。**繰り返し制御コード**には、**繰り返し回数を固定値で指定するコマンド (E)** と、**繰り返し回数を範囲値で指定するコマンド (F)** があります。範囲値には、最小値と最大値があり、01 ~ 50 の範囲で指定できます。

12345678

例えば、上記のような OCR-A または OCR-B のいずれかで作成された 8 文字の数字の OCR 文字の読取りを必要とする場合のテンプレート文字列は以下の通りです。

1 3 5 5 5 5 5 5 0

このテンプレート文字列を、**繰り返し回数を固定値で指定するコマンド**を使用し以下のように短縮することができます。

1 3 5 E 0 8 0

制御コード	説明
1	新規テンプレートコード
3	OCR-A および OCR-B の両方
5	ワイルドカード：数字
E	固定値で繰り返し - 8 回
08	
0	テンプレート終了

12345

123456

1234567

例えば、上記のような OCR-B で作成された 5、6、7 文字の数字だけで構成された OCR 文字の読取りをすべて必要とする場合のテンプレート文字列は以下の通りです。

1 2 5 5 5 5 5 1 2 5 5 5 5 5 5 1 2 5 5 5 5 5 5 0

このテンプレート文字列を、**繰り返し回数を範囲値で指定するコマンド**を使用し以下のように短縮することができます。

1 2 5 F 0 5 0 7 0

#### 18.2.6.4. 繰り返しコード（続き）

制御コード	説明
1	新規テンプレートコード
2	OCR-B
5	ワイルドカード：数字
F	文字の可変回数繰り返し - 最小 5 回、最大 7 回
05	
07	
0	テンプレート終了

### 18.2.6.5. グループ

与えられた文字位置で、テキスト文字が取ることができる値を指定する必要があります。テンプレートの全体的なサイズを小さくするために、ASCII 文字の共通グループを定義し、同じシーケンスを何度も繰り返すのではなく、定義されたグループ制御文字を使用することができます。

グループは、個々の ASCII 値またはワイルドカード値で構成することができます。ワイルドカード値は、制御コードの**数値 (5)、英字 (6)、英数字 (7)、スペースを含むすべての文字 (8)** です。

グループを定義するには、グループ定義制御コードに続いて 001 ~ 255 までのグループ ID を指定します。グループ ID を使用して、作成したテンプレートでグループを使用します。

✍ グループは入れ子にすることはできません。

例えば、読取りたい OCR 文字が、3 文字の数値に続いて、A、B、C または数字のいずれかの文字となる場合のテンプレート文字は以下の通りです。

1 2 3 0 0 1 x 4 1 x 4 2 x 4 3 5 4 5 5 5 A 0 0 1 0

✍ 太い線で囲まれた部分がグループを定義している箇所です

制御コード	説明
1	新規テンプレートコード
2	OCR-A および OCR-B の両方
3	グループ定義開始
001	グループ ID
x41	[A] の ASCII16 進値
x42	[B] の ASCII16 進値
x43	[C] の ASCII16 進値
5	ワイルドカード：数字
4	グループ定義終了
5	ワイルドカード：数字 - 3 回
5	
5	
A001	グループ使用、グループ ID 001
0	テンプレート終了

✍ 文字の 16 進値については、[28. ASCII 変換チャート](#) (304 ページ) をご覧ください。

### 18.2.6.6. インライングループ

**インライングループ**は、テンプレート内の 1 文字の位置を占めるグループの 1 回限りのインスタンスを定義します。これは、一度しか発生しない文字のユニークなグループに使用します。

### 18.2.6.7. チェックサムとウェイト

チェックサムは、誤読の可能性を減らします。チェックサムには、Raw と Block の 2 つのタイプがあります。追加のチェックサム保護として、1、12、13、137 の 4 つの異なるウェイト方式があります。チェックサムの計算はモジュロ演算に基づいています。モジュロ係数は、6 から 36 まで変化する場合があります。

**チェックサム**制御コードの直後に続く文字は、使用されるチェックサムのタイプを指定しています。

チェックサムテーブル	
ビット位置	意味
7、6：ウェイト方式	00：ウェイト 1
	01：ウェイト 12
	10：ウェイト 13
	11：ウェイト 137
5：チェックサムタイプ	0：Row
	1：Block
4-0：モジュラス値	モジュラス 5

**Row チェックサム (0)** は、一行内のすべての文字に対してチェックサム計算を実行します。**Block チェックサム (1)** は、テンプレート内のすべての文字に対してチェックサム計算を実行します。Block チェックサム (1) は、複数行にまたがって計算を行います。チェックサムの計算は、チェックサムの直前の文字から先頭の文字にかけて行われます。

5 ビットのモジュラス値にはモジュラス 5 が格納されています。使用可能な範囲はモジュラス 6 の値である 1 (00001) からモジュラス 36 の値である 31 (11111) までです。モジュラス値の 0 (00000) は無効となります。

チェックサムフィールド内の文字には、チェックサムの計算に使用される数値が含まれています。数字は数値 (0?9) に変換され、大文字英字は「A」が 10、「Z」が 36 のように変換されます。

すべての句読文字は 0 となりますが、チェックサム計算に使用されるウェイト値を決定するために 1 つの位置を占有します。

### 18.2.6.8. ウェイトの方式

ウェイト方式は、文字の位置に基づいてチェックサム用の数値（数字=0～9、A=10～Z=36）を変更する方法を定義します。初期値のウェイト方式は1です。チェックサムは文字の持つチェックサム用の数値のみを基準とし、その文字の位置には依存しません。

他のウェイト方式では、文字の数値にウェイトの値を反復乗算します。これにより、列の位置が切り替えられた文字を識別できます。4つのウェイト方式は次のとおりです。

ウェイト方式テーブル	
ウェイト方式	乗数
1	1 1 1 1 1 ...
12	1 2 1 2 1 2 ...
13	1 3 1 3 1 3 ...
137	1 3 7 1 3 7 1 3 7 ...


チェックサム文字は、常にウェイト1で始まります。チェックサムの左に移動すると、シーケンスの次の値へウェイト値は更新されます。Row チェックサムの場合は、行内の最初の文字までシーケンスは繰り返されます。Block チェックサムの場合は、テンプレートの最初の文字までシーケンスは繰り返されます。それらの和はモジュラス値で除算されます。有効なチェックサムであるために、除算の余りは0（ゼロ）でなければなりません。

### 18.2.6.9. チェックサム例

ABCD6  
EFG5X

上の2行のOCR-Bテキストは、両方の行がRow チェックサムを含んでいます。また2行目の最後の文字はBlock チェックサムになっています。2行のRow チェックサムは、モジュラス10のウェイト13（16進値0x85、ビット値10000101）で、Block チェックサムは、モジュラス36のウェイト137（16進値0xFF、ビット値11111111）です。以下のテンプレートでこのテキストを読取れます。

1 2 6 6 6 6 **D 8 5** 2 6 6 6 **D 8 5 D F F 0**

 太字はRow および Block チェックサムを表しています。

### 18.2.6.8. ウェイトの方式（続き）

Row チェックサムの内訳表：

D85	説明
1	ウェイト方式：13
0	
0	チェックサムタイプ：Row
0	モジュラス値：初期値はモジュラス 5 00101 = 5 モジュラス 5+5 = モジュラス 10
0	
1	
0	
1	

Block チェックサムの内訳表：

DFF	説明
1	ウェイト方式：137
1	
1	チェックサムタイプ：Block
1	モジュラス値：初期値はモジュラス 5 11111 = 31 モジュラス 5+31 = モジュラス 36
1	
1	
1	
1	

1 行目のチェックサムは、行の最後の **6** です。この例では、チェックサムは行の最後に表示されていますが、行のどこに表示されていてもよく、そのチェックサムの左の位置にあるすべての文字を保護します。次の合計は、1 行目のチェックサムの正当性を検証するために生成されます。

$$\begin{array}{cccccc} & \mathbf{6} & & \mathbf{D} & & \mathbf{C} & & \mathbf{B} & & \mathbf{A} \\ & (1 \times 6) & + & (3 \times 13) & + & (1 \times 12) & + & (3 \times 11) & + & (1 \times 10) & = & 100 \end{array}$$

ウェイト方式 13 は、乗数 1 から開始され、チェックサムの左にある全ての文字の値に 1 と 3 を交互に行の最初の文字までそれぞれ乗算します。合計の 100 は、10 の倍数であり、モジュラス 10 と符合します。2 行目は、Row チェックサムが G に続く 5 です。このチェックサムの正当性を検証するために合計を生成します。

$$\begin{array}{cccc} & \mathbf{5} & & \mathbf{G} & & \mathbf{F} & & \mathbf{E} \\ & (1 \times 5) & + & (3 \times 16) & + & (1 \times 15) & + & (3 \times 14) & = & 110 \end{array}$$

同様に、合計は 10 の倍数となっており、この Row チェックサムの正当性を確認できます。行の最後の X はモジュラス 36、ウェイト 137 の Block チェックサムです。1 行目を含むテンプレートのすべての文字を保護します。Block チェックサムから先頭方向に向かい、ウェイト方式 137 を使用して計算します。

$$\begin{array}{cccccccccc} & \mathbf{X} & & \mathbf{5} & & \mathbf{G} & & \mathbf{F} & & \mathbf{E} & & \mathbf{6} & & \mathbf{D} & & \mathbf{C} & & \mathbf{B} & & \mathbf{A} \\ & (1 \times 34) & + & (3 \times 5) & + & (7 \times 16) & + & (1 \times 15) & + & (3 \times 14) & + & (7 \times 6) & + & (1 \times 13) & + & (3 \times 12) & + & (7 \times 11) & + & (1 \times 10) & = & 396 \end{array}$$

合計の 396 は、36 の倍数でありモジュラス 36 による正当性を確認できます。

## 18.2.7. OCR テンプレート 組み合わせ

次のコードの1つを読み取ることで、複数のテンプレートを組み合わせて使用することができます。

初期値 = 未定義



OCRATS5.

ISBN テンプレート  
カスタムテンプレート



OCRATS12.

ISBN テンプレート  
プライスフィールドテンプレート



OCRATS20.

ISBN テンプレート  
MICR E-13B テンプレート



OCRATS13.

ISBN テンプレート  
カスタムテンプレート  
プライスフィールドテンプレート



OCRATS21.

ISBN テンプレート  
カスタムテンプレート  
MICE E-13B テンプレート



OCRATS28.

ISBN テンプレート  
プライスフィールドテンプレート  
MICR E-13B テンプレート

## 18.2.7. OCR テンプレート 組み合わせ (続き)



OCRATS29.

ISBN テンプレート  
カスタムテンプレート  
プライスフィールドテンプレート  
MICR E-13B テンプレート



OCRATS9.

プライスフィールドテンプレート  
カスタムテンプレート



OCRATS24.

プライスフィールドテンプレート  
MICR E-13B テンプレート



OCRATS25.

プライスフィールドテンプレート  
カスタムテンプレート  
MICR E-13B テンプレート



OCRATS17.

MICR E-13B テンプレート  
カスタムテンプレート

## 18.3. OCR プログラミングコード

以下の **OCR テンプレート入力開始**バーコードに続けて **OCR プログラミング**バーコード、続けて **OCR テンプレート保存**バーコードを読み取って入力することができます。テンプレートを途中で破棄するには、**OCR テンプレート破棄**バーコードを読み取ってください。

### 18.3.1. OCR テンプレート入力



OCR TMP.

OCR テンプレート入力開始

### 18.3.2. OCR プログラミングコード一覧



K3.K0.

0



K3.K1

1



K3.K2.

2



K3.K3.

3

### 18.3.2. OCR プログラミングコード一覧 (続き)



K3.K4.

4



K3.K5.

5



K3.K6.

6



K3.K7.

7



K3.K8.

8



K3.K9.

9

### 18.3.2. OCR プログラミングコード一覧 (続き)



K4.K1.

A

グループ使用



K4.K2.

B

インライングループ開始



K4.K3.

C

インライングループ終了



K4.K4.

D

チェックサム



K4.K5.

E

文字の固定回数繰り返し



K4.K6.

F

文字の可変回数繰り返し

### 18.3.2. OCR プログラミングコード一覧 (続き)



K7.K8.

X

ASCII 16 進値

### 18.3.3. OCR テンプレート保存、破棄



MNUSAV.

OCR テンプレート保存



MNUABT.

OCR テンプレート破棄

## 19. Digimarc® Barcode

Digimarc Barcode は、人間の目には見えないパターンを製品パッケージ、印刷物、画像などに埋め込みます。埋め込まれたパターンは、人間には知覚できませんが、スマートフォンのカメラやバーコードイメージスキャナなどで読取ることができます。



**Looks Like This**



©Digimarc Corporation

**Performs Like This**

[ Digimarc 社より引用 ]

上の画像は Digimarc Barcode の埋め込みイメージです。この図では埋め込みパターンがバーコードとして表されていますが、分かりやすくするためのもので厳密には正しくありません。

MS852B + は、Digimarc 対応バーコードスキャナですので、このようなウォーターマーク（透かし）から情報を取り出して、あたかもバーコードを読み取るのと同じようにデータを復元し出力することができます。

Digimarc Barcode の読取りに設定は必要なく、対応バーコードスキャナであれば読取りが可能です。

✍ Digimarc Barcode についての詳細は、Digimarc 社の Web サイトをご覧ください。

## 19.1. Digimarc Barcode 読取り許可

Digimarc Barcode の読取り許可を設定します。

初期値 = 無効



## 20. CJK コントロール

### 20.1. CJK コントロールとは

CJK は、Chinese、Japanese、Korean の頭文字です。CJK コントロールを適切に設定することで、USB キーボードエミュレーションのまま、日本語の含む 2 次元コード（QR コードなど）を読み取り出力することができます。

- ✎ CJK コントロールは Windows 専用の機能です。
- ✎ CJK コントロールを使用するには Windows のレジストリを編集する必要があります。
- ✎ 「Alt キー」が機能として割り当てられているソフトウェア上では、CJK コントロールは正しく動作しません。それらのソフトウェアを使用している場合は、[23. USB 仮想 COM エミュレーション](#)（270 ページ）による日本語読取りをご利用ください。

### 20.2. CJK コントロールの動作確認リスト

下記リストは弊社環境での動作確認の結果であり、如何なる環境でも同じ結果になることを保証するものではありません。

ソフトウェア名	動作可否
Internet Explorer	NG
Microsoft Edge	NG
Google Chrome	NG
Microsoft Word for Office 365	OK
Microsoft Excel for Office 365	OK
Microsoft Power Point for Office 365	OK
メモ帳	OK
ワードパッド	OK
秀丸 64bit 版	OK
コマンドプロンプト	OK
Power Shell	OK

## 20.3. Windows でのセットアップ

### 20.3.1. レジストリを変更します

**注意！** レジストリを変更する前に、編集するレジストリキーをエクスポートするか、レジストリ全体をバックアップしてください。レジストリを編集すると即座に変更が適用され、バックアップが自動的に作成されることはありません。レジストリエディタを正しく使用して変更しないと、深刻なシステム規模の問題を引き起こす可能性があります。正しく変更操作を行える確信がない場合は、レジストリ編集を行わないようお願い致します。ユニテックは、レジストリエディタおよび下記ツール「SetUnicodeInputRegistry」を使用して発生したいかなる問題の発生について解決は保証できません。これらのツールの使用は、使用者の責任において行ってください。

**注意！** レジストリのアクセス権により編集が行えない場合はシステム管理者へ連絡してください。

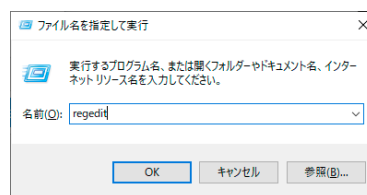
以下の3つのステップを自動で実行するためのツールを用意しております。このツールの実行には、Microsoft .NET Framework 4.6.2以上が必要です。レジストリのバックアップは行いません。当該ツールを実行する前に必ず上記の注意書きをご確認いただき、十分に注意して実行してください。

<http://www.unitech-japan.co.jp/public/software/SetUnicodeInputRegistry.zip>

#### 1. レジストリエディタを実行します。

Windows7： [スタート] → [ファイル名を指定して実行] → [regedit] と入力して [OK] をクリックします

Windows10： [Windows マーク] を右クリック → [ファイル名を指定して実行] → [regedit] と入力して [OK] をクリックします



#### 2. [HKEY\_Current\_User\Control Panel\Input Method] へ移動します。[EnableHexNumpad] を [1] に設定します。このキーが存在しない場合は、REG\_SZ 型 (文字列値) として追加します。



#### 3. 変更したレジストリ値を適用するため、コンピューターを再起動します。

### 20.3.2. スキャナの設定を変更します

次の設定バーコードを読み取ります。



TERMID124;KBDCTY28;KBDALT7;  
QRCDP29;ECIAUT1.

日本語 QR 読取り

### 20.3.3. 読取りテストを行います

メモ帳やワードパッドを開いて以下のサンプル QR コードまたは、実際に読取りを希望するターゲットの QR コードを読み取ります。サンプル QR コードは、上が Shift-JIS エンコード、下が UTF-8 エンコードとなります。



日本語 S H I F T - J I S テスト、〒 104-0033 東京都中央区新川 1-5-19 茅場町長岡ビル 8F ユニテック・ジャパン株式会社



日本語 U T F - 8 テスト、〒 104-0033 東京都中央区新川 1-5-19 茅場町長岡ビル 8F ユニテック・ジャパン株式会社

## 21. 標準設定値一覧

設定項目	標準値	掲載ページ
<b>USB インタフェース設定</b>		38 ページ
USB デバイスタイプ	USB CDC ホスト	38 ページ
CTS/RTS エミュレーション	無効	40 ページ
ACK/NAK モード	無効	40 ページ
キーボードレイアウト	アメリカ	41 ページ
キーボードスタイル	標準	52 ページ
大文字・小文字変換	変換しない	53 ページ
制御文字出力	無効	54 ページ
キーボード出力の変更	Control + ASCII モード無効	54 ページ
ターボモード	無効	55 ページ
テンキーモード	無効	55 ページ
自動直接接続モード	無効	56 ページ
HEX 変換出力	無効	56 ページ
<b>RS232 インタフェース設定</b>		57 ページ
RS232 シリアルポート	N/A	57 ページ
RS232 初期化	N/A	57 ページ
RS232 ボーレート	115,200	58 ページ
RS232 データビット、ストップビット、パリティ	データ 8、ストップ 1、パリティなし	60 ページ
RS232 レシーバタイムアウト	0	61 ページ
RS232 ハンドシェイク	RTS/CTS オフ	62 ページ
RS232 タイムアウト	3100	63 ページ
RS232 XON/XOFF	XON/XOFF オフ	63 ページ
RS232 ACK/NAK	ACK/NAK オフ	64 ページ
<b>入出力設定</b>		65 ページ
電源投入時のビーブ音	有効	65 ページ
[BEL] 文字とビーブ音	[BEL] 文字を使用しない	65 ページ
トリガークリック音	無効	66 ページ
<b>読取り成功とエラーの表示</b>		66 ページ
ビーブ音の鳴動 (読取り成功)	有効	66 ページ
ビーブ音の音量 (読取り成功)	大	67 ページ
ビーブ音の音程 (読取り成功)	中 (2700 Hz)	68 ページ
ビーブ音の音程 (エラー)	低 (250 Hz)	68 ページ
ビーブ音の鳴動時間 (読取り成功)	標準	69 ページ
LED の明滅 (読取り成功)	有効	69 ページ
ビーブ音の鳴動回数 (読取り成功)	1 回	70 ページ
ビーブ音の鳴動回数 (エラー)	1 回	70 ページ
読取り遅延	遅延無し	71 ページ
ユーザー定義の読取り遅延	0	71 ページ
マニュアルトリガーモード	マニュアルトリガー (標準)	72 ページ
シングルコードセンタリング	N/A	72 ページ
カスタムセンタリング	無効	73 ページ
プレゼンテーションモード	N/A	75 ページ
読取り成功後のプレゼンテーション LED 動作	LED オン	75 ページ
プレゼンテーション感度	1	76 ページ
プレゼンテーションセンタリング	無効	77 ページ
ストリーミングプレゼンテーションモード	N/A	79 ページ
ホストトリガーモード		80 ページ

## 21. 標準設定値一覧（続き）

設定項目	標準値	掲載ページ
文字によるトリガーの有効化	無効	80 ページ
文字によるトリガーの無効化	無効	80 ページ
有効化文字	DC2	81 ページ
無効化文字	DC4	81 ページ
ホストトリガータイムアウト	30,000 ミリ秒	81 ページ
読取り成功後のトリガー状態	無効化する	82 ページ
複数シンボル読込み	無効	82 ページ
LED 照明	オン	83 ページ
照準パターン		83 ページ
照準モード	インターレース	83 ページ
照準遅延時間	遅延無し	84 ページ
ユーザー定義の照準遅延時間	0	84 ページ
照準照射時間	オフ	85 ページ
ユーザー定義の照準照射時間	0	85 ページ
スマートフォン画面読取りモード	N/A	86 ページ
ハンドフリータイムアウト	5,000 ミリ秒	86 ページ
CodeGate	オフ	87 ページ
二重読取り防止遅延時間	750 ミリ秒	88 ページ
ユーザー定義の二重読取り防止遅延時間	750	88 ページ
2次元バーコードの二重読取り防止遅延時間	オフ	89 ページ
「読取なし」メッセージ	無効	90 ページ
<b>優先シンボル</b>		91 ページ
優先シンボルの使用	使用しない	91 ページ
高優先度のシンボル	未定義	92 ページ
低優先度のシンボル	未定義	92 ページ
優先シンボルタイムアウト	500 ミリ秒	92 ページ
優先シンボルの初期化	N/A	93 ページ
<b>データ出力順序</b>		94 ページ
データ出力順序の使用	使用しない	94 ページ
データ出力順序の初期化	N/A	95 ページ
<b>プリフィックス / サフィックス</b>		97 ページ
プリフィックスの送信	送信する	100 ページ
サフィックスの送信	送信する	100 ページ
プリフィックス	未定義	101 ページ
サフィックス	未定義	101 ページ
機能コード送信	有効	104 ページ
<b>文字間、機能間、データ間遅延</b>		105 ページ
文字間遅延	0 ミリ秒	105 ページ
ユーザー定義の文字間遅延	未定義	106 ページ
機能間遅延	0 ミリ秒	107 ページ
データ間遅延	0 ミリ秒	107 ページ
<b>データ編集</b>		108 ページ
データフォーマッター	データフォーマッター有効 / 必須ではない / プリフィックスとサフィックスを送信する	123 ページ
不一致時エラービープ	不一致エラービープ有効	124 ページ
編集フォーマット	編集フォーマット 0	125 ページ
クイック編集フォーマット	N/A	126 ページ

## 21. 標準設定値一覧 (続き)

設定項目	標準値	掲載ページ
<b>バーコード読取り設定</b>		129 ページ
全てのバーコードの読取り	N/A	129 ページ
<b>NW-7 (Codabar)</b>		130 ページ
NW-7 初期化	N/A	130 ページ
NW-7 読取り許可	有効	130 ページ
NW-7 スタート・ストップキャラクタ	送信しない	130 ページ
NW-7 チェックデジット	検査しない	131 ページ
NW-7 シンボル連結	無効	132 ページ
NW-7 連結タイムアウト	800 ミリ秒	132 ページ
NW-7 検査回数	0 回	133 ページ
NW-7 読取り文字数	最小文字数 = 4 最大文字数 = 60	133 ページ
<b>Code 39</b>		134 ページ
Code 39 初期化	N/A	134 ページ
Code 39 読取り許可	有効	134 ページ
Code 39 スタート・ストップキャラクタ	送信しない	134 ページ
Code 39 チェックデジット	検査しない	135 ページ
Code 39 検査回数	0 回	135 ページ
Code 39 読取り文字数	最小文字数 = 0 最大文字数 = 48	136 ページ
Code 39 シンボル連結	無効	136 ページ
Code 32 読取り許可	無効	137 ページ
Code 39 フル ASCII	無効	138 ページ
Code 39 ギャップサイズ	標準の文字間ギャップサイズ	139 ページ
Code 39 コードページ	2	139 ページ
<b>ITF (Interleaved 2 of 5)</b>		140 ページ
ITF 初期化	N/A	140 ページ
ITF 読取り許可	有効	140 ページ
ITF チェックデジット	検査しない	141 ページ
ITF 検査回数	0 回	141 ページ
ITF 読取り文字数	最小文字数 = 4 最大文字数 = 80	142 ページ
<b>NEC 2 of 5 (生協コード)</b>		143 ページ
NEC 2 of 5 初期化	N/A	143 ページ
NEC 2 of 5 読取り許可	有効	143 ページ
NEC 2 of 5 チェックデジット	検査しない	144 ページ
NEC 2 of 5 検査回数	0 回	144 ページ
NEC 2 of 5 読取り文字数	最小文字数 = 4 最大文字数 = 80	145 ページ
<b>Code 93</b>		146 ページ
Code 93 初期化	N/A	146 ページ
Code 93 読取り許可	有効	146 ページ
Code 93 検査回数	0 回	146 ページ
Code 93 読取り文字数	最小文字数 = 0 最大文字数 = 80	147 ページ
Code 93 シンボル連結	無効	147 ページ
<b>Industrial 2 of 5</b>		148 ページ

## 21. 標準設定値一覧 (続き)

設定項目	標準値	掲載ページ
Industrial 2 of 5 初期化	N/A	148 ページ
Industrial 2 of 5 読取り許可	無効	148 ページ
Industrial 2 of 5 検査回数	0 回	148 ページ
Industrial 2 of 5 読取り文字数	最小文字数 = 4 最大文字数 = 48	149 ページ
<b>IATA 2 of 5</b>		150 ページ
IATA 2 of 5 初期化	N/A	150 ページ
IATA 2 of 5 読取り許可	無効	150 ページ
IATA 2 of 5 検査回数	0 回	150 ページ
IATA 2 of 5 読取り文字数	最小文字数 = 4 最大文字数 = 48	151 ページ
<b>Matrix 2 of 5</b>		152 ページ
Matrix 2 of 5 初期化	N/A	152 ページ
Matrix 2 of 5 読取り許可	無効	152 ページ
Matrix 2 of 5 検査回数	0 回	152 ページ
Matrix 2 of 5 読取り文字数	最小文字数 = 4 最大文字数 = 80	153 ページ
<b>Code 11</b>		154 ページ
Code 11 初期化	N/A	154 ページ
Code 11 読取り許可	無効	154 ページ
Code 11 チェックデジット	2 桁チェックデジット	154 ページ
Code 11 検査回数	0 回	155 ページ
Code 11 読取り文字数	最小文字数 = 4 最大文字数 = 80	155 ページ
<b>Code 128</b>		156 ページ
Code 128 初期化	N/A	156 ページ
Code 128 読取り許可	有効	156 ページ
Code 128 検査回数	0 回	156 ページ
Code 128 FNC コード	無効	157 ページ
Code 128 読取り文字数	最小文字数 = 0 最大文字数 = 80	157 ページ
Code 128 シンボル連結	無効	158 ページ
ISBT 128 シンボル連結	無効	158 ページ
Code 128 コードページ	2	159 ページ
<b>GS1-128</b>		160 ページ
GS1-128 初期化	N/A	160 ページ
GS1-128 読取り許可	有効	160 ページ
GS1-128 検査回数	0 回	160 ページ
GS1-128 読取り文字数	最小文字数 = 1 最大文字数 = 80	161 ページ
<b>Telepen</b>		162 ページ
Telepen 初期化	N/A	162 ページ
Telepen 読取り許可	無効	162 ページ
Telepen フォーマット	AIM Telepen	162 ページ
Telepen 検査回数	0 回	163 ページ
Telepen 読取り文字数	最小文字数 = 1 最大文字数 = 60	163 ページ

## 21. 標準設定値一覧 (続き)

設定項目	標準値	掲載ページ
<b>UPC-A</b>		164 ページ
UPC-A 初期化	N/A	164 ページ
UPC-A 読取り許可	有効	164 ページ
UPC-A チェックデジット	送信する	164 ページ
UPC-A ナンバーシステム	送信する	165 ページ
UPC-A アドオンコード	2桁アドオン無効 5桁アドオン無効	165 ページ
UPC-A アドオンコードの要求	要求しない	166 ページ
UPC-A アドオンコードタイムアウト	120 ミリ秒	166 ページ
UPC-A アドオンコードセパレータ	有効	167 ページ
UPC-A 検査回数	0 回	167 ページ
拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13	無効	168 ページ
拡張クーポンコード タイムアウト	120 ミリ秒	168 ページ
GS1 DataBar クーポン	GS1 出力無効	169 ページ
<b>UPC-E</b>		170 ページ
UPC-E 初期化	N/A	170 ページ
UPC-E0 読取り許可	有効	170 ページ
UPC-E0 拡張	拡張しない	170 ページ
UPC-E0 チェックデジット	送信する	171 ページ
UPC-E0 ナンバーシステム	送信する	171 ページ
UPC-E0 アドオンコード	2桁アドオン無効 5桁アドオン無効	172 ページ
UPC-E0 アドオンコードの要求	要求しない	172 ページ
UPC-E0 アドオンコードタイムアウト	120 ミリ秒	173 ページ
UPC-E0 アドオンコードセパレータ	有効	173 ページ
UPC-E1 読取り許可	無効	174 ページ
UPC-E 検査回数	0 回	174 ページ
<b>JAN-13</b>		175 ページ
JAN-13 初期化	N/A	175 ページ
JAN-13 読取り許可	有効	175 ページ
ゼロ先頭の JAN コード	UPC?A を JAN?13 に変換しない	175 ページ
JAN-13 チェックデジット	送信する	176 ページ
JAN-13 アドオンコード	2桁アドオン無効 5桁アドオン無効	176 ページ
JAN-13 アドオンコードの要求	要求しない	177 ページ
JAN-13 アドオンコードタイムアウト	120 ミリ秒	177 ページ
JAN-13 アドオンコードセパレータ	有効	178 ページ
ISBN 変換	無効	178 ページ
JAN-13 検査回数	0 回	179 ページ
<b>JAN-8</b>		180 ページ
JAN-8 初期化	N/A	180 ページ
JAN-8 読取り許可	有効	180 ページ
JAN-8 チェックデジット	送信する	180 ページ
JAN-8 アドオンコード	2桁アドオン無効 5桁アドオン無効	181 ページ
JAN-8 アドオンコードの要求	要求しない	181 ページ
JAN-8 アドオンコードタイムアウト	120 ミリ秒	182 ページ

## 21. 標準設定値一覧 (続き)

設定項目	標準値	掲載ページ
JAN-8 アドオンコードセパレータ	有効	182 ページ
JAN-8 検査回数	0 回	183 ページ
<b>MSI</b>		184 ページ
MSI 初期化	N/A	184 ページ
MSI 読取り許可	無効	184 ページ
MSI チェックデジット	MOD10 検査し送信しない	185 ページ
MSI 検査回数	0 回	186 ページ
MSI 読取り文字数	最小文字数 = 4 最大文字数 = 48	186 ページ
<b>GS1 DataBar Omnidirectional</b>		187 ページ
GS1 DataBar Omnidirectional 初期化	N/A	187 ページ
GS1 DataBar Omnidirectional 読取り許可	有効	187 ページ
GS1 DataBar Omnidirectional 検査回数	0 回	187 ページ
<b>GS1 DataBar Limited</b>		188 ページ
GS1 DataBar Limited 初期化	N/A	188 ページ
GS1 DataBar Limited 読取り許可	有効	188 ページ
GS1 DataBar Limited 検査回数	0 回	188 ページ
<b>GS1 DataBar Expanded</b>		189 ページ
GS1 DataBar Expanded 初期化	N/A	189 ページ
GS1 DataBar Expanded 読取り許可	有効	189 ページ
GS1 DataBar Expanded 検査回数	0 回	189 ページ
GS1 DataBar Expanded 読取り文字数	最小文字数 = 4 最大文字数 = 74	190 ページ
<b>Trioptic コード</b>		191 ページ
Trioptic コード 読取り許可	無効	191 ページ
Trioptic コード 検査回数	0 回	191 ページ
<b>Codablock A</b>		192 ページ
Codablock A 初期化	N/A	192 ページ
Codablock A 読取り許可	無効	192 ページ
Codablock A 読取り文字数	最小文字数 = 1 最大文字数 = 600	192 ページ
<b>Codablock F</b>		193 ページ
Codablock F 初期化	N/A	193 ページ
Codablock F 読取り許可	無効	193 ページ
Codablock F 読取り文字数	最小文字数 = 1 最大文字数 = 2048	193 ページ
<b>Label Code</b>		194 ページ
Label Code 読取り許可	無効	194 ページ
<b>PDF417</b>		195 ページ
PDF417 初期化	N/A	195 ページ
PDF417 読取り許可	有効	195 ページ
PDF417 読取り文字数	最小文字数 = 1 最大文字数 = 2750	195 ページ
マクロ PDF417 読取り許可	有効	196 ページ
<b>MicroPDF417</b>		197 ページ
MicroPDF417 初期化	N/A	197 ページ
MicroPDF417 読取り許可	無効	197 ページ

## 21. 標準設定値一覧 (続き)

設定項目	標準値	掲載ページ
MicroPDF417 読取り文字数	最小文字数 = 1 最大文字数 = 366	197 ページ
<b>GS1 合成シンボル (CC-A、CC-B、CC-C)</b>		198 ページ
GS1 合成シンボル 初期化	N/A	198 ページ
GS1 合成シンボル 読取り許可	無効	198 ページ
GS1 合成シンボル UPC/EAN バージョン	無効	199 ページ
GS1 合成シンボル 読取り文字数	最小文字数 = 1 最大文字数 = 2435	199 ページ
GS1 エミュレーション	無効	200 ページ
<b>TLC 39 (TCIF Linked Code 39)</b>		201 ページ
TLC 39 読取り許可	無効	201 ページ
<b>QR コード</b>		202 ページ
QR コード 初期化	N/A	202 ページ
QR コード 読取り許可	有効	202 ページ
QR コード 読取り文字数	最小文字数 = 1 最大文字数 = 2435	202 ページ
QR コード シンボル連結	有効	203 ページ
QR コード コードページ	51	203 ページ
QR コード クワイエットゾーンなし	オフ	204 ページ
<b>Data Matrix</b>		205 ページ
Data Matrix 初期化	N/A	205 ページ
Data Matrix 読取り許可	有効	205 ページ
Data Matrix 読取り文字数	最小文字数 = 10 最大文字数 = 3116	205 ページ
Data Matrix コードページ	51	206 ページ
<b>MaxiCode</b>		207 ページ
MaxiCode 初期化	N/A	207 ページ
MaxiCode 読取り許可	無効	207 ページ
MaxiCode 読取り文字数	最小文字数 = 1 最大文字数 = 150	207 ページ
<b>Aztec</b>		208 ページ
Aztec 初期化	N/A	208 ページ
Aztec 読取り許可	有効	208 ページ
Aztec 読取り文字数	最小文字数 = 1 最大文字数 = 3832	208 ページ
Aztec シンボル連結	有効	209 ページ
Aztec コードページ	51	209 ページ
<b>Han Xin</b>		210 ページ
Han Xin 初期化	N/A	210 ページ
Han Xin 読取り許可	無効	210 ページ
Han Xin 読取り文字数	最小文字数 = 1 最大文字数 = 7833	210 ページ
<b>Dot Code</b>		211 ページ
Dot Code 初期化	N/A	211 ページ
Dot Code 読取り許可	無効	211 ページ
Dot Code 読取り文字数	最小文字数 = 1 最大文字数 = 2400	211 ページ

## 21. 標準設定値一覧 (続き)

設定項目	標準値	掲載ページ
<b>Grid Matrix</b>		212 ページ
Grid Matrix 初期化	N/A	212 ページ
Grid Matrix 読取り許可	無効	212 ページ
Grid Matrix 読取り文字数	最小文字数 = 1 最大文字数 = 2751	212 ページ
<b>China Post (Hong Kong 2 of 5)</b>		213 ページ
China Post 初期化	N/A	213 ページ
China Post 読取り許可	無効	213 ページ
China Post 読取り文字数	最小文字数 = 4 最大文字数 = 80	213 ページ
<b>Korea Post</b>		214 ページ
Korea Post 初期化	N/A	214 ページ
Korea Post 読取り許可	無効	214 ページ
Korea Post 読取り文字数	最小文字数 = 4 最大文字数 = 48	214 ページ
Korea Post チェックデジット	送信しない	215 ページ
<b>郵便コード (2次元)</b>		216 ページ
Planet Code チェックデジット	送信しない	221 ページ
Postnet チェックデジット	送信しない	221 ページ
Australian Post 解釈	Bar Output	222 ページ
<b>バーコードオプション</b>		223 ページ
低品質な 1 次元バーコードの読取り	オフ	223 ページ
低品質な PDF コードの読取り	オフ	223 ページ
低解像度な PDF コードの読取り	オフ	224 ページ
低品質な Dot Code の読取り	オフ	224 ページ
デコードセキュリティ	セキュリティレベル 2	225 ページ
反転バーコードの読取	反転無効	226 ページ
読取り方向	正面 0°	227 ページ
<b>OCR プログラミング</b>		228 ページ
OCR 初期化	N/A	229 ページ
OCR 読取り許可	OCR 無効	229 ページ
OCR 読取り方向	正面	230 ページ
OCR 事前定義済みテンプレート	未定義	231 ページ
OCR カスタムテンプレート	未定義	236 ページ
OCR テンプレート 組み合わせ	未定義	246 ページ
<b>DigimarcR Barcode</b>		252 ページ
Digimarc Barcode 読取り許可	無効	253 ページ

## 22. EZConfig Scanning

### 22.1. はじめに

EZConfig Scanning は、PC に接続されたスキャナで実行できる幅広いプログラミング機能を提供します。EZConfig Scanning を使用すると、スキャナのパラメータを変更したり、パラメータ変更用のバーコードを作成および印刷したりすることができます。EZConfig Scanning を使用すると、スキャナの設定を保存したり読み込んだりすることもできます。保存されたパラメータ用のファイルは電子メールで送信できます。必要に応じて、カスタマイズされたすべてのパラメータを含む単一のバーコードを作成し、そのバーコードを任意の場所にメールまたは FAX で送信できます。他の場所のユーザーは、受信したバーコードをスキャンして、簡単にカスタマイズされたパラメータに設定することができます。

EZConfig Scanning は、次のブラウザをサポートしています：

Internet Explorer10 および 11、Chrome、Firefox 67.0.4 以前

#### 22.1.1. 機能

EZConfig Scanning は、以下の操作を行うことができます。

#### 22.1.2. Scan Data Window

Scan Data Window では、バーコードをスキャンしてウィンドウにバーコードデータを表示できます。Scan Data Window を使用すると、シリアルプログラミングコマンドをスキャナに送信し、スキャナからの応答を受信してウィンドウに表示できます。Scan Data Window に表示されるデータは、ファイルに保存したり、印刷したりすることができます。

#### 22.1.3. Configuration History

Configuration History には、スキャナのパラメータおよび構成データがカテゴリ別にグループ化されて表示されます。必要に応じてパラメータを設定または変更します。後で、変更した設定をスキャナに書き込むか、ファイルに保存することができます。

#### 22.1.4. Imaging

Imaging は、スキャナが実行できるすべての画像関連機能を提供します。現在の設定を使用して画像をキャプチャすると、画像が画像ウィンドウに表示されます。スキャナからキャプチャされた画像は、さまざまな画像形式のファイルに保存できます。MS852+ で、この機能を使用する場合は、事前に [23. USB 仮想 COM エミュレーション](#) (270 ページ) をセットアップしておく必要があります。

## 22.2. EZConfig のインストール

EZConfig Scanning を使用して、スキャナのパラメータを構成する場合は、以下の場所からセットアップファイルをダウンロードしてインストールします。

以下は最新版を Honeywell の公式サイトよりダウンロードする方法です。本書では、ダウンロードしやすいよう、弊社のストレージから直接ダウンロードするためのリンクが掲載されています。[26. 各種ドライバ、ソフトウェア](#) (301 ページ) をご覧ください。

1. [www.honeywellaidc.com](http://www.honeywellaidc.com) にアクセスします。
2. [製品] タブをクリックし、[ソフトウェア] → [デバイス管理] をクリックします。
3. [スキャン用 EZConfig クラウド] をクリックします。
4. ページを下へスクロールし、[無料登録でアクセスできます！] をクリックしてサインアップします。(無料のアカウント登録が必要です。)

## 22.3. EZConfig の実行

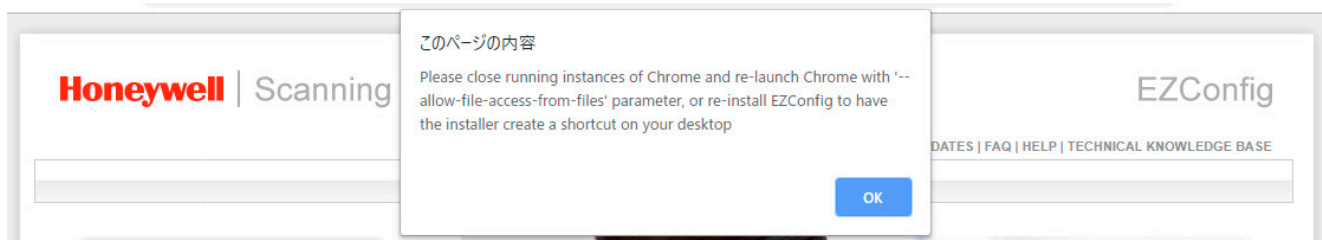
インストールフォルダまたはスタートメニューから「Honeywell > EZConfig-Scanning v4 <使用したいブラウザ名>」を実行します。

### 22.3.1. Firefox について：

Firefox 68 以降では EZConfig Scanning は使用できません。Firefox で EZConfig Scanning を使用することはお勧めできません。

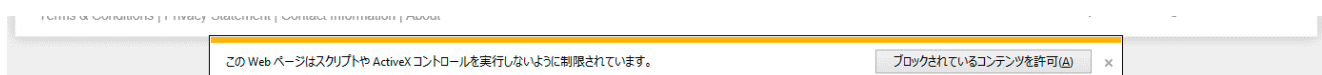
### 22.3.2. Chrome について：

次のようなメッセージが表示されて実行できない場合は、すべてのタブを閉じてから EZConfig Scanning を実行してください。



### 22.3.3. Internet Explorer について：

次のようなメッセージが表示された場合は ActiveX を許可してください。



## 22.4. EZConfig との接続

1. スキャナの USB ケーブルを PC の USB ポートに接続します。
2. 希望のブラウザ用の EZConfig Scanning を実行します。
3. **CONNECTED DEVICE** をクリックします。
4. 接続されているスキャナが認識されたら **CONFIGURE DEVICE** をクリックします。
5. スキャナの現在のパラメータを取り出され、各パラメータのプログラミング画面が表示されます。

The screenshot shows the Honeywell EZConfig web interface. At the top, it says "Honeywell | Scanning & Mobility" and "EZConfig". Below the header, there are navigation links: "GETTING STARTED | NEW FEATURES | CHECK FOR EZConfig UPDATES | FAQ | HELP | TECHNICAL KNOWLEDGE BASE". The main content area is titled "DISCONNECTED DEVICE". On the left, there is a box with the text "Would you like to configure :" and three buttons: "DISCONNECTED DEVICE", "CONNECTED DEVICE", and "SERIAL DATA WINDOW". On the right, there is a photograph of a woman smiling at a computer monitor displaying the EZConfig interface. Below the photo, there is a paragraph of text: "EZConfig-Scanning provides a wide range of programming functions that can be performed on a Honeywell scanning device connected to a computer. EZConfig-Scanning allows you to change programmed parameters, create and print programming bar codes and update device firmware." At the bottom, there are links for "Terms & Conditions | Privacy Statement | Contact Information | Feedback | About" and a version number: "Ver. 4.5.34 © 2019 Honeywell Inc. All rights reserved".

The screenshot shows the Honeywell EZConfig web interface with a "CONNECTED DEVICE" status. At the top, it says "Honeywell | Scanning & Mobility" and "EZConfig". Below the header, there are navigation links: "GETTING STARTED | NEW FEATURES | CHECK FOR EZConfig UPDATES | FAQ | HELP | TECHNICAL KNOWLEDGE BASE". The main content area is titled "CONNECTED DEVICE". Below the title, there is a breadcrumb: "Home > Connected Device" and a "Refresh" button. In the center, there is a large box containing an image of a scanner and the text: "Honeywell MiniDB with N6703SR Engine". Below this, there is a box with the following information: "Model: MiniDB", "Serial No: 18353B5524", "Firmware No: DC000087HAA", "Connection: USB SERIAL", and a link "Show License/Plug-in Info". Below this box, it says "Firmware is up to date". At the bottom, there is a note: "Note: Click on the device to connect / disconnect". Below the note, there are three buttons: "CONFIGURE DEVICE", "UPDATE FIRMWARE", and "SCAN DATA WINDOW". At the bottom, there are links for "Terms & Conditions | Privacy Statement | Contact Information | Feedback | About" and a version number: "Ver. 4.5.34 © 2019 Honeywell Inc. All rights reserved".

## 22.5. EZConfig で設定バーコードを作成する

1. いずれかのパラメータを変更します。
2. **GENERATE BAR CODE** をクリックします。複数のパラメータを一つにまとめたい場合は、**Bar Code Type** を **2D** へ変更してから、**GENERATE BAR CODE** をクリックします。

The screenshot shows the Honeywell EZConfig interface for a MiniDB scanner. The breadcrumb trail is: Home > Connected Device > 2.Symbologies > Postal. The 'Postal' symbology is selected in the top navigation bar. The configuration page includes the following settings:

- 2D Postal Symbologies:** 2D Postal Code (Japanese Post On), PosiCode Timeout (500)
- Planet Code:** Planet Code Check Digit Transmit (Off)
- Korea Post:** Korea Post Decoding (Off), Korea Post Check Digit Transmit (Off), Korea Post Minimum Length (4), Korea Post Maximum Length (48)

The left sidebar shows the 'Bar Code Generation' section with a 'GENERATE BAR CODE' button. The 'Bar Code Type' is currently set to '1D'.

The screenshot shows the Honeywell EZConfig interface for a MiniDB scanner. The breadcrumb trail is: Home > Connected Device > 5.Scan Data Window. The '5.SCAN DATA WINDOW' symbology is selected in the top navigation bar. The 'Command Center' section has a 'Create Programming Bar Code' button. The '1D Bar Code View Details' and '2D Bar Code View Details' sections are visible, with the 2D Bar Code View Details section showing 'Bar Code Size' set to 20% and 'Symbologies' set to 'Aztec Code'. The '1D Bar Code' and '2D Bar Code' tabs are visible, with the 1D Bar Code tab selected. The 'Title' and 'Comments' fields are empty, and the 'Print' button is visible. A barcode is displayed at the bottom of the page.

## 22.5.1. EZConfig でシリアルコマンドを送信する

1. **SCAN DATA WINDOW** タブをクリックし、**Command Center** タブをクリックします。
2. テキストボックスにシリアルプログラミングコマンドを入力し **Send Command** をクリックします。
3. 下部のウィンドウに送信結果とスキャナからの応答が表示されます。

The screenshot shows the Honeywell EZConfig interface for a MiniDB scanner. The left sidebar contains sections for 'Scanner Device' (MiniDB), 'Configuration History', and 'Bar Code Generation'. The main area is titled 'Honeywell MiniDB with N6703SR Engine' and has a navigation bar with tabs: 1.SETTINGS, 2.SYMBOLOGIES, 3.DATA FORMATTING, 4.IMAGING, 5.SCAN DATA WINDOW (selected), and 6.COMPARE. The 'Command Center' tab is active, showing a 'Command Type' dropdown menu set to 'Menu Command' and a text input field containing 'cbrena^'. A 'Send Command' button is located below the input field. The response area shows 'Request: cbrena^' and 'Response: CBRENA1[ACK]'.

## 23. USB 仮想 COM エミュレーション

### 23.1. はじめに

**USB 仮想 COM エミュレーション**とは、USB 接続を利用して COM 通信（シリアル通信）をエミュレートする接続方法です。USB 仮想 COM エミュレーションを使用するためには、①適切なドライバのインストール、②スキャナの設定変更、③適切なソフトウェアの使用が求められます。

**USB 仮想 COM エミュレーション**は、Windows のみを正式にサポートしています。その他の OS についてはドライバおよびソフトウェアの提供は行っておりません。あらかじめご了承ください。

### 23.2. セットアップ

ドライバのインストール前にスキャナを PC から取り外してください。

#### 23.2.1. ドライバのダウンロードとインストール

1. [26. 各種ドライバ、ソフトウェア](#) (301 ページ) より、[26.2. USB 仮想 COM ドライバ](#) (301 ページ) をダウンロードします。
2. ダウンロードした ZIP ファイルを任意のフォルダへ展開します。
3. Windows Vista 以降 : フォルダ内の **Setup** を **右クリック** > **管理者として実行**  
Windows XP : **ダブルクリック**して実行
4. 表示されるダイアログに沿ってインストールします。
5. インストール完了後、スキャナを PC に接続し、[8.1. USB デバイスタイプ](#) (38 ページ) を **USB CDC ホスト**へ変更します。

#### 23.2.2. ドライバのアンインストール

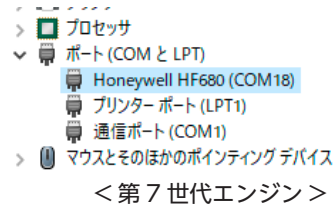
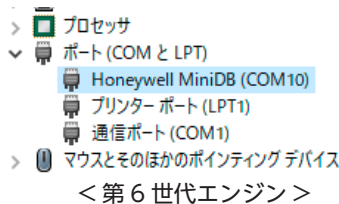
コントロールパネルのプログラムのアンインストールから、**Honeywell USB Serial Driver xxx** を選択しアンインストールしてください。

### 23.2.3. COM ポート番号の確認

Windows の **デバイスマネージャー** を使用して、スキャナが接続している COM ポートの番号を確認します。この COM ポート番号はスキャナからのデータを受信するときに必ず必要です。

【参考】 デバイス マネージャーを開く

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/4026149/windows-open-device-manager>



### 23.2.4. COM ポートからのデータを受信する

COM 通信（シリアル通信）をサポートしたソフトウェアを使用して、1つ前の手順で確認した COM 番号を指定して接続します。

または、弊社が提供している「**RSWedge Unitech 版**」をご利用いただき、1つ前の手順で確認した **COM 番号** を指定して接続してください。

## 23.3. RSWedge Unitech 版について

**RSWedge Unitech 版**（以降、RSWedge）は、指定した COM ポートからのデータを受信し、アクティブ（最前面）なソフトウェアに対してデータを再送信します。COM 通信に対応していないソフトウェアに対して日本語を含む QR コードを文字化けせずに再送信することも可能です。

RSWedge は、一般には公開されておらず、弊社のスキャナをご購入いただいたお客様が送付申請を行っていただくことで入手することができます。RSWedge の送付申請は、以下の申請フォームより行ってください。申請には、ご購入頂いた機器名称とシリアル番号が必要です。

RSWedge 送付依頼フォーム

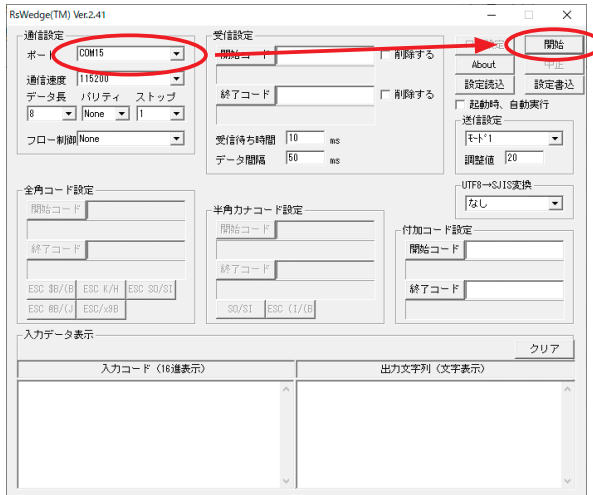
<http://www.unitech-japan.co.jp/rswedge.html>

申請後、当日～数日で RSWedge のインストールファイルが送付されます。お受け取り後、インストールを行ってください。

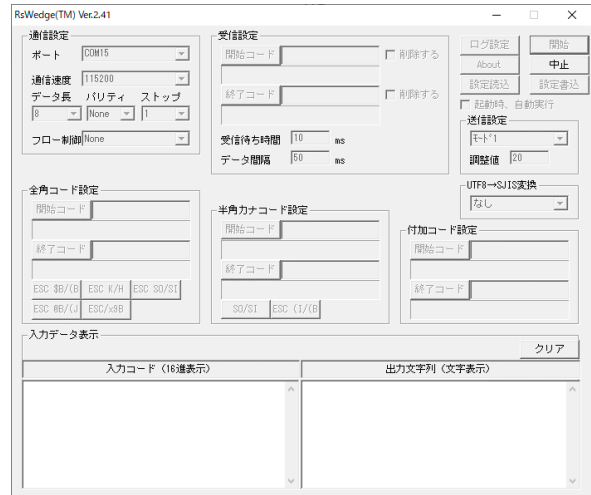
### 23.3.1. セットアップ例

以下は、データを受信して別のソフトウェアへ再送信するための簡単なセットアップ例です。その他のパラメータの説明などは、インストールしたフォルダに存在する「操作ガイド」をご覧ください。

RSWedge 実行後、通信設定のポートにデバイスマネージャーで確認した **COM ポート番号** を選択し、「開始」ボタンをクリックします。正常に COM ポートに接続できたら、「中止」ボタン以外はロックされます。



COM ポート接続前



COM ポート接続完了

### 23.3.2. データの受信確認

RSWedge の COM ポートへの接続が正常に完了したら、ターゲットのソフトウェアへデータを再送信する前に、RSWedge 上でデータが受信できているかどうかを確認することをお勧めいたします。RSWedge は、自身がアクティブ（最前面）の場合は、データの再送信を行わずに自身の**入力データ表示**に受信したデータを表示します。

正常に COM ポートからのデータが受信出来ている場合は、バーコードを読み取る度に**入力データ表示の入力コード（16進表示）**と**出力文字列（文字表示）**の両方にデータが出力されます。どちらか一方にしか表示されない場合は、スキャナが USB CDC ホストへ変更されていないか、正しい COM ポートに接続できていません。



### 23.3.3. 受信したデータが文字化けしている場合

読み取ったQRコードのエンコード方式と、RSWedgeのエンコード方式が異なっている場合、日本語部分が文字化けして出力されます。

その場合、「中止」ボタンをクリックしてCOMポートとの接続を切断し、UTF8 → SJIS変換オプションを逆の値にセットしてください。その後「開始」ボタンをクリックして再びCOMポートと接続します。UTF8 → SJIS変換オプションに正しい値がセットされていれば、文字化けせずに出力されます。



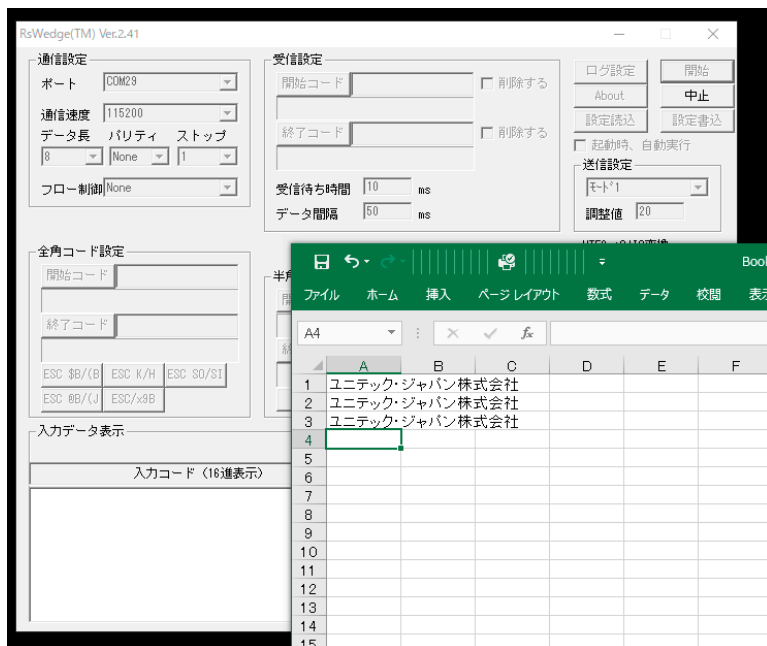
文字化けしている



文字化けしていない

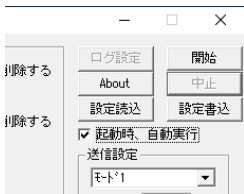
### 23.3.4. データを他のソフトウェアへ再送信させる

データを再送信させたいソフトウェアをアクティブ（最前面）にし文字を入力したい場所にカーソルを合わせます。希望のバーコードを読み取り、データが正しく表示されるか確認します。



### 23.3.5. 起動時、自動実行について

RSWedge のこのオプションがチェックされている場合、RSWedge の起動時に自動的に開始ボタンが押されて COM ポートへ接続し、RSWedge は最小化してタスクトレイへ格納されます。ただし、これは Windows の再起動時などに自動実行させるための設定ではありません。Windows の再起動時などに自動実行させたい場合は、このオプションにチェックを入れた RSWedge のショートカットを、Windows のスタートアップフォルダへコピーするなどしておく必要があります。



【参考】 Windows 10 の起動時に自動的に実行されるアプリを変更する

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/4026268/windows-10-change-startup-apps>

## 24. シリアルプログラミングコマンド

シリアルプログラミングコマンドはプログラミングバーコードとして使用することができます。シリアルコマンドとプログラミングバーコードのどちらもスキャナを設定します。各シリアルプログラミングコマンドの詳細と使用例はこのマニュアル内の各プログラミングバーコードを参照してください。

シリアルプログラミングコマンドを使用するには、スキャナは [23. USB 仮想 COM エミュレーション](#) (270 ページ) または RS232 ケーブルで適切に動作している必要があります。以下のコマンドは、PC の COM ポートを経由し、ターミナルエミュレーションソフトウェアを使用して送信することができます。

✍ ターミナルエミュレーションソフトウェア（シリアル通信プログラム）は、お客様ご自身でご準備いただくか、[22. EZConfig Scanning](#) (265 ページ) をご利用ください。弊社提供の RSWedge? Unitech 版はシリアルコマンドの送信に対応していないため、本機能を使用することはできません。

### 24.1. 本項目内の語句

以下の語句は、メニューと問合せコマンドの詳細です：

パラメータ	コマンドの一部として送信される実際の値。
[オプション]	任意コマンドの一部
{データ}	コマンドの選択肢
太字	メニュー名、メニューコマンド、ボタン、ダイアログボックス、画面に表示されるウィンドウ。

### 24.2. メニューコマンドの構文

メニューコマンドは以下の構文（スペースは見やすくするために使用されています）を持っています：

*プリフィックス タグ サブタグ {データ} [, サブタグ {データ}] [: タグ サブタグ {データ}] [...] 保存方法*

プリフィックス	3つのASCII文字で構成されます = <b>SYN M CR</b> (16進：0x16, 0x4d, 0x0d)
タグ	ターゲットのメニューコマンドグループである3文字のIDフィールド。シリアルコマンドの前から3文字です。例えばCode39のタグは <b>C39</b> です。
サブタグ	ターゲットのタググループのメニューコマンドである3文字のIDフィールド。タグの次から始まる3文字です。例えばCode39の読取り有効/無効は <b>ENA</b> です。
データ	タグおよびサブタグに対して設定する新しい値です。
保存	設定の保存方法を定める1文字のコマンドです。感嘆符(!)は、スキャナの揮発性メモリに設定を一時的に保存し、スキャナの電源が切れるまで設定を保持します。ピリオド(.)は、スキャナの不揮発性メモリに設定を保存し、恒久的に設定を保持します。

## 24.3. 問合せコマンド

いくつかの特別な文字はスキャナに設定を問い合わせるために使用されます。

- ^ 設定の初期値を問い合わせます。
- ? スキャナの現在の設定値を問い合わせます。
- \* 可能な範囲の設定値を問い合わせます。スキャナはダッシュ (—) を使用して連続した値の範囲を示します。パイプ (|) 区切りのアイテムは連続していない値のリストです。

### 24.3.1. タグフィールドでの使用法

タグフィールドの場所でこれらの問合せコマンドをタグの代わりに使用すると、保存フィールドで指定した保存テーブルで使用可能なすべてのコマンドに対して問合せを行います。この場合は、サブタグとデータフィールドを使用しないでください。スキャナによって無視されます。

### 24.3.2. サブタグフィールドでの使用法

サブタグフィールドの場所でこれらの問合せコマンドをサブタグの代わりに使用すると、タグフィールドに一致するサブセットのすべてのコマンドに対して問合せを行います。この場合、データフィールドは使用しないでください。スキャナによって無視されます。

### 24.3.3. データフィールドでの使用法

データフィールドの場所でこれらの問合せコマンドをデータの代わりに使用すると、タグとサブタグのフィールドに一致する特定のコマンドに対して問合せを行います。

### 24.3.4. 複数のコマンドを連結する

複数のコマンドは1つのプリフィックス / 保存シーケンス内で使用することができます。シーケンス内で各コマンドのタグ、サブタグ、データのフィールドだけを繰り返します。同じタグに追加コマンドを適用したい場合は、新しいコマンドシーケンスはカンマ (,) で区切り、追加コマンドのサブタグとデータのフィールドだけを使用します。もしも、追加のコマンドが異なるタグフィールドを必要とする場合は、コマンドシーケンスはセミコロン (;) によって直前のコマンドと区切られます。

### 24.3.5. スキャナからの応答

スキャナは3つのうちの1つでシリアルコマンドに応答します。応答するとき、スキャナはコマンドのそれぞれの句読点 (ピリオド、感嘆符、カンマ、セミコロン) の直前にステータスキャラクタを挿入したコマンドシーケンスをエコーバックします。

- ACK** 正常にコマンドが処理されたことを示します。
- ENQ** タグまたはサブタグコマンドが無効であることを示します。
- NAK** コマンドは正しいが、データフィールドの値がタグおよびサブタグの組み合わせで使用可能な範囲外であることを示します。たとえば、2文字しか許可されていないデータフィールドに100のような3文字の値を入力した場合などです。

### 24.3.6. コマンドの組み合わせ例

以下の例で、括弧 [ ] 付きの文字は画面に表示されない応答です。

例： Codabar の読取り有効 / 無効の設定可能範囲を問い合わせる。

入力： SYN M CR cbrena\*.

入力 (16 進)： 0x16, 0x4d, 0x0d, 0x63, 0x62, 0x72, 0x65, 0x6e, 0x61, 0x2a, 0x2e

応答： **CBRENA0-1[ACK]**

✍ この応答は Codabar の読取り有効 / 無効 (CBRENA) に 0 (無効) から 1 (有効) の範囲で設定が可能であることを示しています。

例： Codabar の読取り有効 / 無効の標準の設定値を問い合わせる。

入力： SYN M CR cbrena^.

入力 (16 進)： 0x16, 0x4d, 0x0d, 0x63, 0x62, 0x72, 0x65, 0x6e, 0x61, 0x5e, 0x2e

応答： **CBRENA1[ACK]**

✍ この応答は Codabar の読取り有効 / 無効 (CBRENA) の標準設定が 1 (有効) であることを示しています。

例： Codabar の読取り有効 / 無効の現在の設定値を問い合わせる。

入力： SYN M CR cbrena?.

入力 (16 進)： 0x16, 0x4d, 0x0d, 0x63, 0x62, 0x72, 0x65, 0x6e, 0x61, 0x3f, 0x2e

応答： **CBRENA1[ACK]**

✍ この応答は Codabar の読取り有効 / 無効 (CBRENA) のスキャナに保存されている現在の設定が 1 (有効) であることを示しています。

例： Codabar セクションのすべての設定を問い合わせる。

入力： SYN M CR cbr?.


入力 (16 進)： 0x16, 0x4d, 0x0d, 0x63, 0x62, 0x72, 0x3f, 0x2e

応答： **CBRDFT[ACK],  
ENA1[ACK],  
SSX0[ACK],  
CK20[ACK],  
CCT0[ACK],  
MIN4[ACK],  
MAX60[ACK]**

✍ この応答はスキャナに保存されている Codabar の各設定の値を示しています。


## 24.4. メニューコマンド

セクション	設定値	コマンド
システム設定		
カスタムデフォルト作成開始		MNUCDP
カスタムデフォルト保存		MNUCDS
カスタムデフォルト起動		DEFAULT
カスタムデフォルト削除		DEFOVR
デコーダバージョン表示		REV_DR
スキャンドライババージョン表示		REV_SD
ソフトウェアバージョン表示		REVINF
データ編集設定表示		DFMBK3?
テストメニュー	無効 **	TSTMNU0
	有効	TSTMNU1
USB インタフェース設定		
USB デバイスタイプ	USB IBM SurePos ハンドヘルドスキャナ	TERMID128
	USB IBM SurePos テーブルトップスキャナ	TERMID129
	USB HID キーボード (PC)	TERMID124
	USB HID キーボード (Mac)	TERMID125
	USB HID 日本語キーボード (PC)	TERMID134
	USB HID POS	TERMID131
	USB CDC ホスト **	TERMID130
CTS/RTS エミュレーション	有効	USBCTS1
	無効 **	USBCTS0
ACK/NAK モード	有効	USBACK1
	無効 **	USBACK0
キーボードレイアウト	アメリカ **	KBDCTY0
	アルバニア	KBDCTY35
	アゼルバイジャン (キリル文字)	KBDCTY81
	アゼルバイジャン (ラテン文字)	KBDCTY80
	ベラルーシ	KBDCTY82
	ベルギー	KBDCTY1
	ボスニア	KBDCTY33
	ブラジル	KBDCTY16
	ブラジル (US)	KBDCTY59
	ブルガリア (キリル文字)	KBDCTY52
	ブルガリア (ラテン文字)	KBDCTY53
	カナダ (フランス語 Legacy)	KBDCTY54
	カナダ (フランス語)	KBDCTY18
	カナダ (マルチリンガル標準)	KBDCTY55
	クロアチア	KBDCTY32
	チェコ	KBDCTY15
	チェコ (プログラマ)	KBDCTY40
	チェコ (QWERTY 配列)	KBDCTY39
	チェコ (QWERTZ 配列)	KBDCTY38
	デンマーク	KBDCTY8
	オランダ	KBDCTY11
エストニア	KBDCTY41	
フェロー語	KBDCTY83	
フィンランド	KBDCTY2	

 \*\* は各パラメータの標準設定値です。

## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション	設定値	コマンド
	フランス	KBDCTY3
	ゲール語	KBDCTY84
	ドイツ	KBDCTY4
	ギリシャ	KBDCTY17
	ギリシャ (220 ラテン)	KBDCTY64
	ギリシャ (220)	KBDCTY61
	ギリシャ (319 ラテン)	KBDCTY65
	ギリシャ (319)	KBDCTY62
	ギリシャ (ラテン)	KBDCTY63
	ギリシャ (US)	KBDCTY66
	ギリシャ (Polytonic)	KBDCTY60
	ヘブライ語	KBDCTY12
	ハンガリー (101 キーボード)	KBDCTY50
	ハンガリー	KBDCTY19
	アイスランド	KBDCTY75
	アイルランド	KBDCTY73
	イタリア (142)	KBDCTY56
	イタリア	KBDCTY5
	日本	KBDCTY28
	カザフスタン	KBDCTY78
	カザフスタン (キリル文字)	KBDCTY79
	ラテンアメリカ	KBDCTY14
	ラトビア	KBDCTY42
	ラトビア (QWERTY 配列)	KBDCTY43
	リトアニア	KBDCTY44
	リトアニア (IBM)	KBDCTY45
	マケドニア	KBDCTY34
	マルタ	KBDCTY74
	モンゴル (キリル文字)	KBDCTY86
	ノルウェー	KBDCTY9
	ポーランド	KBDCTY20
	ポーランド (214)	KBDCTY57
	ポーランド (プログラマ)	KBDCTY58
	ポルトガル	KBDCTY13
	ルーマニア	KBDCTY25
	ロシア	KBDCTY26
	ロシア (US)	KBDCTY67
	ロシア (タイプライター)	KBDCTY68
	SCS	KBDCTY21
	セルビア (キリル文字)	KBDCTY37
	セルビア (ラテン文字)	KBDCTY36
	スロバキア	KBDCTY22
	スロバキア (QWERTY 配列)	KBDCTY49
	スロバキア (QWERTZ 配列)	KBDCTY48
	スロベニア	KBDCTY31
	スペイン	KBDCTY10

 \*\* は各パラメータの標準設定値です。


## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション	設定値	コマンド
	スペイン (バリエーション)	KBDCTY51
	スウェーデン	KBDCTY23
	スイス (フランス語)	KBDCTY29
	スイス (ドイツ語)	KBDCTY6
	タタール語	KBDCTY85
	トルコ語 F	KBDCTY27
	トルコ語 Q	KBDCTY24
	ウクライナ	KBDCTY76
	イギリス	KBDCTY7
	アメリカ (Dvorak 配列)	KBDCTY87
	アメリカ (左きき用 Dvorak 配列)	KBDCTY88
	アメリカ (右きき用 Dvorak 配列)	KBDCTY89
	アメリカ (インターナショナル配列)	KBDCTY30
	ウズベキスタン (キリル文字)	KBDCTY77
	キーボードスタイル	標準 **
Caps Lock		KBDSTY1
Shift Lock		KBDSTY2
自動 Caps Lock		KBDSTY6
Num Lock を介した自動 Caps Lock		KBDSTY7
外部キーボードエミュレート		KBDSTY5
大文字・小文字変換	変換しない **	KBDCNV0
	すべて大文字に変換する	KBDCNV1
	すべて小文字に変換する	KBDCNV2
制御文字出力	無効 **	KBDNPE0
	有効	KBDNPE1
キーボード出力の変更	Control + ASCII モード無効 **	KBDCAS0
	DOS モードの Control + ASCII モード有効	KBDCAS1
	Windows モードの Control + ASCII モード有効	KBDCAS2
	Windows モードのプリフィックス/サフィックス無効	KBDCAS3
ターボモード	ターボモード無効 **	KBDTMD0
	ターボモード有効	KBDTMD1
テンキーモード	テンキーモード無効 **	KBDNPS0
	テンキーモード有効	KBDNPS1
自動直接接続モード	自動直接接続モード無効 **	KBDADC0
	自動直接接続モード有効	KBDADC1
HEX 変換出力	HEX 変換出力無効 **	KBDHEX0
	HEX 変換出力有効	KBDHEX1
RS232 インタフェース設定		
RS232 シリアルポート		PAP232
RS232 初期化		232DFT
RS232 ボーレート	300	232BAD0
	600	232BAD1
	1200	232BAD2
	2400	232BAD3
	4800	232BAD4

✎ \*\* は各パラメータの標準設定値です。


## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション	設定値	コマンド
	9600	232BAD5
	19200	232BAD6
	38400	232BAD7
	57600	232BAD8
	115200 **	232BAD9
RS232 データビット、ストップビット、パリティ	データ7、ストップ1、偶数パリティ	232WRD3
	データ7、ストップ1、パリティなし	232WRD0
	データ7、ストップ1、奇数パリティ	232WRD6
	データ7、ストップ2、偶数パリティ	232WRD4
	データ7、ストップ2、パリティなし	232WRD1
	データ7、ストップ2、奇数パリティ	232WRD7
	データ8、ストップ1、偶数パリティ	232WRD5
	データ8、ストップ1、パリティなし **	232WRD2
	データ8、ストップ1、奇数パリティ	232WRD8
	データ8、ストップ1、マークパリティ	232WRD14
RS232 レシーバertimeアウト	0 秒 **	232LPT0
	範囲 0-300	232LPT###
RS232 ハンドシェイク	フロー制御、タイムアウトなし	232CTS1
	双方向フロー制御	232CTS2
	フロー制御、タイムアウトあり	232CTS3
	RTS/CTS オフ **	232CTS0
RS232 タイムアウト	3,100 ミリ秒 **	232DEL3100
	範囲 1-5,100	232DEL####
RS232 XON/XOFF	XON/XOFF オフ **	232XON0
	XON/XOFF オン	232XON1
RS232 ACK/NAK	ACK/NAK オフ **	232ACK0
	ACK/NAK オン	232ACK1
入出力設定		
電源投入時のビープ音	無効	BEPPWR0
	有効 **	BEPPWR1
[BEL] 文字とビープ音	[BEL] 文字を使用しない **	BELBEP0
	[BEL] 文字を使用する	BELBEL1
トリガークリック音	無効 **	BEPTRG0
	有効	BEPTRG1
ビープ音の鳴動 (読取り成功)	無効	BEPBEP0
	有効 **	BEPBEP1
ビープ音の音量 (読取り成功)	小	BEPLVL1
	中	BEPLVL2
	大 **	BEPLVL3
	なし	BEPLVL0
ビープ音の音程 (読取り成功)	低 (1600 Hz)	BEPFQ11600
	中 (2700 Hz) **	BEPFQ12700
	高 (4200 Hz)	BEPFQ14200
ビープ音の音程 (エラー)	低 (250Hz) **	BEPFQ2250
	中 (3250 Hz)	BEPFQ23250
	高 (4200 Hz)	BEPFQ4200

 \*\* は各パラメータの標準設定値です。

## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション	設定値	コマンド
ビーブ音の鳴動時間 (読取り成功)	標準 **	BEPBIP0
	短い	BEPBIP1
LED の明滅 (読取り成功)	有効 **	BEPLED1
	無効	BEPLED0
ビーブ音の鳴動回数 (読取り成功)	1 回 **	BEPRPT1
	範囲 1-9	BEPRPT#
ビーブ音の鳴動回数 (エラー)	1 回 **	BEPERR1
	範囲 1-9	BEPERR#
読取り遅延	遅延無し **	DLYGRD0
	500 ミリ秒	DLYGRD500
	1,000 ミリ秒	DLYGRD1000
	1,500 ミリ秒	DLYGRD1500
ユーザー定義の読取り遅延	範囲 0-30,000	DLYGRD#####
マニュアルトリガーモード	マニュアルトリガーモード (標準) **	PAPHHF
	マニュアルトリガーモード (拡張)	PAPHHS
カスタムセンタリング	有効	DECWIN1
	無効 **	DECWIN0
センタリングウィンドウ 上	40% **	DECTOP40
	範囲 0-100	DECTOP###
センタリングウィンドウ 下	60% **	DECBOT60
	範囲 0-100	DECBOT###
センタリングウィンドウ 左	40% **	DECLFT40
	範囲 0-100	DECLFT###
センタリングウィンドウ 右	60% **	DECRGT60
	範囲 0-100	DECRGT###
プレゼンテーションモード		PAPTPR
読取り成功後のプレゼンテーション LED 動作	LED オフ **	TRGPCK0
	LED オン	TRGPCK1
プレゼンテーション感度	1 **	TRGPMS1
	範囲 0-20	TRGPMS##
プレゼンテーションセンタリング	有効	PDCWIN1
	無効 **	PDCWIN0
センタリングウィンドウ 上	40% **	PDCTOP40
	範囲 0-100	PDCTOP###
センタリングウィンドウ 下	60% **	PDCBOT60
	範囲 0-100	PDCBOT###
センタリングウィンドウ 左	40% **	PDCLFT40
	範囲 0-100	PDCLFT###
センタリングウィンドウ 右	60% **	PDCRGT60
	範囲 0-100	PDCRGT###
ストリーミングプレゼンテーションモード	ストリーミングプレゼンテーションモード (標準)	PAPSPN
	ストリーミングプレゼンテーションモード (拡張)	PAPSPE
文字によるトリガーの有効化	無効 **	HSTCEN0
	有効	HSTCEN1
文字によるトリガーの無効化	無効 **	HSTDEN0
	有効	HSTDEN1

 \*\* は各パラメータの標準設定値です。

## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション	設定値	コマンド
有効化文字	DC2 **	HSTACH12
	範囲 00-FF	HSTACH##
無効化文字	DC4 **	HSTDCH14
	範囲 00-FF	HSTDCH##
ホストトリガータイムアウト	30,000 ミリ秒 **	HSTCDT30000
	範囲 0-300,000	HSTCDT#####
読取り成功後のトリガー状態	無効化しない **	HSTCGD0
	無効化する	HSTCGD1
複数シンボル読み込み	無効 **	SHOTGN0
	有効	SHOTGN1
LED 照明	オフ	SCNLED0
	オン **	SCNLED1
照準モード	オフ	SCNAIM0
	インターレース **	SCNAIM2
照準遅延時間	* 遅延無し	SCNDLY0
	1 ミリ秒	SCNDLY1
	250 ミリ秒	SCNDLY250
	500 ミリ秒	SCNDLY500
ユーザー定義の照準遅延時間	範囲 0-4,000	SCNDLY####
照準照射時間	オフ **	SCNAIT0
	10 秒間	SCNAIT10000
ユーザー定義の照準照射時間	範囲 0-240,000	SCNAIT#####
スマートフォン画面読取りモード	マニュアルトリガー	PAPHHC
	プレゼンテーション	PAPPSC
ハンドフリータイムアウト	5,000 ミリ秒 **	TRGPTO5000
	範囲 0-300,000	TRGPTO#####
CodeGate	CodeGate オフ **	AOSCGD0
	CodeGate オン	AOSCGD1
二重読取り防止遅延時間	500 ミリ秒	DLYRRD500
	750 ミリ秒 **	DLYRRD750
	1,000 ミリ秒	DLYRRD1000
	2,000 ミリ秒	DLYRRD2000
ユーザー定義の二重読取り防止遅延時間	範囲 0-30,000	DLYRRD#####
2次元バーコードの二重読取り防止遅延時間	オフ **	DLY2RR0
	1,000 ミリ秒	DLY2RR1000
	2,000 ミリ秒	DLY2RR2000
	3,000 ミリ秒	DLY2RR3000
	4,000 ミリ秒	DLY2RR4000
「読取なし」メッセージ	有効	SHWNRD1
	無効 **	SHWNRD0
優先シンボル		
優先シンボルの使用	使用しない **	PRFENA0
	使用する	PRFENA1
高優先度のシンボル	未定義	PRFCOD##
低優先度のシンボル	未定義	PRFBLK##

✂ \*\* は各パラメータの標準設定値です。

## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション	設定値	コマンド
優先シンボルタイムアウト	500 ミリ秒 **	PRFPTO500
	範囲 100-3,000	PRFPTO####
優先シンボルの初期化		PRFDFT
データ出力順序		
データ出力順序の使用	使用しない **	SEQ_EN0
	使用する / 必須ではない	SEQ_EN1
	使用する / 必須	SEQ_EN2
データ出力順序初期化		SEQDFT
データ出力順序編集開始		SEQBLK
プリフィックス / サフィックス		
プリフィックスの送信	送信しない	PRE_EN0
	送信する **	PRE_EN1
サフィックスの送信	送信しない	SUF_EN0
	送信する **	SUF_EN1
プリフィックス	プリフィックス追加	PREBK2##
	1つのプリフィックスを消去	PRECL2
	全てのプリフィックスを消去	PRECA2
サフィックス	サフィックス追加	SUFBK2##
	1つのサフィックスを消去	SUFCL2
	全てのサフィックスを消去	SUFCA2
機能コード送信	有効 **	RMVFNC0
	無効	RMVFNC1
文字間、機能間、データ間遅延		
文字間遅延	0 ミリ秒 **	DLYCHR0
	範囲 0-1000	DLYCHR####
ユーザー定義の文字間遅延	0 ミリ秒 **	DLYCRX0
	範囲 0-1000	DLYCRX####
	0 **	DLY_XX0
	範囲 0-255	DLY_XX###
機能間遅延	0 ミリ秒 **	DLYFNC0
	範囲 0-1000	DLYFNC####
データ間遅延	0 ミリ秒 **	DLYMSG0
	範囲 0-1000	DLYMSG####
データ編集		
データ編集初期化		DFMDF3
データ編集設定表示		DFMBK3?
データ編集開始		DFMBK3##
保存		MNUSAV
消去		MNUABT
編集フォーマットを選択して削除		DFMCL3
編集フォーマットをすべて削除		DFMCA3
データフォーマッター	データフォーマッター無効	DFM_EN0
	データフォーマッター有効 / 必須ではない / プリフィックスとサフィックスを送信する **	DFM_EN1
	データフォーマッター有効 / 必須 / プリフィックスとサフィックスを送信する	DFM_EN2

✎ \*\* は各パラメータの標準設定値です。


## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション		設定値	コマンド
		データフォーマッター有効 / 必須ではない / プリフィックスとサフィックスを送信しない	DFM_EN3
		データフォーマッター有効 / 必須 / プリフィックスとサフィックスを送信しない	DFM_EN4
不一致時エラービープ		不一致エラービープ有効 **	DFMDECO
		不一致エラービープ無効	DFMDEC1
編集フォーマット		編集フォーマット 0	ALTFNM0
		編集フォーマット 1	ALTFNM1
		編集フォーマット 2	ALTFNM2
		編集フォーマット 3	ALTFNM3
クイック編集フォーマット		クイック編集フォーマット 0	VSAF_0
		クイック編集フォーマット 1	VSAF_1
		クイック編集フォーマット 2	VSAF_2
		クイック編集フォーマット 3	VSAF_3
バーコード読取り設定			
		全シンボル無効	ALLENAO
		NW-7 初期化	CBRDFT
NW-7 読取り許可		有効 **	CBRENA1
		無効	CBRENA0
NW-7 スタート・ストップキャラクタ		送信する	CBRSSX1
		送信しない **	CBRSSX0
NW-7 チェックデジット		検査しない **	CBRCK20
		検査するが送信しない	CBRCK21
		検査し送信する	CBRCK22
NW-7 シンボル連結		有効	CBRCCT1
		無効 **	CBRCCT0
		必須	CBRCCT2
NW-7 連結タイムアウト		800 **	DLYCCT800
		範囲 0-4000	DLYCCT####
NW-7 検査回数		0 **	CBRVOT0
		範囲 0-10	CBRVOT##
NW-7 読取り文字数	最小	4 **	CBRMIN4
		範囲 2-60	CBRMIN##
	最大	60 **	CBRMAX60
		範囲 2-60	CBRMAX##
		Code 39 初期化	C39DFT
Code 39 読取り許可		有効 **	C39ENA1
		無効	C39ENA0
Code 39 スタート・ストップキャラクタ		送信する	C39SSX1
		送信しない **	C39SSX0
Code 39 チェックデジット		検査しない **	C39CK20
		検査するが送信しない	C39CK21
		検査し送信する	C39CK22
Code 39 検査回数		0 **	C39VOT0
		範囲 0-10	C39VOT##
Code 39 読取り文字数	最小	0 **	C39MIN0

✍ \*\* は各パラメータの標準設定値です。


## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション		設定値	コマンド
	最大	範囲 0-48	C39MIN##
		48 **	C39MAX48
		範囲 0-48	C39MAX##
Code 39 シンボル連結		有効	C39APP1
		無効 **	C39APP0
Code 32 読取り許可		有効	C39B321
		無効 **	C39B320
Code 39 フル ASCII		有効	C39ASC1
		無効 **	C39ASC0
Code 39 ギャップサイズ		標準の文字間ギャップ **	C39UIC0
		大きい文字間ギャップ	C39UIC1
Code 39 コードページ		2 **	C39DCP2
		1 2 3 5 6 7 10 11 12 13 14 15 16 17 18 22 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 63 64 65 66 70 71 75 76 77 78 79 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94	C39DCP##
ITF 初期化			I25DFT
ITF 読取り許可		有効 **	I25ENA1
		無効	I25ENA0
ITF チェックデジット		検査しない **	I25CK20
		検査するが送信しない	I25CK21
		検査し送信する	I25CK22
ITF 検査回数		0 **	I25VOT0
		範囲 0-10	I25VOT##
ITF 読取り文字数	最小	4 **	I25MIN4
		範囲 2-80	I25MIN##
	最大	80 **	I25MAX80
		範囲 2-80	I25MAX##
NEC 2 of 5 初期化			N25DFT
NEC 2 of 5 読取り許可		有効 **	N25ENA1
		無効	N25ENA0
NEC 2 of 5 チェックデジット		検査しない **	N25CK20
		検査するが送信しない	N25CK21
		検査し送信する	N25CK22
NEC 2 of 5 検査回数		0 **	N25VOT0
		範囲 0-10	N25VOT##
NEC 2 of 5 読取り文字数	最小	4 **	N25MIN4
		範囲 2-80	N25MIN##
	最大	80 **	N25MAX80
		範囲 2-80	N25MAX##
Code 93 初期化			C93DFT
Code 93 読取り許可		有効 **	C93ENA1
		無効	C93ENA0
Code 93 検査回数		0 **	C93VOT0
		範囲 0-10	C93VOT##

 \*\* は各パラメータの標準設定値です。

## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション		設定値	コマンド
Code 93 読取り文字数	最小	0 **	C93MIN0
		範囲 0-80	C93MIN##
	最大	80 **	C93MAX80
		範囲 0-80	C93MAX##
Code 93 シンボル連結		有効	C93APP1
		無効 **	C93APP0
Industrial 2 of 5 初期化			R25DFT
Industrial 2 of 5 読取り許可		有効	R25ENA1
		無効 **	R25ENA0
Industrial 2 of 5 検査回数		0 **	R25VOT0
		範囲 0-10	R25VOT##
Industrial 2 of 5 読取り文字数	最小	4 **	R25MIN4
		範囲 1-48	R25MIN##
	最大	48 **	R25MAX48
		範囲 1-48	R25MAX##
IATA 2 of 5 初期化			A25DFT
IATA 2 of 5 読取り許可		有効	A25ENA1
		無効 **	A25ENA0
IATA 2 of 5 検査回数		0 **	A25VOT0
		範囲 0-10	A25VOT##
IATA 2 of 5 読取り文字数	最小	4 **	A25MIN4
		範囲 1-48	A25MIN##
	最大	48 **	A25MAX48
		範囲 1-48	A25MAX##
Matrix 2 of 5 初期化			X25DFT
Matrix 2 of 5 読取り許可		有効	X25ENA1
		無効 **	X25ENA0
Matrix 2 of 5 検査回数		0 **	X25VOT0
		範囲 0-10	X25VOT##
Matrix 2 of 5 読取り文字数	最小	4 **	X25MIN4
		範囲 1-80	X25MIN##
	最大	80 **	X25MAX
		範囲 1-80	X25MAX
Code 11 初期化			C11DFT
Code 11 読取り許可		有効	C11ENA1
		無効 **	C11ENA0
Code 11 チェックデジット		1桁チェックデジット	C11CK20
		2桁チェックデジット **	C11CK21
Code 11 検査回数		0 **	C11VOT0
		範囲 0-10	C11VOR##
Code 11 読取り文字数	最小	4 **	C11MIN4
		範囲 1-80	C11MIN##
	最大	80 **	C11MAX80
		範囲 1-80	C11MAX##
Code 128 初期化			128DFT
Code 128 読取り許可		有効 **	128ENA1

 \*\* は各パラメータの標準設定値です。


## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション		設定値	コマンド
		無効	128ENAO
Code 128 検査回数		0 **	128VOT0
		範囲 0-10	128VOT##
Code 128 FNC コード		無効 **	128FNX0
		有効	128FNX1
Code 128 読取り文字数	最小	0 **	128MIN0
		範囲 0-80	128MIN##
	最大	80 **	128MAX80
		範囲 0-80	128MAX##
Code 128 シンボル連結		有効 **	128APP1
		無効	128APP0
ISBT 128 シンボル連結		有効	ISBENA1
		無効 **	ISBENA0
Code 128 コードページ		2 **	128DCP2
		1 2 3 5 6 7 10 11 12 13 14 15 16 17 18 22 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 63 64 65 66 70 71 75 76 77 78 79 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94	128DCP##
GS1-128 初期化			GS1DFT
GS1-128 読取り許可		有効 **	GS1ENA1
		無効	GS1ENAO
GS1-128 検査回数		0 **	GS1VOT0
		範囲 0-10	GS1VOT##
GS1-128 読取り文字数	最小	0 **	GS1MIN0
		範囲 0-80	GS1MIN##
	最大	80 **	GS1MAX80
		範囲 0-80	GS1MAX##
Telepen 初期化			TELDFT
Telepen 読取り許可		有効	TELENA1
		無効 **	TELENA0
Telepen フォーマット		AIM Telepen **	TELOLD0
		オリジナル Telepen	TELOLD1
Telepen 検査回数		0 **	TELVOT0
		範囲 0-10	TELVOT##
Telepen 読取り文字数	最小	1 **	TELMIN1
		範囲 1-60	TELMIN##
	最大	60 **	TELMAX60
		範囲 1-60	TELMAX##
UPC-A 初期化			UPADFT
UPC-A 読取り許可		有効 **	UPAENA1
		無効	UPAENA0
UPC-A チェックデジット		送信する **	UPACKX1
		送信しない	UPACKX0
UPC-A ナンバーシステム		送信する **	UPANSX1
		送信しない	UPANSX0

✎ \*\* は各パラメータの標準設定値です。


## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション	設定値	コマンド
UPC-A アドオンコード	2桁アドオン有効	UPAAD21
	2桁アドオン無効 **	UPAAD20
	5桁アドオン有効	UPAAD51
	5桁アドオン無効 **	UPAAD50
UPC-A アドオンコードの要求	要求する	UPAARQ1
	要求しない **	UPAARQ0
UPC-A アドオンコードタイムアウト	120 **	DLYADD120
	範囲 0-500	DLYADD###
UPC-A アドオンコードセパレータ	有効 **	UPAADS1
	無効	UPAADS0
UPC-A 検査回数	0 **	UPAVOT0
	範囲 0-10	UPAVOT##
拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13	無効 **	CPNENA0
	連結許可	CPNENA1
	連結必須	CPNENA2
拡張クーポンコード タイムアウト	120 **	DLYADD120
	範囲 0-500	DLYADD###
GS1 DataBar クーポン	GS1 出力無効 **	CPNGS10
	GS1 出力有効	CPNGS11
UPC-E 初期化		UPEDFT
UPC-E0 読取り許可	有効 **	UPEEN01
	無効	UPEEN00
UPC-E0 拡張	拡張する	UPEEXP1
	拡張しない **	UPEEXP0
UPC-E0 チェックデジット	送信する **	UPECKX1
	送信しない	UPECKX0
UPC-E0 ナンバーシステム	送信する **	UPENSX1
	送信しない	UPENSX0
UPC-E0 アドオンコード	2桁アドオン有効	UPEAD21
	2桁アドオン無効 **	UPEAD20
	5桁アドオン有効	UPEAD51
	5桁アドオン無効 **	UPEAD50
UPC-E0 アドオンコードの要求	要求する	UPEARQ1
	要求しない **	UPEARQ0
UPC-E0 アドオンコードタイムアウト	120 **	DLYADD120
	範囲 0-500	DLYADD###
UPC-E0 アドオンコードセパレータ	有効 **	UPEADS1
	無効	UPEADS0
UPC-E1 読取り許可	有効	UPEEN11
	無効 **	UPEEN10
UPC-E 検査回数	0 **	UPEVOT0
	範囲 0-10	UPEVOT##
JAN-13 初期化		E13DFT
JAN-13 読取り許可	有効 **	E13ENA1
	無効	E13ENA0
ゼロ先頭の JAN コード	変換しない **	UPAENA1

 \*\* は各パラメータの標準設定値です。


## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション	設定値	コマンド
	変換する	UPAENA0
JAN-13 チェックデジット	送信する **	E13CKX1
	送信しない	E13CKX0
JAN-13 アドオンコード	2桁アドオン有効	E13AD21
	2桁アドオン無効 **	E13AD20
	5桁アドオン有効	E13AD51
	5桁アドオン無効 **	E13AD50
JAN-13 アドオンコードの要求	要求する	E13ARQ1
	要求しない **	E13ARQ0
JAN-13 アドオンコードタイムアウト	120 **	DLYADD120
	範囲 0-500	DLYADD###
JAN-13 アドオンコードセパレータ	有効 **	E13ADS1
	無効	E13ADS0
ISBN 変換	有効	E13ISB1
	無効 **	E13ISB0
JAN-13 検査回数	0 **	E13VOT0
	範囲 0-10	E13VOT##
JAN-8 初期化		EA8DFT
JAN-8 読取り許可	有効 **	EA8ENA1
	無効	EA8ENA0
JAN-8 チェックデジット	送信する **	EA8CKX1
	送信しない	EA8CKX0
JAN-8 アドオンコード	2桁アドオン有効	EA8AD21
	2桁アドオン無効 **	EA8AD20
	5桁アドオン有効	EA8AD51
	5桁アドオン無効 **	EA8AD50
JAN-8 アドオンコードの要求	要求する	EA8ARQ1
	要求しない **	EA8ARQ0
JAN-8 アドオンコードタイムアウト	120 **	DLYADD120
	範囲 0-500	DLYADD###
JAN-8 アドオンコードセパレータ	有効 **	EA8ADS1
	無効	EA8ADS0
JAN-8 検査回数	0 **	EA8VOT0
	範囲 0-10	EA8VOT##
MSI 初期化		MSIDFT
MSI 読取り許可	有効	MSIENA1
	無効 **	MSIENA0
MSI チェックデジット	MOD10 検査し信しない **	MSICK0
	MOD10 検査し送信する	MSICK1
	MOD10/10 検査し送信しない	MSICK2
	MOD10/10 検査し送信する	MSICK3
	MOD10/11 検査し送信しない	MSICK4
	MOD10/11 検査し送信する	MSICK5
	検査しない	MSICK6
MSI 検査回数	0 **	MSIVOT0
	範囲 0-10	MSIVOT##

 \*\* は各パラメータの標準設定値です。


## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション		設定値	コマンド
MSI 読取り文字数	最小	4 **	MSIMIN4
		範囲 4-48	MSIMIN##
	最大	48 **	MSIMAX48
		範囲 4-48	MSIMAX##
GS1 DataBar Omnidirectional 初期化			RSSDFT
GS1 DataBar Omnidirectional 読取り許可		有効 **	RSEENA1
		無効	RSEENA0
GS1 DataBar Omnidirectional 検査回数		0 **	RSSVOT0
		範囲 0-10	RSSVOT##
GS1 DataBar Limited 初期化			RSLDFT
GS1 DataBar Limited 読取り許可		有効 **	RSEENA1
		無効	RSEENA0
GS1 DataBar Limited 検査回数		0 **	RSLVOT0
		範囲 0-10	RSLVOT##
GS1 DataBar Expanded 初期化			RSEDFT
GS1 DataBar Expanded 読取り許可		有効 **	RSEENA1
		無効	RSEENA0
GS1 DataBar Expanded 検査回数		0 **	RSEVOT0
		範囲 0-10	RSEVOT##
GS1 DataBar Expanded 読取り文字数	最小	4 **	RSEMIN4
		範囲 4-74	RSEMIN##
	最大	74 **	RSEMAX74
		範囲 4-74	RSEMAX##
Trioptic コード 読取り許可		有効	TRIENA1
		無効 **	TRIENA0
Trioptic コード 検査回数		0 **	TRIVOT0
		範囲 0-10	TRIVOT##
Codablock A 初期化			CBADFT
Codablock A 読取り許可		有効	CBAENA1
		無効 **	CBAENA0
Codablock A 読取り文字数	最小	1 **	CBAMIN1
		範囲 1-600	CBAMIN###
	最大	600 **	CBAMAX600
		範囲 1-600	CBAMAX###
Codablock F 初期化			CBFDFT
Codablock F 読取り許可		有効	CBFENA1
		無効 **	CBFENA0
Codablock F 読取り文字数	最小	1 **	CBFMIN1
		範囲 1-2048	CBFMIN####
	最大	2048 **	CBFMAX2048
		範囲 1-2048	CBFMAX####
Label Code 読取り許可		有効	LBLENA1
		無効 **	LBLENA0
PDF417 初期化			PDFDFT
PDF417 読取り許可		有効 **	PDFENA1
		無効	PDFENA0

 \*\* は各パラメータの標準設定値です。


## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション		設定値	コマンド
PDF417 読取り文字数	最小	1 **	PDFMIN1
		範囲 1-2750	PDFMIN####
	最大	2750 **	PDFMAX2750
		範囲 1-2750	PDFMAX####
マクロ PDF417 読取り許可		有効 **	PDFMAC1
		無効	PDFMAC0
MicroPDF417 初期化			MPDDFT
MicroPDF417 読取り許可		有効	MPDENA1
		無効 **	MPDENA0
MicroPDF417 読取り文字数	最小	1 **	MPDMIN1
		範囲 1-366	MPDMIN###
	最大	366 **	MPDMAX366
		範囲 1-366	MPDMAX###
GS1 合成シンボル 初期化			COMDFT
GS1 合成シンボル 読取り許可		有効	COMENA1
		無効 **	COMENA0
GS1 合成シンボル UPC/EAN バージョン		有効	COMUPC1
		無効 **	COMUPC0
GS1 合成シンボル 読取り文字数	最小	1 **	COMMIN1
		範囲 1-2435	COMMIN####
	最大	2435 **	COMMAX2435
		範囲 1-2435	COMMAX####
GS1 エミュレーション		GS1-128 エミュレーション	EANEMU1
		GS1 DataBar エミュレーション	EANEMU2
		GS1 コード拡張無効	EANEMU3
		JAN-8 を JAN-13 に変換	EANEMU4
		GS1 エミュレーション無効 **	EANEMU0
TLC 39 読取り許可		有効	T39ENA1
		無効 **	T39ENA0
QR コード 初期化			QRCDFT
QR コード 読取り許可		有効 **	QRCENA1
		無効	QRCENA0
QR コード 読取り文字数	最小	1 **	QRCCMIN1
		範囲 1-7089	QRCCMIN####
	最大	7089 **	QRCCMAX7089
		範囲 1-7089	QRCCMAX####
QR コード シンボル連結		有効 **	QRCCAPP1
		無効	QRCCAPP0
QR コード コードページ		51 **	QRCCDCP51
		1 2 3 5 6 7 10 11 12 13 14 15 16 17 18 22 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 63 64 65 66 70 71 75 76 77 78 79 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94	QRCCDCP##
QR コード クワイエットゾーンなし		オン	QRCCNQZ1
		オフ **	QRCCNQZ0

 \*\* は各パラメータの標準設定値です。


## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション		設定値	コマンド
Data Matrix 初期化			IDMDFT
Data Matrix 読取り許可		有効 **	IDMENA1
		無効	IDMENA0
Data Matrix 読取り文字数	最小	1 **	IDMMIN1
		範囲 1-3116	IDMMIN####
	最大	3116 **	IDMMAX3116
		範囲 1-3116	IDMMAX####
Data Matrix コードページ		51 **	IDMDCP51
		1 2 3 5 6 7 10 11 12 13 14 15 16 17 18 22 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 63 64 65 66 70 71 75 76 77 78 79 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94	IDMDCP##
MaxiCode 初期化			MAXDFT
MaxiCode 読取り許可		有効	MAXENA1
		無効 **	MAXENA0
MaxiCode 読取り文字数	最小	1 **	MAXMIN1
		範囲 1-150	MAXMIN###
	最大	150 **	MAXMAX150
		範囲 1-150	MAXMAX####
Aztec 初期化			AZTDFT
Aztec 読取り許可		有効 **	AZTENA1
		無効	AZTENA0
Aztec 読取り文字数	最小	1 **	AZTMIN1
		範囲 1-3832	AZTMIN####
	最大	3832 **	AZTMAX3832
		範囲 1-3832	AZTMAX####
Aztec シンボル連結		有効 **	AZTAPP1
		無効	AZTAPP0
Aztec コードページ		51 **	AZTDPC51
		1 2 3 5 6 7 10 11 12 13 14 15 16 17 18 22 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 63 64 65 66 70 71 75 76 77 78 79 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94	AZTDPC##
Han Xin 初期化			HX_DFT
Han Xin 読取り許可		有効	HX_ENA1
		無効 **	HX_ENA0
Han Xin 読取り文字数	最小	1 **	HX_MIN1
		範囲 1-7833	HX_MIN####
	最大	7833 **	HX_MAX7833
		範囲 1-7833	HX_MAX####
Dot Code 初期化			DOTDFT
Dot Code 読取り許可		有効	DOTENA1
		無効 **	DOTENA0
Dot Code 読取り文字数	最小	1 **	DOTMIN1

 \*\* は各パラメータの標準設定値です。

## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション		設定値	コマンド
		範囲 1-2400	DOTMIN####
	最大	2400 **	DOTMAX2400
		範囲 1-2400	DOTMIN####
Grid Matrix 初期化			GMXDFT
Grid Matrix 読取り許可		有効	GMXENA1
		無効 **	GMXENA0
Grid Matrix 読取り文字数	最小	1 **	GMXMIN1
		範囲 1-2751	GMXMIN##
	最大	2751 **	GMXMAX2751
		範囲 1-2751	GMXMAX####
China Post 初期化			CPCDFT
China Post 読取り許可		有効	CPCENA1
		無効 **	CPCENA0
China Post 読取り文字数	最小	4 **	CPCMIN4
		範囲 2-80	CPCMIN##
	最大	80 **	CPCMAX80
		範囲 2-80	CPCMAX##
Korea Post 初期化			KPCDFT
Korea Post 読取り許可		有効	KPCENA1
		無効 **	KPCENA0
Korea Post 読取り文字数	最小	4 **	KPCMIN4
		範囲 2-80	KPCMIN##
	最大	48 **	KPCMAX48
		範囲 2-80	KPCMAX##
Korea Post チェックデジット		送信する	KPCCHK1
		送信しない **	KPCCHK0
郵便コード (2次元)		無効 **	POSTAL0
		Australian Post	POSTAL1
		British Post	POSTAL7
		Canadian Post	POSTAL30
		Intelligent Mail	POSTAL10
		日本郵便	POSTAL3
		KIX Post	POSTAL4
		Planet Code	POSTAL5
		Postal-4i	POSTAL9
		Postnet	POSTAL6
		Postnet with B and B' Fields	POSTAL11
		InfoMail	POSTAL2
		InfoMail & British Post	POSTAL8
		Intelligent Mail & Postnet with B and B' Fields	POSTAL20
		Postnet & Postal-4i	POSTAL14
		Postnet & Intelligent Mail	POSTAL16
		Postal-4i & Intelligent Mail	POSTAL17
		Postal-4i & Postnet with B and B' Fields	POSTAL19
Planet Code & Postnet	POSTAL12		
Planet Code & Postnet with B and B' Fields	POSTAL18		

 \*\* は各パラメータの標準設定値です。


## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション	設定値	コマンド
	Planet Code & Postal-4i	POSTAL13
	Planet Code & Intelligent Mail	POSTAL15
	Planet Code & Postnet & Postal-4i	POSTAL21
	Planet Code & Postnet & Intelligent Mail	POSTAL22
	Planet Code & Postal-4i & Intelligent Mail	POSTAL23
	Postnet & Postal-4i & Intelligent Mail	POSTAL24
	Planet Code & Postal-4i & Postnet with B and B' Fields	POSTAL25
	Planet Code & Intelligent Mail & Postnet with B and B' Fields	POSTAL26
	Postal-4i & Intelligent Mail & Postnet with B and B' Fields	POSTAL27
	Planet Code & Postal-4i & Intelligent Mail	POSTAL28
	Planet Code & Postal-4i & Intelligent Mail & Postnet with B and B' Fields	POSTAL29
Planet Code チェックデジット	送信する	PLNCKX1
	送信しない **	PLNCKX0
Postnet チェックデジット	送信する	NETCKX1
	送信しない **	NETCKX0
Australian Post 解釈	Bar Output **	AUSINT0
	Numeric N Table	AUSINT1
	Alphanumeric C Table	AUSINT2
	Combination C and T Table	AUSINT3
バーコードオプション		
低品質な 1 次元バーコードの読取り	オフ **	DECLDI0
	オン	DECLDI1
低品質な PDF コードの読取り	オフ **	PDFXPRO
	オン	PDFXPR1
低解像度な PDF コードの読取り	オフ **	PDFDMI0
	オン	PDFDMI1
低品質な Dot Code の読取り	オフ **	DOTEXS0
	オン	DOTEXS1
デコードセキュリティ	セキュリティレベル 0	DECSEC0
	セキュリティレベル 1	DECSEC1
	セキュリティレベル 2 **	DECSEC2
	セキュリティレベル 3	DECSEC3
反転バーコードの読取	反転無効 **	VIDREV0
	反転のみ	VIDREV1
	反転自動検出	VIDREV2
読取り方向	正面 0° **	ROTATN0
	縦 時計回り 90°	ROTATN1
	上下逆 時計回り 180°	ROTATN2
	縦 時計回り 270°	ROTATN3
OCR プログラミング		
OCR 初期化		OCRDFT
OCR 読取り許可	標準表示	OCRENA1

✂ \*\* は各パラメータの標準設定値です。

## 24.4. メニューコマンド (続き)

セクション	設定値	コマンド
	反転表示	OCRENA2
	標準および反転表示	OCRENA3
	無効 **	OCRENA0
OCR 読取り方向	正面 **	ROTATN0
	縦、下から上	ROTATN1
	上下逆	ROTATN2
	縦、上から下	ROTATN3
OCR 事前定義済みテンプレート	パスポート	OCRATS2
	ISBN	OCRATS4
	プライスフィールド	OCRATS8
	MICR E-13B	OCRATS16
	ISBN & カスタム	OCRATS5
	ISBN & プライス	OCRATS12
	ISBN & E-13B	OCRATS20
	ISBN & カスタム & プライス	OCRATS13
	ISBN & カスタム & E-13B	OCRATS21
	ISBN & プライス & E-13B	OCRATS28
	ISBN & カスタム & プライス & E-13B	OCRATS29
	プライス & カスタム	OCRATS9
	プライス & E-13B	OCRATS24
	プライス & カスタム & E-13B	OCRATS25
	E-13B & カスタム	OCRATS17
OCR カスタムテンプレート		OCRTMP##

 \*\* は各パラメータの標準設定値です。

## 25. よくある質問

Q XX ミリ角の QR コードは読取れますか？

Q XX 桁で幅が XX ミリのバーコードは読取れますか？

Q 紙以外に印字されたバーコードは読取れますか？

Q コンベアで流れてくる商品に貼付けられているバーコードは読み取れますか？

Q 曲面に貼付けられたバーコードは読取れますか？

Q バーコードからどのくらい離して読取れますか？

A ユニテックのスキナは、ご購入前に事前のご評価を充分に行なっていただくための無償のお貸し出しを実施しております。バーコードは、データ量、印字サイズ、周辺環境、その他の外的要因によって読取りの精度が変化します。例えばオフィスでは読めたのに倉庫だと読めない（周囲が暗かった）といったこともございます。実際の環境での事前の十分な検証をユニテックは推奨しております。必要な方は以下の評価機貸出フォームをご利用ください。

<http://unitech-japan.co.jp/loanform.html>

Q XX という機器で使用できますか？

Q XX というアプリ、ソフトウェアで使用できますか？

A ユニテックのスキナは、ご購入前に事前のご評価を充分に行なっていただくための無償のお貸し出しを実施しております。動作については、ホストの状態、周辺環境、接続されている周辺機器、その他の内的、外的要因に依存し変化します。実際の環境での事前の十分な検証をユニテックは推奨しております。必要な方は以下の評価機貸出フォームをご利用ください。

<http://unitech-japan.co.jp/loanform.html>

Q 設定バーコードが読取れません。

Q 設定バーコードを読取るとエラー音が鳴ります。

A 本マニュアルの 1 ページ目を参照し、本マニュアルの対象機器かどうかを確認してください。次にターゲットの設定バーコードが掲載されたページを A4 等倍にて印刷して読取れるか確認してみてください。

Q バーコード (QR コード) を読取ったり読取らなかったり不安定です。

Q バーコード (QR コード) の読み取り速度を上げたい。

A スキナの適切に読取れる仕様でバーコード (QR コード) が生成されていない可能性があります。ターゲットの大きさ、幅、文字数などを変更したり、上位の機種に変更したりすることを検討してください。

Q USB ケーブルモデルに別売の RS232 ケーブルを接続して RS232 モデルとして使用できますか？また、その逆は可能ですか？

A いいえ、できません。MS852+ シリーズは USB インタフェースと RS232 インタフェースの任意の切り替えをサポートしておりません。使用環境に沿ったインタフェースを持ったモデルをご選択ください。

Q USB モデルに付属している USB ケーブルの長さを教えてくださいませんか？

A 2.0 メートル (USB コネクタ含む) です。

## 25. よくある質問（続き）

Q USB ケーブルの USB コネクタの形状を教えてくださいませんか？

A タイプ A オスです。また、オプション品として、マイクロ USB ケーブル（製品番号：1550-900084G）もサポートしています。マイクロ USB コネクタの形状は「タイプ B オス」です。詳細は [2.11. インターフェースケーブル](#)（22 ページ）をご覧ください。

Q RS232 モデルに付属している RS232 ケーブルの長さを教えてくださいませんか？

A [2.11. インターフェースケーブル](#)（22 ページ）をご確認ください。

Q RS232 ケーブルのホスト側コネクタの形状を教えてくださいませんか？

A D-Sub9 ピン メスです。

Q RS232 ケーブルのピン配置を教えてくださいませんか？

A [2.11. インターフェースケーブル](#)（22 ページ）をご確認ください。

Q XX 用にカスタマイズされた RS232 ケーブルまたは変換コネクタを用意してもらえますか？

A 申し訳ございませんがケーブルおよびコネクタの製作は承っておりません。

Q RS232 モデルはホストからの直接給電に対応していますか？

A はい。9 番ピンへの 5V 電源供給に対応しています。

Q バーコードデータ後の自動改行 / 自動実行が行われず、または行われなくなった。(Windows)

A IME が半角直接入力 (IME オフ) になっているか確認してください。「ローマ字入力」や「かな入力」などの文字変換を伴う入力方法では正しく操作が行われません。

Q 液晶画面に表示されたバーコード読取れますか？

A はい、読取れます。バーコードがくっきり表示されており、画面輝度（明るさ）が最大になっている必要があります。読み取りにくい場合は、[10.13. スマートフォン画面読取りモード](#)（86 ページ）を使用してください。

※すべての環境での読取りを保証しているわけではありません。

Q バーコード読取後の改行を無効化できますか？

Q バーコード読取後の改行を Tab に変更できますか？

A [13. プリフィックス / サフィックス](#)（97 ページ）を使用して設定するか、[13.8. クイック設定](#)（102 ページ）をご利用ください。

Q バーコードの誤読対策を行えますか？

A 各バーコードの検査回数（1 次元シンボルのみ）をご確認ください。

## 25. よくある質問（続き）

Q 特定のバーコードを読取ることができません

A ターゲットのバーコードの種類・規格を確認し、[21. 標準設定値一覧](#)（257 ページ）の該当するバーコードの設定項目の標準値を確認してください。標準では読取りが無効になっていたり、読取り桁数が制限されていたりする場合がありますので、適切な設定に変更してください。バーコードの規格が分からない場合は、バーコードの制作元へ確認してください。

Q 照準パターンの中心のバーコードを優先的に読み取らせることができますか？

A マニュアルトリガーをご利用中の場合は [10.6.1. シングルコードセンタリング](#)（72 ページ）または、[10.6.2. カスタムセンタリング](#)（73 ページ）を設定してください。プレゼンテーションモードの場合は、[10.7.3. プレゼンテーションセンタリング](#)（77 ページ）を設定してください。

Q JAN-13 コードを読むと先頭の「0」が消えてしまいます

A [16.17.3. ゼロ先頭の JAN コード](#)（175 ページ）を「[UPC-A を JAN-13 に変換する](#)」に設定してください。

Q 書籍用二段バーコードを 1 回のスキャンで読み取りできますか？

A [12. データ出力順序](#)（94 ページ）で設定してください。設定例として書籍用二段バーコードの読取り方法が掲載されています。

Q JAN コードの右の 3 桁または 5 桁のコードも一回のスキャンで読み取りできますか？

A [16.17.5. JAN-13 アドオンコード](#)（176 ページ）または [16.18.4. JAN-8 アドオンコード](#)（181 ページ）のアドオンコードを適切に設定してください。

Q データの開始と終了に A～D のアルファベットが送信されてしまいます

A [16.3.3. NW-7 スタート・ストップキャラクタ](#)（130 ページ）を「[送信しない](#)」に設定してください。ターゲットのバーコードが Codabar（NW-7）以外の場合は、[15. データ編集](#)（108 ページ）を使用して設定してください。

Q GS1 系のバーコードを括弧付きで送信できますか？

A スキャナは AI の編集に対応していないためできません。

Q Excel に送信したら文字化けしてしまいます（E+ が表示される）

A セルの書式設定を適切なもの（数値や文字列など）へ変更してください。

Q 特定の記号が異なる記号で表示されてしまいます

A [8.2. キーボードレイアウト](#)（41 ページ）を「[日本](#)」に設定してください。

Q 日本語を含んだ QR コード内のデータを文字化けせずに送信できますか？

A [20. CJK コントロール](#)（254 ページ）または [23. USB 仮想 COM エミュレーション](#)（270 ページ）をご利用ください。

## 25. よくある質問（続き）

Q CJK コントロールを使用した日本語出力とデータ編集を同時に使用できますか？

A はい、使用できます。

Q 音量最大でもビープ音が聞こえない環境で、視覚で読取確認する方法はありますか？

A 10.4.6. LED の明滅（読取り成功）（69 ページ）と、10.4.7. ビープ音の鳴動回数（読取り成功）（70 ページ）を組み合わせご利用ください。

Q バーコードの自動読取りを行えますか？（ハンドフリー動作）

A 10.7. プレゼンテーションモード（75 ページ）または、10.8. ストリーミングプレゼンテーションモード（79 ページ）をご利用ください。スキャナは、ハンドフリースタンド（製造番号：5200-900010G）と組み合わせて、ハンドフリーで使用することができます。

※ハンドフリースタンドと組み合わせた場合でも設定は必要です。

Q データの XX 文字目から XX 文字目だけ送信できますか？

A 15. データ編集（108 ページ）で設定してください。

Q ホストからスキャナをコントロールできますか？

A 9.1. RS232 シリアルポート（57 ページ）または 23. USB 仮想 COM エミュレーション（270 ページ）を使用したコントロールが可能です。ホストからコマンドでトリガー操作を行うには 10.9. ホストトリガーモード（80 ページ）を参照してください。ホストからコマンドで各種設定を変更するには 24. シリアルプログラミングコマンド（275 ページ）を参照してください。

Q MS852+ のメーカー標準保証期間を教えてください。

A 3 年間です。

Q 修理を依頼したい

A インターネットブラウザで以下の場所へアクセスし、同ページにリンクされている「修理依頼書」をダウンロードしてください。2 ページ目に修理の依頼方法が掲載されています。

<http://www.unitech-japan.co.jp/service/>

## 26. 各種ドライバ、ソフトウェア

以下のドライバ、ソフトウェア群は常に最新とは限りません。最新のドライバやソフトウェアは、Honeywell社の <https://hsmftp.honeywell.com/> よりダウンロードすることができます。ダウンロードを行うには無料のアカウント登録(英語)が必要です。登録方法等について、弊社ではサポートできかねますのでご了承ください。

各ドライバ、ソフトウェアの最新版は、<https://hsmftp.honeywell.com/> > Barcode Scanners > Software 以下からダウンロード可能です。(下記、「または、」以降参照)

### 26.1. EzConfig Cloud for Scanning

<http://www.unitech-japan.co.jp/public/download/MS852Plus/SG/EZConfig-Scanning v4 v4.5.44.zip>

または、Tools and Utilities > EZConfig for Scanning > Current

### 26.2. USB 仮想 COM ドライバ

<http://www.unitech-japan.co.jp/public/download/MS852Plus/SG/HSM USB Serial Driver version 3.5.25.zip>

または、Drivers > Honeywell Scanning (HSM) USB Serial Driver > Current

### 26.3. OPOS Suite

[http://www.unitech-japan.co.jp/public/download/MS852Plus/SG/Honeywell\\_OPOS\\_Suite V.1.14.1.91.zip](http://www.unitech-japan.co.jp/public/download/MS852Plus/SG/Honeywell_OPOS_Suite V.1.14.1.91.zip)

または、Drivers > Honeywell OPOS Suite > Current

### 26.4. POS4NET Suite

[http://www.unitech-japan.co.jp/public/download/MS852Plus/SG/Honeywell\\_POS4NET\\_Suite V.1.14.1.91.zip](http://www.unitech-japan.co.jp/public/download/MS852Plus/SG/Honeywell_POS4NET_Suite V.1.14.1.91.zip)

または、Drivers > Honeywell POS4NET Suite > Current

### 26.5. JavaPos Suite

[http://www.unitech-japan.co.jp/public/download/MS852Plus/SG/Honeywell\\_JavaPOS\\_Suite\\_x64\\_V.1.14.1.91.zip](http://www.unitech-japan.co.jp/public/download/MS852Plus/SG/Honeywell_JavaPOS_Suite_x64_V.1.14.1.91.zip)

または、Drivers > Honeywell JPOS Suite > Current

2021年7月7日現在 最新

## 27. シンボルチャート

✎ **m**は、AIM modifier characterを表しています。AIM modifier characterに関する詳細は、「International Technical Specification」の「Symbology Identifiers」を参照してください。

✎ 特定のシンボルのプリフィックス/サフィックスの入力は、汎用（全シンボル、99）入力より優先されます。

コード ID と AIM ID の使用に関する情報については、[15. データ編集](#)（108 ページ）および [13. プリフィックス/サフィックス](#)（97 ページ）を参照してください。

### 27.1. 1 次元シンボル

シンボル	AIM		コード	
	ID	m	ID	16 進
全シンボル				99
Codabar	]Fm	0-1	a	61
Code 11	]H3		h	68
Code 128	]Cm	0、1、2、4	j	6A
Code 32 (PARAF)	]X0		<	3C
Code 39 (フル ASCII をサポート)	]Am		b	62
TLC 39	]L2	0、1、3、4、5、7	T	54
Code 93/93i	]Gm	0-9、A-Z、a-m	i	69
EAN/JAN	]Em	0、1、3、4	d	64
EAN/JAN-13 (Bookland EAN を含む)	]E0		d	64
EAN/JAN-13 アドオン	]E3		d	64
拡張クーポンコード付き EAN-13	]E3		d	64
EAN/JAN-8	]E4		D	44
EAN/JAN-8 アドオン	]E3		D	44
GS1 DataBar Omnidirectional	]em	0	y	79
GS1 DataBar Limited	]em		{	7B
GS1 DataBar Expanded	]em		}	7D
GS1-128	]C1		l	49
China Post (Hong Kong 2 of 5)	]X0		Q	51
Interleaved 2 of 5	]lm	0、1、3	e	65
Matrix 2 of 5	]X0		m	6D
NEC 2 of 5 (COOP 2 of 5)	]X0		Y	59
IATA 2 of 5	]Rm	0、1、3	f	66
Industrial 2 of 5	]S0		f	66
MSI	]Mm	0、1	g	67
Telepen	]Bm		t	74
UPC		0、1、2、3、8、9、A、B、C		
UPC-A	]E0		c	63
UPC-A アドオン	]E3		c	63
拡張クーポンコード付き UPC-A	]E3		c	63
UPC-E0	]E0		E	45
UPC-E アドオン	]E3		E	45
UPC-E1	]X0		E	45

### 27.1. 1次元シンボル (続き)

シンボル	AIM		コード	
	ID	m	ID	16進
コードID				5C80
AIM ID				5C81
バックスラッシュ				5C5C

### 27.2. 2次元シンボル

シンボル	AIM		コード	
	ID	m	ID	16進
全シンボル				99
Aztec コード	]zm	0-9、A-C	z	7A
Han Xin コード	]X0		H	48
Codablock A	]O6	0、1、4、5、6	V	56
Codablock F	]Om	0、1、4、5、6	q	71
Code 49	]Tm	0、1、2、4	l	6C
Data Matrix	]dm	0-6	w	77
GS1	]em	0-3	y	79
GS1 合成シンボル	]em	0-3	y	79
GS1 DataBar Omnidirectional	]em	0-3	y	79
MaxiCode	]Um	0-3	x	78
PDF417	]Lm	0-2	r	72
MicroPDF417	]Lm	0-5	R	52
QR コード	]Qm	0-6	s	73
Micro QR コード	]Qm		s	73

### 27.3. 郵便シンボル

シンボル	AIM		コード	
	ID	m	ID	16進
全シンボル				99
Australian Post	]X0		A	41
British Post	]X0		B	42
Canadian Post	]X0		C	43
China Post	]X0		Q	51
InfoMail	]X0		,	2c
Intelligent Mail Bar Code	]X0		M	4D
日本郵便コード	]X0		J	4A
KIX (Netherlands) Post	]X0		K	4B
Korea Post	]X0		?	3F
Planet Code	]X0		L	4C
Postal-4i	]X0		N	4E
Postnet	]X0		P	50

## 28. ASCII 変換チャート

キーボードアプリケーションでは、ASCII 制御文字は、以下に示すように、3つの異なる方法で表すことができます。「CTRL+X」機能は、OS とアプリケーションに依存します。以下の表は、いくつかの一般的に使用される Microsoft の機能を示しています。この表は、US スタイルキーボードに適用されます。いくつかの文字は、使用している国コードや PC の地域設定によって異なりますのでご注意ください。

印刷不能文字			キーボード「Ctrl」+ASCII モード	
10 進	16 進	文字	Ctrl+X モード オフ (KBDCAS0)	Ctrl+X モード オン (KBDCAS2)
0	00	NUL	予約	CTRL + @
1	01	SOH	Enter (テンキー)	CTRL + A
2	02	STX	Caps Lock	CTRL + B
3	03	ETX	Alt メーク	CTRL + C
4	04	EOT	Alt ブレーク	CTRL + D
5	05	ENQ	Ctrl メーク	CTRL + E
6	06	ACK	Ctrl ブレーク	CTRL + F
7	07	BEL	Enter / Return	CTRL + G
8	08	BS	(Apple メーク) ←	CTRL + H
9	09	HT	Tab	CTRL + I
10	0A	LF	(Apple ブレーク) ↓	CTRL + J
11	0B	VT	Tab	CTRL + K
12	0C	FF	Delete	CTRL + L
13	0D	CR	Enter / Return	CTRL + M
14	0E	SO	Insert	CTRL + N
15	0F	SI	Esc	CTRL + O
16	10	DLE	F11	CTRL + P
17	11	DC1	Home	CTRL + Q
18	12	DC2	PrtScn	CTRL + R
19	13	DC3	Backspace	CTRL + S
20	14	DC4	Back Tab	CTRL + T
21	15	NAK	F12	CTRL + U
22	16	SYN	F1	CTRL + V
23	17	ETB	F2	CTRL + W
24	18	CAN	F3	CTRL + X
25	19	EM	F4	CTRL + Y
26	1A	SUB	F5	CTRL + Z
27	1B	ESC	F6	CTRL + [
28	1C	FS	F7	CTRL + \
29	1D	GS	F8	CTRL + ]
30	1E	RS	F9	CTRL + ^
31	1F	US	F10	CTRL + -
127	7F	DEL	Enter (テンキー)	

🔪 **メーク**は、キーを押しっぱなしにします。**ブレーク**は、押しっぱなしのキーを解放します。

印刷可能文字								
10 進	16 進	文字	10 進	16 進	文字	10 進	16 進	文字
32	20	スペース	64	40	@	96	60	`
33	21	!	65	41	A	97	61	a

## 28. ASCII 変換チャート (続き)

印刷可能文字								
10 進	16 進	文字	10 進	16 進	文字	10 進	16 進	文字
34	22	“	66	42	B	98	62	b
35	23	#	67	43	C	99	63	c
36	24	\$	68	44	D	100	64	d
37	25	%	69	45	E	101	65	e
38	26	&	70	46	F	102	66	f
39	27	‘	71	47	G	103	67	g
40	28	(	72	48	H	104	68	h
41	29	)	73	49	I	105	69	i
42	2A	*	74	4A	J	106	6A	j
43	2B	+	75	4B	K	107	6B	k
44	2C	,	76	4C	L	108	6C	l
45	2D	-	77	4D	M	109	6D	m
46	2E	.	78	4E	N	110	6E	n
47	2F	/	79	4F	O	111	6F	o
48	30	0	80	50	P	112	70	p
49	31	1	81	51	Q	113	71	q
50	32	2	82	52	R	114	72	r
51	33	3	83	53	S	115	73	s
52	34	4	84	54	T	116	74	t
53	35	5	85	55	U	117	75	u
54	36	6	86	56	V	118	76	v
55	37	7	87	57	W	119	77	w
56	38	8	88	58	X	120	78	x
57	39	9	89	59	Y	121	79	y
58	3A	:	90	5A	Z	122	7A	z
59	3B	;	91	5B	[	123	7B	{
60	3C	<	92	5C	\	124	7C	
61	3D	=	93	5D	]	125	7D	}
62	3E	>	94	5E	^	126	7E	~
63	3F	?	95	5F	_			

拡張 ASCII 文字								
10 進	16 進	文字	10 進	16 進	文字	10 進	16 進	文字
128	80	€	171	AB	«	214	D6	Ö
129	81		172	AC	¬	215	D7	×
130	82	‘	173	AD		216	D8	∅
131	83	ƒ	174	AE	®	217	D9	Ù
132	84	„	175	AF	˘	218	DA	Ú
133	85	…	176	B0	°	219	DB	Û
134	86	†	177	B1	±	220	DC	Ü
135	87	‡	178	B2	²	221	DD	Ý
136	88	ˆ	179	B3	³	222	DE	þ
137	89	‰	180	B4	´	223	DF	ß
138	8A	Š	181	B5	µ	224	E0	à
139	8B	‹	182	B6	¶	225	E1	á
140	8C	Œ	183	B7	·	226	E2	â

## 28. ASCII 変換チャート (続き)

拡張 ASCII 文字								
10 進	16 進	文字	10 進	16 進	文字	10 進	16 進	文字
141	8D		184	B8	˘	227	E3	ã
142	8E	ž	185	B9	´	228	E4	ä
143	8F		186	BA	°	229	E5	å
144	90		187	BB	»	230	E6	æ
145	91	‘	188	BC	¼	231	E7	ç
146	92	’	189	BD	½	232	E8	è
147	93	“	190	BE	¾	233	E9	é
148	94	”	191	BF	¿	234	EA	ê
149	95	•	192	C0	À	235	EB	ë
150	96	–	193	C1	Á	236	EC	ì
151	97	—	194	C2	Â	237	ED	í
152	98	~	195	C3	Ã	238	EE	î
153	99	™	196	C4	Ä	239	EF	ï
154	9A	š	197	C5	Å	240	F0	ð
155	9B	›	198	C6	Æ	241	F1	ñ
156	9C	œ	199	C7	Ç	242	F2	ò
157	9D		200	C8	È	243	F3	ó
158	9E	ž	201	C9	É	244	F4	ô
159	9F	ÿ	202	CA	Ê	245	F5	õ
160	A0		203	CB	Ë	246	F6	ö
161	A1	ı	204	CC	Ì	247	F7	÷
162	A2	¢	205	CD	Í	248	F8	ø
163	A3	£	206	CE	Î	249	F9	ù
164	A4	¤	207	CF	Ï	250	FA	ú
165	A5	¥	208	D0	Ð	251	FB	û
166	A6	ı	209	D1	Ñ	252	FC	ü
167	A7	§	210	D2	Ò	253	FD	ý
168	A8	¨	211	D3	Ó	254	FE	þ
169	A9	©	212	D4	Ô	255	FF	ÿ
170	AA	ª	213	D5	Õ			

## 29. ISO 2022/ISO 646 文字コード変換

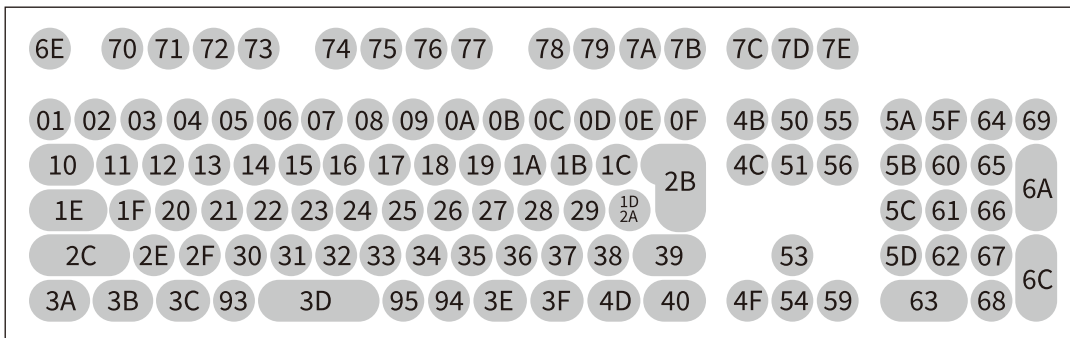
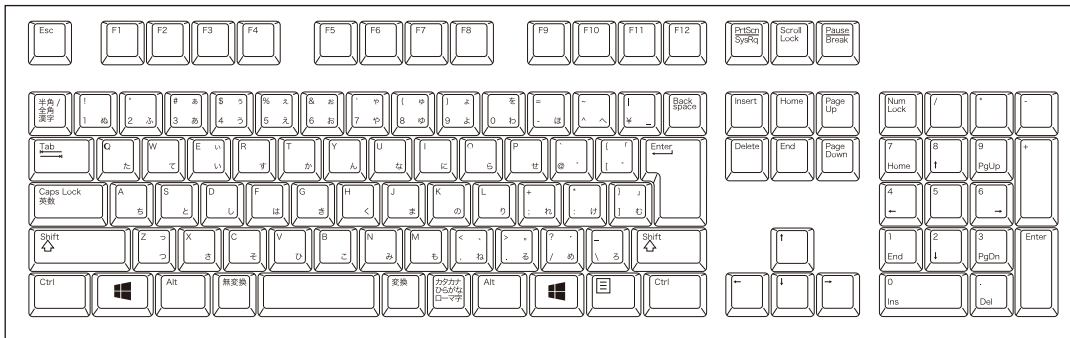
コードページは、文字コードのマッピングを文字に定義します。受信したデータが適切な文字を表示しない場合、スキャンされるバーコードが、ホストプログラムが期待しているものと異なるコードページを使用して作成されている可能性があります。この場合、バーコードが作成されたコードページを選択します。データは適切に表示されます。

国	規格	キーボード	コードページ
アメリカ (標準 ASCII)	ISO/IEC 646-IRV	n/a	1
自動文字変換	ISO/IEC 2022	n/a	2 (標準値)
バイナリコードページ	n/a	n/a	3
標準の「自動文字変換」では、Code 128、Code 39 および Code 93 については、以下のコードページオプションを選択します。			
アメリカ	ISO/IEC 646-06	0	1
カナダ	ISO/IEC 646-121	54	95
カナダ	ISO/IEC 646-122	18	96
日本	ISO/IEC 646-14	28	98
中国	ISO/IEC 646-57	92	99
イギリス	ISO/IEC 646-04	7	87
フランス	ISO/IEC 646-69	3	83
ドイツ	ISO/IEC 646-21	4	84
スイス	ISO/IEC 646-CH	6	86
スウェーデン / フィンランド (拡張 Annex C)	ISO/IEC 646-11	2	82
アイルランド	ISO/IEC 646-207	73	97
デンマーク	ISO/IEC 646-08	8	88
ノルウェー	ISO/IEC 646-60	9	94
イタリア	ISO/IEC 646-15	5	85
ポルトガル	ISO/IEC 646-16	13	92
スペイン	ISO/IEC 646-17	10	90
スペイン	ISO/IEC 646-85	51	91

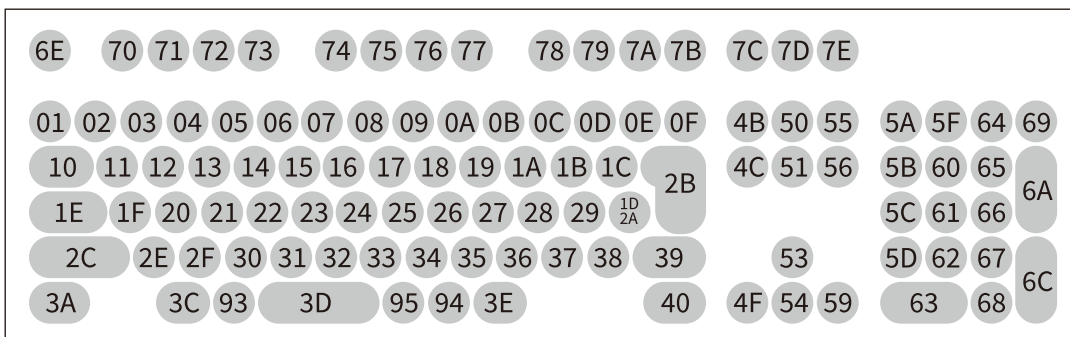
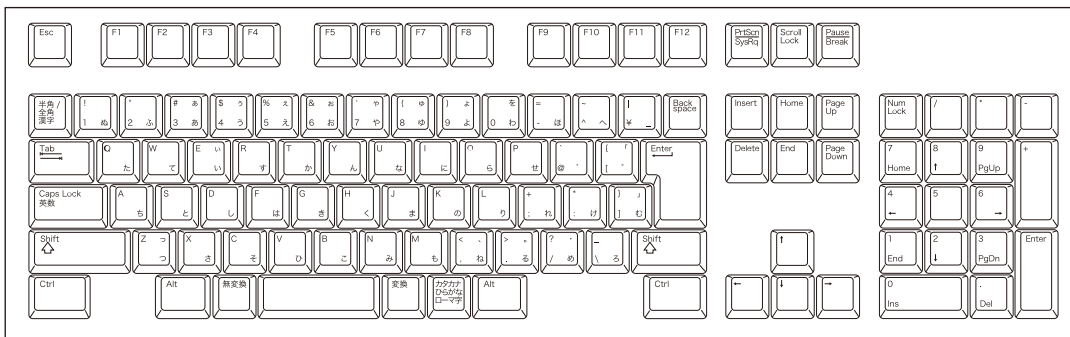
29. ISO 2022/ISO 646 文字コード変換 (続き)

10 進数			35	36	64	91	92	93	94	96	123	124	125	126
16 進数			23	24	40	5B	5C	5D	5E	60	7B	7C	7D	7E
US	0	1	#	\$	@	[	\	]	^	`	{		}	~
CA	54	95	#	\$	à	â	ç	ê	î	ô	é	ù	è	û
CA	18	96	#	\$	à	â	ç	ê	É	ô	é	ù	è	û
JP	28	98	#	\$	@	[	¥	]	^	`	{		}	-
CN	92	99	#	¥	@	[	\	]	^	`	{		}	-
GB	7	87	£	\$	@	[	\	]	^	`	{		}	~
FR	3	83	£	\$	à	°	ç	§	^	μ	é	ù	è	..
DE	4	84	#	\$	§	Ä	Ö	Ü	^	´	ä	ö	ü	ß
CH	6	86	ù	\$	à	é	ç	ê	î	ô	ä	ö	ü	û
SE/FI	2	82	#	¤	É	Ä	Ö	Å	Ü	é	ä	ö	å	ü
DK	8	88	#	\$	@	Æ	Ø	Å	^	`	æ	ø	å	~
NO	9	94	#	\$	@	Æ	Ø	Å	^	`	æ	ø	å	..
IE	73	97	£	\$	Ó	É	Í	Ú	Á	ó	é	í	ú	á
IT	5	85	£	\$	§	°	ç	é	^	ù	à	ò	è	ì
PT	13	92	#	\$	§	Ã	Ç	Õ	^	`	ã	ç	õ	°
ES	10	90	#	\$	§	í	Ñ	¿	^	`	°	ñ	ç	~
ES	51	91	#	\$	·	í	Ñ	Ç	¿	`	´	ñ	ç	..
国	キーボード	キーボード	ISO/IEC 646 文字コード変換											

# 30. キーボードのキー参照



109 日本語キーボード



106 日本語キーボード



## 31. プログラミングチャート



K0K

0



K1K

1



K2K

2



K3K

3



K4K

4

31. プログラミングチャート (続き)



K5K

5



K6K

6



K7K

7



K8K

8



K9K

9

31. プログラミングチャート (続き)



KAK

A



KBK

B



KCK

C



KDK

D



KEK

E



KFK

F

### 31. プログラミングチャート (続き)



MNUSAV.

保存



MNUABT.

破棄



RESET\_.

リセット

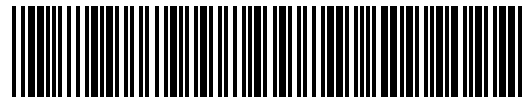
## 32. テストバーコード

Code 39 (チェックデジット付き)



UNITECHE

Code 39 (フル ASCII)



フル ASCII 有効: \_abc012

フル ASCII 無効: %O+A+B+C012

Code 128



Unitech128

GS1-128



(01)12345678901231(30)12(17)191231

UPC-A



012345678905

✎ GS1 系バーコードの括弧の出力には対応しておりません。

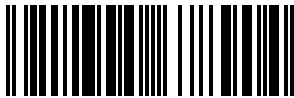
## 32. テストバーコード (続き)

UPC-E0



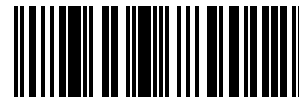
01234565

JAN-13



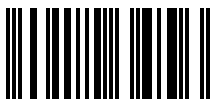
4912345678904

JAN-13 (先頭 0)



0123456789012

JAN-8



49123456

JAN-13 (5桁アドオン)



4912345678904 12345

✎ GS1 系バーコードの括弧の出力には対応しておりません。

## 32. テストバーコード (続き)

JAN-13 (2桁アドオン)



Codabar (チェックデジット付き)



Interleaved 2 of 5 (チェックデジット付き)



GS1 Databar Omnidirectional



GS1 Databar 多層型



✎ GS1系バーコードの括弧の出力には対応していません。

## 32. テストバーコード (続き)

GS1 Databar Limited



GS1 Databar Limited (台紙が黒)

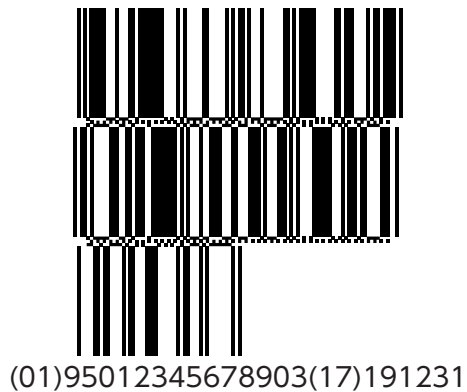


✎ このバーコードはバーが白でスペースが黒の反転バーコードではありません。これは、バーは黒でスペースは白の標準バーコードの左右に空白（クワイエットゾーン）を加えたバーコードです。GS1 Databar の反転は規格外です。

GS1 Databar Expanded



GS1 Databar Expanded 多層型



日本郵便カスタマバーコード



✎ GS1 系バーコードの括弧の出力には対応していません。

## 32. テストバーコード (続き)

合成シンボル CC-A  
with GS1 Databar Limited



(01)04512345678906  
(10)123ABC(17)191231

✎ このバーコードはバーが白でスペースが黒の反転バーコードではありません。これは、バーは黒でスペースは白の標準バーコードの左右に空白（クワイエットゾーン）を加えたバーコードです。GS1 Databar の反転は規格外です。

合成シンボル CC-A (台紙が黒)  
with GS1 Databar Limited



(01)04512345678906  
(10)123ABC(17)191231

PDF417



PDF417 SAMPL CODE 123

Micro PDF417



MicroPDF417 SAMPLE CODE ABC123

✎ GS1 系バーコードの括弧の出力には対応しておりません。

## 32. テストバーコード (続き)

Data Matrix



Data Matrix Sample Code Regular

Data Matrix (反転)



Data Matrix Sample Code Reverse

QR コード



QR Code Sample Normal <https://www.ute.com/jp>

✎ 文字列が正しく表示されない場合は [8.2. キーボードレイアウト](#) (41 ページ) を見直してください。

✎ 文字列が正しく表示されない場合は [8.2. キーボードレイアウト](#) (41 ページ) を見直してください。

QR コード (反転)



QR Code Sample Reverse <https://www.ute.com/jp>

✎ GS1 系バーコードの括弧の出力には対応していません。

## 32. テストバーコード (続き)

マイクロ QR コード



Micro QR Code

Aztec コード



Aztec Code Sample Code

✎ GS1 系バーコードの括弧の出力には対応していません。